

令和元年度

川崎市健康安全研究所年報

第7号

(通巻第55号)



KAWASAKI CITY

川崎市健康安全研究所

(発行：令和2年度)

はじめに

昭和 27（1952）年川崎市中央保健所内に設置された川崎市立衛生試験所は、昭和 45（1970）年川崎区大島にて川崎市衛生研究所となり、平成 25（2013）年川崎区殿町国際戦略拠点キングスカイフロント（Kawasaki INnovation Gateway at SKYFRONT）の一画に新築された川崎生命科学・環境研究センター（Life Science Environmental Research Center：LiSE 通称「ライズ」）へ移転し、名称を「川崎市健康安全研究所」と改め、令和元（2019）年度で 6 年を経ました。空地だらけで強い空っ風が吹いていたこの一角も、国立医薬品研究所をはじめ多くの研究機関が集まり、「町」としての体をなしてきました。

キングスカイフロントに集まった多くの施設・機関は「イノベーション」をキーワードに活発に研究・開発活動を行っていますが、その中で私たち川崎市健康安全研究所は、「市民の健康と安全を守る」をキーワードとして、公衆衛生にかかわる幅広い研究調査を行う公的研究機関として日常的な業務を着実にを行いながら、新たな公衆衛生に資する知見を生み出す研究を継続して行っていく所存です。

川崎市健康安全研究所は新しいスタイルの地方衛生研究所として、各方面から視察・見学を頂いておりますが、令和元年度は 27 件 440 名、一般市民、専門分野のみならず学生や生徒の実習の一環として、また海外からの研修（3 件、26 名）など、多くの方々にお出で頂き、当研究所及び地方衛生研究所というところが普段どのようなことをやっているかということについて、御紹介を続けています。恒例となった「キングスカイフロント夏の科学イベント」では、キングスカイフロント全体のイベントとなり、今年は約 2500 人の親子連れや孫連れの皆様に楽しんで頂きました。

業務実績として、企画調整部門においては平成 25（2013）年度から発足した内部評価委員会・外部評価委員会・倫理審査委員会などの動きが記載されていますが、研究に当たってこれらの評価・審査は「研究を行う者が受けるべきもの」としてスムーズに行われるようになりました。食品 GLP 業務については、川崎市の収去施設・検査施設の内部点検を行っています。また、本市における疫学調査研究の強化のため、全国に先駆けて発足させた実地疫学専門家養成プログラム・川崎版（Field Epidemiologist Training Program- Kawasaki：FETP-K）も、川崎市保健所、保健所支所などにおける疫学調査・感染症対策にかかわる人材が育ち、現場で活躍をするようになってきました。川崎市立病院との連携による、臨床研修生の当研究所見学が定期的に行えるようになり、中には約 1 か月間を当所で公衆衛生部門の研修を行う臨床研修生も出てきました。

これらの研究所の機能強化と実行、進展は着実に進められておりますが、川崎市の関係各位・各部署の御理解と御協力、各地方衛生研究所等との連携、そして市民の方々の御理解の賜物であり、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

研究所職員諸君が獅子奮迅の努力を続けていることを本年も付記させていただくとともに、当研究所が、川崎市民の健康と安全、ひいては我が国そして世界の人々のための公衆衛生の向上に貢献できるよう、そしてその様子を引き続き皆様にお伝えすることができるよう、職員一同精進を続けることを本年も改めてここに誓うものです。

川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦

歴代所長

福田 諄	昭和	45年	6月	～	昭和	49年	3月
杉原 正造(所長事務取扱)	昭和	50年	4月	～	昭和	50年	7月
本庄 茂敏	昭和	50年	8月	～	昭和	51年	10月
依田 源次(所長事務取扱)	昭和	51年	10月	～	昭和	52年	3月
長田 信	昭和	52年	4月	～	昭和	57年	1月
中村 武雄	昭和	57年	2月	～	昭和	61年	3月
和田 明	昭和	61年	4月	～	平成	2年	3月
吉澤 秀明	平成	2年	4月	～	平成	5年	3月
原田 忠彦	平成	5年	4月	～	平成	6年	3月
大村 敏郎	平成	6年	4月	～	平成	9年	3月
安藤 正義	平成	9年	4月	～	平成	11年	3月
佐藤 欣弥	平成	11年	4月	～	平成	13年	3月
黒澤 登	平成	13年	4月	～	平成	17年	3月
小川 正之	平成	17年	4月	～	平成	20年	3月
丸田 茂貴	平成	20年	4月	～	平成	22年	3月
妙摩 博	平成	22年	4月	～	平成	24年	3月
岡部 信彦	平成	24年	4月	～			

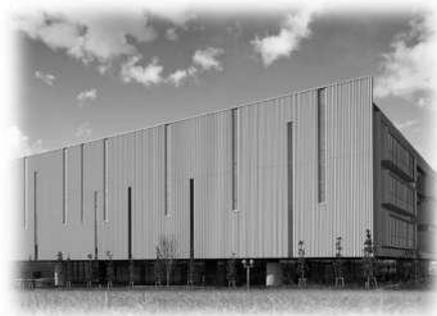
川崎市衛生研究所

(昭和45年6月 川崎市衛生試験所から名称変更・移転)



川崎市健康安全研究所

(平成25年3月 川崎市衛生研究所から名称変更・移転)



目次

第1章 概要

1 沿革	1
2 施設概要	2
(1) 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)施設概要	2
(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について	2
(3) 健康安全研究所施設概要	3
3 組織	4
(1) 組織と業務	4
(2) 事務分掌	5
(3) 人員配置	5
4 予算及び決算	6
5 学会参加並びに視察対応等の実績	7
(1) 学会・研究会等出席実績	7
(2) 講習会・研修会等受講実績	9
(3) 会議等出席実績	12
(4) 講師派遣実績	17
(5) 研修指導実績	19
(6) 視察・見学受け入れ実績	21
(7) 研修報告会開催実績	23
(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2019」への出展	24

第2章 業務実績

1 企画調整部門	25
(1) 企画調整担当	25
(2) 感染症情報センター担当	27
2 理化学部門	32
(1) 食品担当	32
(2) 水質・環境担当	36
(3) 残留農薬・放射能担当	40
3 微生物部門	59
(1) 消化器・食品細菌担当	59
(2) 呼吸器・環境細菌担当	64
(3) ウイルス・衛生動物担当	66

第3章 試験検査

1 月別検査件数	71
2 依頼別・項目別検査件数	74
3 食品別検査項目内訳	79
(1) 食品別検査項目内訳(理化学検査)	79
(2) 食品別検査項目内訳(食品細菌検査)	80
4 水質別検査項目内訳	81

第4章 調査研究

1 令和元年度調査研究課題一覧	82
2 調査研究報告等実績一覧	84
(1) 令和元年度学会発表実績(口演発表)	84
(2) 令和元年度学会発表実績(示説発表)	85
(3) 令和元年度学会発表実績(誌上発表)	86
(4) 令和元年度論文掲載実績	86
(5) 令和元年度行政報告等実績	88
(6) 令和元年度その他執筆実績	89
(7) 令和元年度表彰等受賞実績	89
3 調査研究報告	90

第5章 職員に関する事項

1 人事記録	95
2 職員名簿	96

【第1章 概要】

1 沿革

年月	事項
昭和27.1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所が設置される。庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用。
昭和27.2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により「庶務係」及び「試験係」が設置される。
昭和36.7	市内に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望に応じて、川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始。
昭和36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
昭和37.9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
昭和40.4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
昭和42.7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
昭和44.4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
昭和44.9	川崎市大島5丁目5番地2(元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地)に庁舎新築起工する。
昭和45.5	新庁舎竣工する。
昭和45.6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日条例第14号)が新たに施行される。(名称変更と設置場所の変更) 川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。 微生物課(①庶務係、②細菌検査係、③臨床検査係、④ウイルス検査係) 理化学課(①食品検査係、②水質検査係、③環境検査係)
昭和45.6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式が挙行される。
昭和46.3	川崎市衛生研究所条例の一部を改正する条例が公布される。(昭和46年3月23日条例第6号)
昭和46.8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日訓令第14号)が施行される。
昭和46.10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日規則第71号)により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
昭和47.4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治法第252条の19第1項)
昭和48.12	公害研究所が新庁舎建設に伴い移転する。
昭和50.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(昭和50年4月1日条例第6号) 川崎市衛生研究所条例施行規則が全面改正施行される。(昭和50年4月1日規則第21号)
昭和50.7	4階に実験室を増築する。
昭和61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元.3	1階に安全実験室を設置する。
平成2.3	電子顕微鏡室を設置する。
平成4.3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
平成4.4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
平成4.5	主査(衛生動物検査担当)及び主査(残留農薬検査担当)を設置する。
平成6.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第13号)
平成6.7	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第6号) 手数料(第7条関係別表)を大幅に改定する。
平成9.5	神奈川県から医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
平成10.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成10年3月24日条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
平成12.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成12年3月24日条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
平成16.2	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成15年12月25日条例第48号)
平成16.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成16年3月24日条例第8号) 川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成18年3月31日条例第34号)
平成20.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成20年3月25日条例第20号)

年月	事項
平成21.4	組織再編により第2類事業所となる。 衛生動物検査部門をウイルス検査部門に統合する。
平成24.4	組織再編により第1類事業所となる。 副所長及び企画調整担当を設置する。 環境検査部門を水質検査部門に統合する。
平成25.2	川崎区殿町3丁目25番13号川崎生命科学・環境研究センター2階に移転する。
平成25.3	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部改正施行される。(名称等の変更) 組織改正により衛生研究所を再編し、健康安全研究所を設置する。 感染症情報センターを健康安全研究所内に設置する。
平成25.4	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部施行される。(手数料の改訂) 企画調整担当課長を設置する。

2 施設概要

(1) 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）施設概要

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE;Life Science and Environment research center)は、市の研究施設である「川崎市健康安全研究所」及び「川崎市環境総合研究所」に加え、民間の研究施設が入居した施設であり、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける、ライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点として建設された。

土地は川崎市、建物は大成建設株式会社が保有し、施設維持管理は大成有楽不動産株式会社が実施するPP(Public Private Partnership)方式が採用されている。

環境に配慮した設計とされており、太陽熱や空気熱を利用した給湯システム、太陽光パネルを用いた電力供給、外壁へのダブルウォール(二重壁)使用による断熱性、メンテナンス性向上等の様々な環境対策が施されている。

表1 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）建物概要

所在地	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-13
敷地面積	6,999.93㎡
建築面積	3,110.63㎡
延床面積	11,406.09㎡(うち健康安全研究所使用部分2329.38㎡)
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
規模	地上4階、塔屋1階(うち健康安全研究所として2階フロアを使用)
竣工年月	2012年12月
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社横浜支店
建物所有	大成建設株式会社
建物維持管理	大成有楽不動産株式会社
主な施設	1F カフェ、防災センター、会議室、書庫、セミナー室等 2F 川崎市健康安全研究所 3F 川崎市環境総合研究所 4F 民間ラボ

(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について

本研究所は平成25年3月、川崎区大島5丁目から、川崎区殿町3丁目の川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階に移転開設し、名称が「川崎市衛生研究所」から「川崎市健康安全研究所」に変更された。

移転時には、企画調整担当の新設に加え、感染症情報の収集・解析・発信を行う感染症情報センター機能を

健康福祉局健康安全室（現在の健康福祉局保健所）から移管するなど、移転開設に併せて研究所機能の強化が図られた。

研究所の役割は、川崎市の衛生行政を支える科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、情報発信、研修指導の4本柱を基盤とし、市民の健康で安全な暮らしを支えることを目的としているほか、実験動物中央研究所をはじめとする殿町地区内外の研究機関との共同研究にも力を注いでいる。

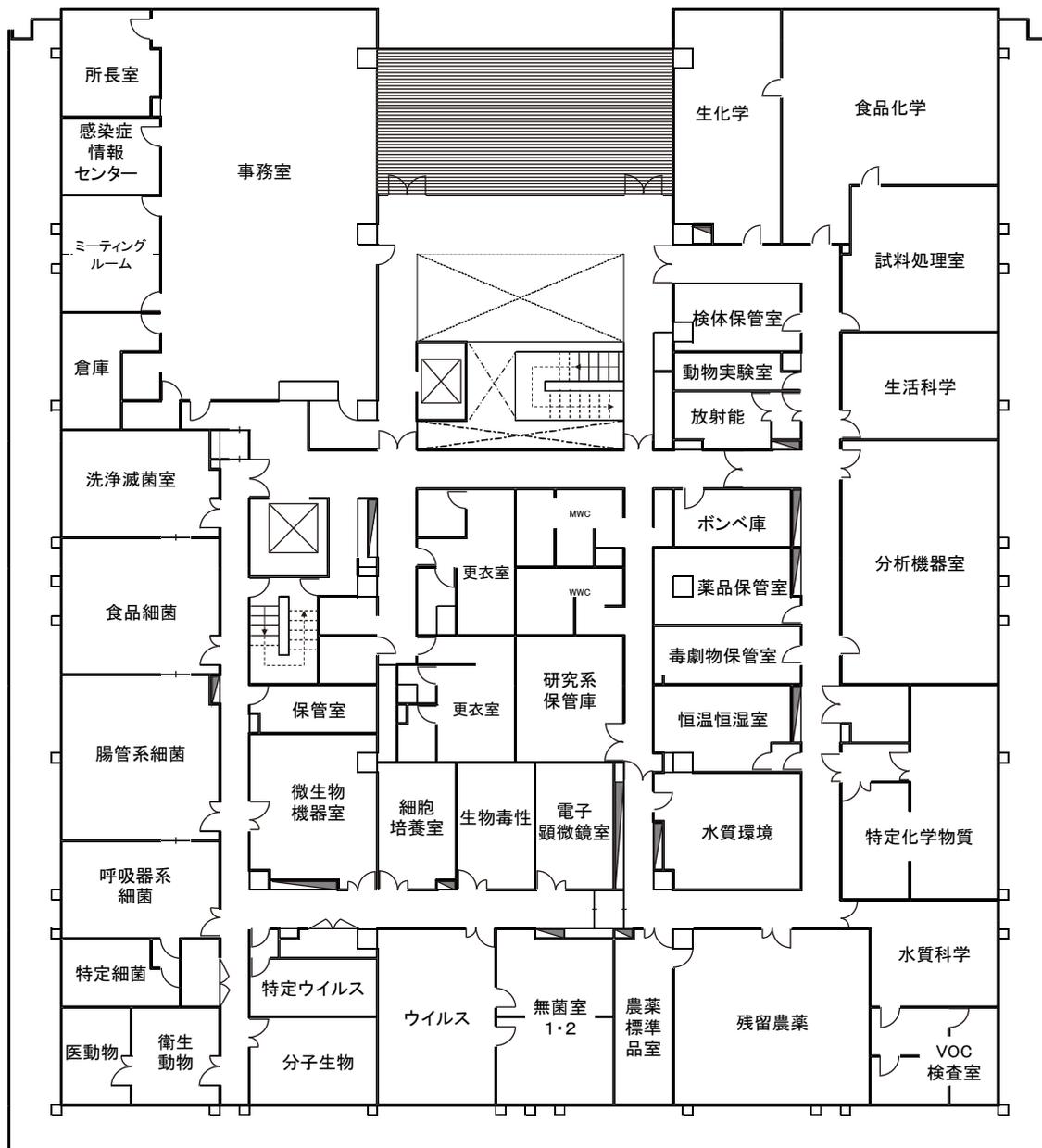
(3) 健康安全研究所施設概要

研究所施設は川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)の2階フロア全体を占め、理化学エリア、微生物エリアの他、事務室及び感染症情報センターの4エリアで構成されている。

旧施設の衛生研究所では、事務担当以外の職員の事務机はそれぞれの検査室に配置されていたが、健康安全研究所では全ての職員について、事務室に事務机を配置し、情報の共有化が図りやすい環境となった。

また、それぞれのエリアではICカードによる入室管理が行われている。特に理化学エリア及び微生物エリアは2次セキュリティのフロアとなっており、また入室の権限についても個人ごとに別々に付与されているため、たとえ職員であっても不要な諸室には入室できないようになっている。

図1 健康安全研究所図面（川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）2階）



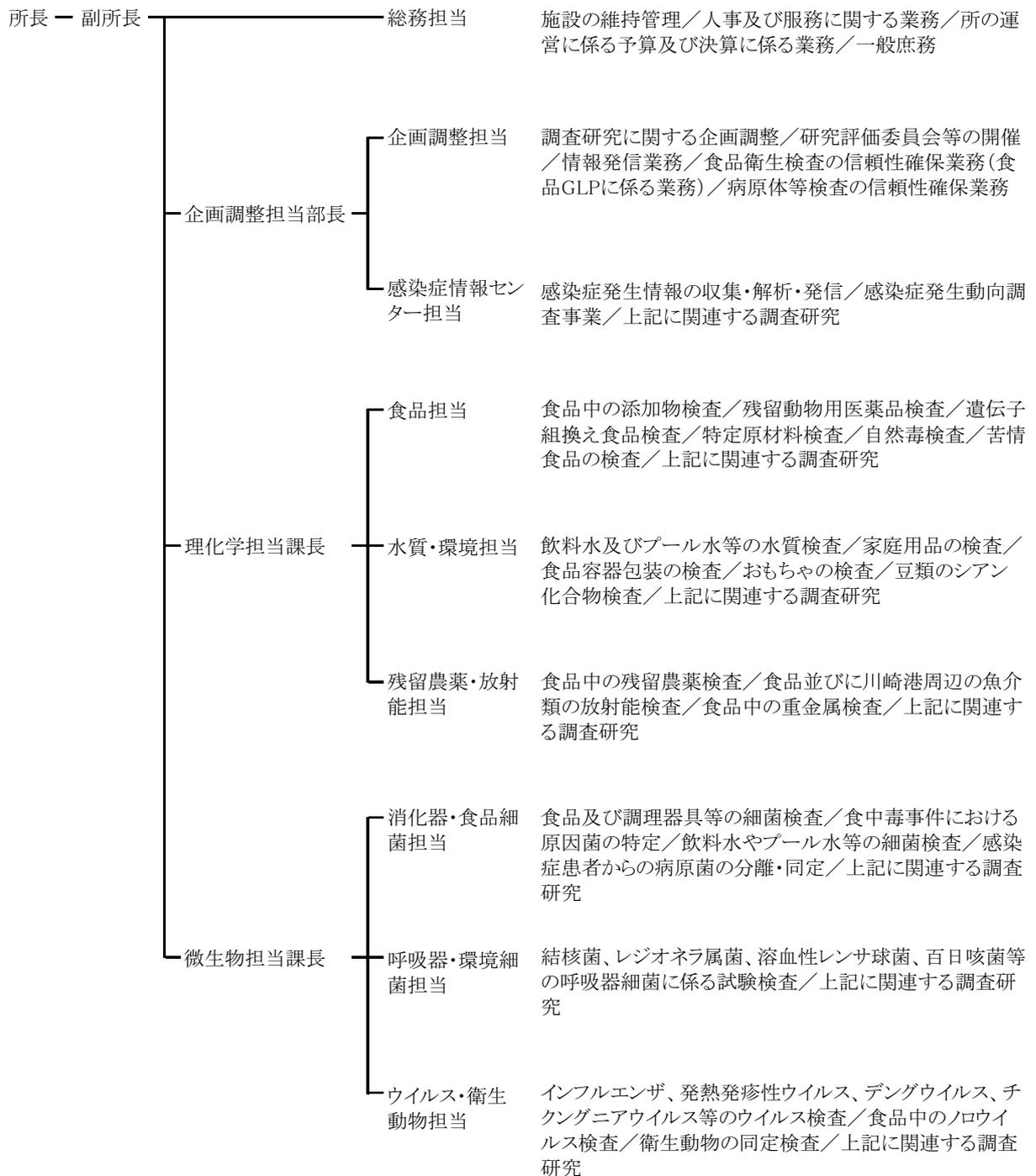
3 組織

(1) 組織と業務

本研究所の組織は、所長のもとに 9 担当で構成されている。

組織体制と各担当の主な業務を図 2 に示す。

図2 組織図



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和 51 年 4 月 30 日規則第 39 号)第 3 条の事務分掌は、次のとおりとする。

健康安全研究所

- ア 所の維持管理に関すること。
- イ 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
- ウ 公衆衛生従事者の研修に関すること。
- エ 感染症情報センターに関すること。
- オ 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
- カ 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
- キ 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
- ク その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

(3) 人員配置

平成 31 年 4 月 1 日現在の人員配置を表 2 に示す。

表2 人員配置

		職種						総数
		医師	一般事務	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学	
所長		1						1
副所長			1					1
総務			4		1			5
企画調整	担当部長	1						1
	企画調整			2				2
	感染症情報センター			2	1			3
理化学	担当課長				1			1
	食品			1	3		1	5
	水質・環境				3		2	5
	残留農薬・放射能				1	3		4
微生物	担当課長				1			1
	消化器・食品細菌				2	3		5
	呼吸器・環境細菌			1	1	1		3
	ウイルス・衛生動物			2	1	1		4
合計		2	5	8	15	8	3	41

4 予算及び決算

令和元年度の歳入及び歳出をそれぞれ表3及び表4に示す。

表3 歳入

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
使用料及び手数料			
手数料			
健康福祉手数料	保健衛生施設手数料	89,335,000	81,953,020
諸収入			
雑入			
雑入	健康福祉費雑入	15,082,000	2,667,772

表4 歳出

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
健康安全研究所費		367,163,000	356,072,865
	報酬	2,332,000	1,815,940
	共済費	789,000	771,692
	賃金	1,004,000	929,066
	報償費	327,000	168,000
	旅費	1,534,000	1,063,569
	需用費	47,217,000	41,127,243
	消耗品費	45,471,000	39,631,718
	燃料費	24,000	19,383
	印刷製本費	813,000	586,421
	光熱水費(ガス料)	41,000	38,070
	修繕費	868,000	851,651
	役務費	1,350,000	1,128,894
	電信電話料	164,000	172,127
	郵便料	376,000	316,868
	運搬料	4,000	0
	手数料	806,000	639,899
	筆耕翻訳料	0	0
	委託料	44,428,000	41,927,445
	使用料及び賃借料	215,198,000	214,446,722
	備品購入費	9,388,000	9,386,804
	負担金補助及び交付金	43,596,000	43,307,490

5 学会参加並びに視察対応等の実績

(1) 学会・研究会等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H31.4.4～6	第93回日本感染症学会学術講演会	名古屋国際会議場	岡部、三崎、丸山、阿部、安澤、淀谷
H31.4.19～21	第122回日本小児科学会学術集会	石川県立音楽堂他	岡部、三崎
R1.5.11	第67回日本化学療法学会総会	東京ドームホテル	岡部
R1.5.24	小児呼吸器ウイルス疾患研究会	東京医科大学病院	岡部
R1.5.25～26	第60回日本臨床ウイルス学会	ウインクあいち	岡部、三崎、丸山、松島、池田、田中(友)
R1.6.6	第9回特定非営利活動法人結核感染診断研究会総会	大分県 全労済ソレイユ	原
R1.6.6～7	日本食品化学学会第25回総会・学術大会	キッセイ文化ホール	佐藤
R1.6.7～8	第94回日本結核病学会総会	iichiko総合文化センター	原
R1.6.28	2019年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所第4庁舎	三崎、佐野、江原、江崎
R1.7.3～4	第56回アイントープ・放射線研究発表会	東京大学弥生講堂	安宅、江崎
R1.7.10～11	衛生微生物技術協議会第40回研究会	シアーズホーム夢ホール他	岡部、三崎、本間、丸山、淀谷、佐々木、池田
R1.7.14～15	日本渡航医学会	国立国際医療研究センター	岡部
R1.8.23	日本マイコトキシン学会第84回学術講演会	帝京大学宇都宮キャンパス	橋口
R1.9.7	第86回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	岡部、三崎、本間、小嶋、丸山、淀谷、池田、安澤、福島、田中(友)
R1.9.12	第162回日本獣医学会学術集会	つくば国際会議場	岡部
R1.9.14～15	第2回SFTS研究会総会	国立感染症研究所	岡部
R1.9.25～26	日本防菌防黴学会第46回年次大会	千里ライフサイエンスセンター	原
R1.9.26～27	第34回関東甲信静支部ウイルス研究部会	宇都宮市民プラザ	岡部、清水、駒根
R1.10.3～4	日本食品衛生学会第115回学術講演会	タワーホール船堀	佐野、牛山、江原
R1.10.16～18	第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会	仙台国際センター	三崎、丸山、佐々木、淀谷、田中(友)
R1.10.23～25	第78回日本公衆衛生学会総会	高知市文化プラザかるぽーと他	岡部、三崎、丸山、池田
R1.10.26～27	第51回日本小児感染症学会総会・学術集会	星野リゾートOMO7旭川	岡部、三崎
R1.10.31～11.1	第42回農薬残留分析研究会	コンパルホール(大分県)	岸
R1.11.1	令和元年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第9回公衆衛生情報研究部会総会・研究会	川崎市健康安全研究所	三崎、丸山、池田、田中(友)
R1.11.5～8	The 11th World Congress of the World Society for Pediatric Infectious Diseases	Philippine International Convention Center	岡部、丸山
R1.11.15	令和元年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会	神戸市水道局職員研修所	赤星

R1.11.15～16	第48回薬剤耐性菌研究会	黒部市宇奈月国際会館	安澤
R1.11.20	第65回神奈川県公衆衛生学会	横浜市開港記念会館	岡部、三崎、本間、丸山
R1.11.28～29	第40回日本食品微生物学会	タワーホール船堀	本間、小嶋、阿部、福島
R1.11.30～12.1	第23回日本ワクチン学会学術集会	都市センターホテル	岡部、三崎、丸山
R1.11.30～12.1	日本性感染症学会第32回学術大会	メルパルク京都	池田、田中(友)
R1.12.5～6	第56回全国衛生化学技術協議会年会	広島国際会議場	吉田、佐野、赤星、田中(佑)、江原
R2.1.23	第47回建築物環境衛生管理全国大会	日本教育会館一ツ橋ホール	原
R2.1.23～24	第33回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	国立保健医療科学院	岡部、三崎、丸山、池田、田中(友)
R2.1.31～2.2	第31回日本臨床微生物学会	石川県立音楽堂、日航金沢	岡部、小嶋、湯澤
R2.2.7	日本感染症学会・日本環境感染学会緊急セミナー	東京慈恵会医科大学新橋校	三崎、丸山
R2.2.13～14	第32回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会	With You さいたま	三崎、小嶋、湯澤、丸山、阿部、安澤、福島、原、田中(友)
R2.2.14～15	第35回日本環境感染学会学術集会	パシフィコ横浜	三崎、小嶋、丸山、阿部、池田、安澤、田中(友)
R2.2.16	第11回予防接種に関する研究報告会	新大宗ビルFORUM8	三崎、丸山、池田、田中(友)
R2.2.21	令和元年度地研協議会関東甲信静支部理化学研究部会総会・研究会	杜のホールはしもと	橋口、佐藤、佐野、田中(佑)

(2) 講習会・研修会等受講実績

年月日	名称	場所	参加者
H31.4.12	平成31年度関東甲信越支部理化学部会自然毒勉強会	東京都薬用植物園	橋口、吉田、佐藤、赤星、田中(佑)、牛山、江崎
H31.4.18～19	地方衛生研究所サーベイランス業務従事者研修	国立感染症研究所	丸山、田中(友)
H31.4.23	水道水質/環境分析セミナー(アジレント)	ソラシティカンファレンスルーム(千代田区)	田中(佑)
R1.5.22	理化学機器分析セミナー	ナビオス横浜	栗田
R1.5.27	食物アレルギー物質検査精度管理サーベイフォローアップセミナー	大田区産業プラザPiO	佐藤
R1.5.28	日本食品衛生学会公開シンポジウム	日本橋公会堂	栗田
R1.6.3	防災研修	川崎市役所第4庁舎	橋口
R1.6.10	令和元年度環境衛生監視員研修	神奈川県総合医療会館	田中(佑)
R1.6.13	管理監督者のラインケア研修	川崎市医師会館	泉
R1.6.14	第8回FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザPiO	泉、畠山
R1.6.18	令和元年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	東京証券会館	谷口、畠山
R1.6.19	厚生労働省関係動物実験施設協議会総会・研修会	国立がん研究センター	吉田、赤星
R1.6.21	令和元年度環境衛生監視員研修	波止場会館	田中(佑)
R1.6.25	令和元年度第1回公衆衛生専門技術研修	神奈川県衛生研究所	高居
R1.7.2	オフフレーバー研究会第9回勉強会	東京家政大学	江原
R1.7.4	実地疫学調査研修公開講座	東京都健康安全研究センター	丸山
R1.7.8	検査所体験・見学	中央卸売市場 食品衛生検査所	牛山
R1.7.9	水道水質分析セミナー(Waters)	日本ウォーターズ株式会社ラーニングセンター	田中(佑)
R1.7.12	AOAC第22回年次大会	品川区立総合区民会館	江原
R1.7.22	高圧ガス保安講習会	川崎生命科学・環境研究センター	泉、吉田、小林、佐藤、佐野、栗田、赤星、田中(佑)、安宅、牛山、高居、江原、江崎
R1.7.23	令和元年度ウェブアクセシビリティ研修(基礎編)	川崎市役所第4庁舎	池田
R1.8.28～29	「災害時保健医療福祉の考え方」に関する説明会	川崎市役所第3庁舎、ソリッドスクエア	橋口、泉、岸、吉田
R1.9.11	令和元年度川崎市感染症対策関係職員研修会	高津区役所	岡部、三崎、本間、丸山、佐野、安宅、高居、池田、畠山
R1.9.13	医療関係特管責任者講習会	日本医師会館	淀谷

R1.9.19	残留農薬分析セミナー	明治薬科大学 清瀬キャンパス	江崎
R1.10.10	感染症危機管理研修会	国立感染症研究所	丸山
R1.10.11	LCメンテナンス講習会	東武横浜第3ビル 島津アクセス会議室	江崎
R1.10.18	令和元年度動物由来感染症対策技術研修会	赤坂区民センター	池田
R1.10.25	水中の微量金属成分分析講習会(1回目)	五反田文化会館	田中(佑)
R1.10.28	令和元年度第1回九都県市新型インフルエンザ等感染症対策研修会	大田区産業プラザPiO	本間、田中(友)
R1.11.1	令和元年度食品衛生監視員研修	神奈川県衛生研究所	江原
R1.11.1	令和元年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第9回公衆衛生情報研究会	川崎生命科学・環境研究センター	橋口、吉田
R1.11.8	川崎市健康安全研究所職員研修会	川崎生命科学・環境研究センター	渡邊、三崎、本間、橋口、小嶋、泉、佐藤(剛)、湯澤、岸、吉田、小林、佐藤(英)、佐野、栗田、赤星、田中(佑)、原、安宅、高居、牛山、淀谷、佐々木、福島、江原、江崎、田中(友)
R1.11.8	実験動物管理者等研修会	星稜会館ホール	橋口
R1.11.13	令和元年度食品衛生監視員研修	神奈川県衛生研究所	江原
R1.11.18	疑似症サーベイランス概論研修会	神奈川県総合医療会館	三崎、丸山
R1.11.18	川崎市感染症危機管理研修会	川崎市医師会館	岡部、本間、池田
R1.11.20	日本水道協会関東地方支部水質研究発表会	中原市民館	牛山
R1.11.22	令和元年度第2回九都県市新型インフルエンザ等感染症対策研修会	神奈川県総合医療会館	岡部、田中(友)
R1.11.27	食品に関するリスクコミュニケーション(放射性物質)	CIVI研修センター日本橋(東京都)	安宅
R1.11.29	第17回食品安全フォーラム	日本薬学会会長井記念ホール	赤星
R1.12.13	第9回FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザPiO	江崎、福島
R1.12.16	食品表示研修	ソリッドスクエア	江原
R1.12.19	第1回横浜市衛生研究所衛生技術研修会	横浜市衛生研究所	福島
R2.1.17	令和元年度神奈川県衛生研究所保健衛生研修	神奈川県衛生研究所	福島
R2.1.17	国際シンポジウム「マシギャザリングイベントと公衆衛生対策」	国立国際医療研究センター	三崎、丸山
R2.1.17	令和元年度高病原性鳥インフルエンザ対策訓練	川崎市消防訓練センター	田中(友)
R2.1.20	川崎市新型インフルエンザ等対策ワークショップ	川崎市医師会館	本間、駒根、池田

R2.1.21	AMR対策セミナー	平塚保健福祉事務所	福島
R2.1.24	水中の微量金属成分分析講習会(2回目)	五反田文化会館	田中(佑)
R2.1.29～30	希少感染症診断技術研修会	国立感染症研究所	原、阿部、佐々木、若菜
R2.2.4	令和元年度生活衛生関係技術担当者研修会	厚生労働省低層棟2階講堂	淀谷
R2.2.6	特別産業廃棄物管理責任者に関する講習会	ベルサール新宿	泉
R2.2.9	第20回食物アレルギー研究会	パシフィコ横浜アネックスホール	赤星
R2.2.10	地方衛生研究所全国協議会衛生理化学分野研修会	東京都健康安全研究センター	江原
R2.2.13	日本食品衛生学会 特別シンポジウム	牛込算笥区民ホール	佐野
R2.2.25	令和元年度神奈川県水道水質検査機関技術研修会	神奈川県総合医療会館	牛山
R2.2.28	令和元年度水道水質検査精度管理に関する研修会	TPK赤坂駅カンファレンスセンター	田中(佑)
R2.3.12	川崎市健康安全研究所職員研修会(倫理研修会)	川崎生命科学・環境研究センター	三崎、本間、小嶋、泉、湯澤、岸、谷口、丸山、吉田、小林、佐藤、佐野、栗田、赤星、田中(佑)、原、安宅、阿部、牛山、高居、池田、福島、江原、江崎、島山、田中(友)
R2.3.19	第22回KAWASAKI地域感染制御協議会 緊急シンポジウム	川崎市多摩市民館	丸山

(3) 会議等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H31.4.24	川崎市風しん会議	川崎市医師会館	岡部
R1.5.9	地方衛生研究所全国協議会第1回理事会・総務委員会	東京都健康安全研究センター	岡部
R1.5.10	社会医学系専門医プログラム委員会	東邦大学医学部	三崎
R1.5.14	WHO 西太平洋地域 ポリオ撲滅及び麻疹風疹除去検証合同委員会	マニラ	岡部
R1.5.20	遺伝子組換え食品検査担当者勉強会	川崎生命科学・環境研究センター	吉田、佐藤、赤星
R1.5.23	第15回新型インフルエンザ等対策有識者会議	全国都市会館	岡部
R1.5.23	残留農薬等試験法開発連絡会議	一般財団法人 日本航空協会航空会館(東京都)	江崎
R1.5.23	東京都感染症予防検討会	公益社団法人東京都医師会	丸山
R1.5.29	第38回医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	厚生労働省	岡部
R1.5.30	厚生労働科学研究(齋藤班)第1回研究会議	リファレンス西新宿大京ビル	三崎、丸山
R1.6.3	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会乳肉水産食品部会	厚生労働省	本間
R1.6.5	令和元年度地域保健総合推進事業 第1回地方衛生研究所ブロック長等会議	ベイサイドホテルアジュール竹芝	三崎
R1.6.5～6	WHO ワクチンの安全性に関する国際諮問委員会	ジュネーブ	岡部
R1.6.6	令和元年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	東京都健康安全研究センター	三崎
R1.6.6	令和元年度全国地方衛生研究所長会議	厚生労働省	三崎
R1.6.9	日本小児科学会予防接種感染対策委員会・予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
R1.6.10	HPVミーティング	京王プラザホテル	岡部
R1.6.11～12	2019年度厚生労働省科学研究(前川班)班会議	国立感染症研究所	湯澤、淀谷
R1.6.16	日本医療研究開発機構(鈴木班)第1回研究会議	国立感染症研究所	岡部、三崎、丸山
R1.6.18	令和元年度第1回神奈川県外部精度管理調査委員会	神奈川県総合医療会館	牛山
R1.6.18～21	28th Meeting of the Technical Advisory Group (TAG) on Immunization and Vaccine-preventable Diseases in the Western Pacific Region	World Health Organization. Regional Office for the Western Pacific	岡部、三崎
R1.6.24	第1回首都圏地方感染症情報センター連絡会	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、池田、田中(友)
R1.6.25	2019年度日本医療研究開発機構(黒田班)班会議	国立感染症研究所	岡部、本間、小嶋、安澤
R1.6.28	第73回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部総会	長野市生涯学習センターTOiGO	岡部、本間、小嶋
R1.7.2	令和元年度 厚生労働科学研究「食品用器具・容器包装等の安全性確保に資する研究」第1回班会議	川崎生命科学・環境研究センター	田中(佑)、牛山

R1.7.4	研究・調査企画会議事後評価部会	食品安全委員会	岡部
R1.7.8	地域感染症カンファレンス	東邦大学医学部	岡部
R1.7.12	HPVワクチンの安全性に関する研究 令和元年度班会議	厚生労働省	岡部、三崎
R1.7.12	厚生労働科学研究(松井班)第1回研究班会議	戸山サンライズ	三崎、丸山
R1.7.13	日本医療研究開発機構(菅班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	岡部、三崎、本間、湯澤、淀谷
R1.7.14	予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
R1.7.18	川崎市予防接種運営委員会	川崎市医師会館	岡部
R1.7.24	日本医療研究開発機構(岡部班)研究班会議	フクラシア八重洲	岡部
R1.7.24	神奈川県公衆衛生学会企画委員会	波止場会館	岡部
R1.7.25	東京都感染症予防検討会	公益社団法人東京都医師会	岡部、丸山
R1.7.25	令和元年度第1回川崎市感染症対策協議会	川崎市医師会館	岡部、三崎、本間、清水、湯澤、丸山、池田、田中(友)
R1.7.29	第3回麻しん・風しん排除認定会議	厚生労働省	岡部
R1.8.2	食品安全委員会専門調査会	食品安全委員会	岡部
R1.8.6	令和元年度神奈川県衛生研究所等連絡協議会会長会	神奈川県衛生研究所	岡部、渡邊、三崎、本間、橋口
R1.8.9	令和元年度第1回日本ポリオ根絶会議	厚生労働省	岡部
R1.8.19	令和元年度第1回県・市感染症情報センター連絡調整会議	藤沢市保健所	丸山、池田、田中(友)
R1.8.26	保健所連携推進会議(北海道ブロック)	北海道立道民活動センターかでの2.7	岡部
R1.8.26	令和元年度第1回食品防御対策検討会	TKP新橋カンファレンスセンター	佐野、赤星
R1.8.29	地方衛生研究所全国協議会第2回理事会・総務委員会	東京都健康安全研究センター	岡部
R1.8.30	副反応検討部会	厚生労働省	岡部
R1.9.5~6	指定都市衛生研究所長会議	ホテル北野ブラザ六甲荘	岡部
R1.9.7	神奈川県感染症医学会評議委員会	横浜情報文化センター	三崎
R1.9.9	地域感染症カンファレンス	東邦大学医学部	岡部
R1.9.10	神奈川県公衆衛生協会学術委員会	神奈川県庁	岡部
R1.9.15	日本小児科学会予防接種感染対策委員会	日本小児科学会	岡部
R1.9.17~19	第12回東南アジア地域ポリオ撲滅地域認証委員会	ダッカ	岡部
R1.9.18	令和元年度地域保健総合推進事業に係る関東甲信静ブロック会議	長野市生涯学習センター	吉田
R1.9.24	日本医療研究開発機構(岡部班)研究班会議	AP品川	岡部

R1.9.25	食品中の食品添加物分析法の検討第1回班会議	国立医薬品食品衛生研究所	橋口、吉田、栗田
R1.9.25	令和元年度第1回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市産業振興会館	岡部、三崎、本間、小嶋、清水、丸山、池田、田中(友)
R1.9.26	東京都感染症予防検討会	公益社団法人東京都医師会	丸山
R1.9.27	令和元年度関東・東海ブロック家庭用品対策会議	東京都健康安全研究センター	泉、高居
R1.9.27	KAWASAKI地域感染制御協議会	川崎市役所第4庁舎	岡部、三崎
R1.9.30	日本医療研究開発機構(山口班)研究班会議	PMDA	岡部、清水
R1.9.30	公衆衛生学会感染委員会	八重洲倶楽部	岡部
R1.10.1	埼玉県次世代シーケンサー運営協議会	埼玉県衛生研究所	岡部
R1.10.2	第15回予防接種・ワクチン分科会	厚生労働省	岡部
R1.10.13	日本小児科学会予防接種感染対策委員会・予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
R1.10.15	千葉大学真菌医学研究センター運営協議会	千葉大学真菌医学研究センター	岡部
R1.10.17~18	WHO 世界的なポリオ撲滅委員会	ジュネーブ	岡部
R1.10.21	第70回地方衛生研究所全国協議会総会	高知県教育会館	三崎
R1.10.28	健康福祉研究発表会運営委員会	ソリッドスクエア	三崎
R1.10.29	第9回薬事・食品衛生審議会薬事分科会安全対策調査会	田中田村町ビル	岡部
R1.10.30	第4回薬剤耐性(AMR)に関する小委員会	厚生労働省	三崎
R1.11.12~14	第25回西太平洋地域ポリオ根絶会議	シムリアップ	岡部
R1.11.14	遺伝子組換え食品検査担当者勉強会	神奈川県衛生研究所	赤星
R1.11.26	令和元年第1回川崎市食の安全確保対策懇談会	川崎市役所第4庁舎	本間、橋口
R1.11.28	東京都感染症予防検討会	公益社団法人東京都医師会	丸山
R1.12.2	令和元年度全国疫学情報ネットワーク構築会議	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、池田、田中(友)
R1.12.2~3	WHO グローバルワクチン安全サミット	ジュネーブ	岡部
R1.12.4~5	WHO ワクチンの安全性に関する国際諮問委員会	ジュネーブ	岡部
R1.12.11	2019年度厚生労働省科学研究(前川班)班会議	国立感染症研究所	湯澤、淀谷
R1.12.13	地域保健総合推進事業に係る関東甲信静ブロック地域専門家会議	埼玉県衛生研究所	淀谷
R1.12.16	日本学術会議医療健康リスク分科会	日本学術会議事務局	岡部
R1.12.24	NGS実務担当者会議	東京都健康安全研究センター	岡部、清水
R1.12.26	第8回連携・協力に関する協議会	川崎生命科学・環境研究センター	岡部、渡邊、三崎、本間、吉田、赤星
R2.1.10	厚生労働省科学研究(池田班)研究班会議	KKRホテル東京	岡部

R2.1.10	神奈川県感染症医学会理事会	崎陽軒本店会議室	岡部
R2.1.12	日本小児科学会予防接種感染対策委員会・予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
R2.1.15	パンデミック時コミュニケーションに関する調査・有識者委員会	三菱総合研究所	岡部
R2.1.15	厚生労働科学研究(松井班)第2回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山
R2.1.20	地域感染症カンファレンス	東邦大学医学部	岡部
R2.1.22	令和元年度地域保健総合推進事業 第1回地方衛生研究所ブロック長等会議	東京都健康安全研究センター	岡部
R2.1.22	令和元年度第2回神奈川県外部精度管理調査委員会	神奈川県総合医療会館	牛山
R2.1.22	令和元年度 厚生労働科学研究「食品用器具・容器包装等の安全性確保に資する研究」第2回班会議	川崎生命科学・環境研究センター	田中(佑)、牛山
R2.1.22	平成31年度川崎港保健衛生協議会輸入感染症担当者会議	かわさきファズ物流センター	清水
R2.1.22	令和元年度第2回川崎市感染症対策協議会	川崎市医師会館	三崎、丸山
R2.1.23	東京都感染症予防検討会	公益社団法人東京都医師会	岡部
R2.1.24	令和元年度地方感染症情報センター担当者会議	国立保健医療科学院	三崎、丸山、田中(友)
R2.1.25	日本医療研究開発機構(鈴木班)第2回研究班会議	国立感染症研究所	岡部、三崎、丸山
R2.1.28	新型コロナウイルス対策局長会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
R2.1.28	地域保健推進事業(井澤班)第2回研究班会議	牛込笹筥区民ホール	三崎
R2.1.29	首都圏自治体食中毒防止食品衛生検査担当者連絡会	東京都庁	小嶋
R2.1.30	川崎市予防接種運営委員会	川崎市医師会館	岡部
R2.2.3	北里大学生命科学研究所教員評価委員会	北里大学	岡部
R2.2.4	茨城県感染症対策委員会	茨城県庁	岡部
R2.2.5	新型コロナウイルス対策本部会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
R2.2.6	日本学術会議医療健康リスク分科会	日本学術会議事務局	岡部
R2.2.6	港区感染症対策委員会	みなと保健所	岡部
R2.2.6	厚生労働科学研究(ISO/IEC17025認証取得に向けた試験所の検討) 第1回班会議及び研究会	オフィス東京	岸
R2.2.7	中間・事後研究発表会(HPV)	国立感染症研究所	岡部
R2.2.9	日本小児科学会予防接種感染対策委員会・予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
R2.2.10	新型コロナウイルス感染症対策会議	厚生労働省	岡部
R2.2.11	日本医療研究開発機構(菅班)第2回研究班会議	国立感染症研究所	岡部、三崎、湯澤、丸山、淀谷
R2.2.12	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	厚生労働省	岡部
R2.2.13	食品中の食品添加物分析法の検討第2回班会議	国立医薬品食品衛生研究所	吉田、栗田

R2.2.14～15	WHO 西太平洋地域ポリオ非公式技術諮問会議	マニラ	岡部
R2.2.14	令和元年度第2回厚生労働省科学研究食品防御研究班班会議	TKP新橋カンファレンスセンター	佐野、赤星
R2.2.16	新型コロナウイルス専門家会議	総理官邸2回ホール	岡部
R2.2.17	日本学術会議医療健康リスク分科会	日本学術会議事務局	岡部
R2.2.17	厚生労働省科学研究食品防御研究班実地調査	川崎第3物流センター	佐野、赤星
R2.2.18	川崎市議会新型コロナウイルス勉強会	川崎市役所第2庁舎	岡部
R2.2.19	厚生労働省科学研究食品防御研究班実地調査	DS・Lヘッドクォーター羽田	佐野、赤星
R2.2.21	神奈川県感染症発生動向調査解析委員会	厚木保健福祉事務所大和センター	三崎、丸山、池田、田中(友)
R2.2.24	新型コロナウイルス専門家会議	厚生労働省	岡部
R2.2.29	新型コロナウイルス専門家ワーキンググループ	TKP新宿カンファレンスセンター	岡部
R2.3.2(照会 切日)	令和元年度県内衛生研究所等における平常時連携に係る検討委員会	メール会議	谷口
R2.3.8	日本小児科学会新型コロナウイルス対策委員会・予防接種委員会	日本小児科学会	岡部
R2.3.10	PMDA新薬専門家協議	PMDA	岡部
R2.3.11	埼玉県次世代シーケンサー解析結果評価委員会	大宮ソニックシティ	岡部
R2.3.13	新型コロナウイルス対策本部会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
R2.3.15	新型コロナウイルス専門家会議勉強会	厚生労働省	岡部
R2.3.17	茨城県新型コロナウイルス対策委員会	茨城県庁	岡部
R2.3.17	新型コロナウイルス専門家会議勉強会	厚生労働省	岡部
R2.3.18	内閣官房リスコミ委員会	三菱総合研究所	岡部
R2.3.19	新型コロナウイルス専門家会議	厚生労働省	岡部
R2.3.20	川崎市新型コロナウイルス対策会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
R2.3.21	健康危機管理協議会	東京工科大学	岡部
R2.3.23	川崎市新型コロナウイルス対策会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
R2.3.26	川崎市新型コロナウイルス対策会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
R2.3.27	第1回基本的対処方針等諮問委員会	厚生労働省	岡部

(4) 講師派遣実績

年月日	名称	会場	講師名
H31.4.10	セミナー「グローバルヘルスとワクチンイノベーション」	駐日英国大使館	岡部
H31.4.11	第21期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所	岡部
H31.4.15	公衆衛生学講義	東京大学医学部	岡部
H31.4.18	第21期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所	三崎
R1.5.20	感染症講義	名古屋大学医学部	岡部
R1.5.24	院内感染防止委員会主催研修会	衣笠病院	三崎
R1.5.31	関東甲信静支部ウイルス研究部会人材育成研修講義	東京都健康安全研究センター	清水
R1.6.3	生命科学研究所講義	北里大学	岡部
R1.6.11	感染症対策研修会	県循環器呼吸器病センター	岡部
R1.6.13	弘成会(川崎市OB会)講演会	エポック中原	岡部
R1.6.13	令和元年度ふれあい子育てサポート事業及びひとり親家庭等日常生活支援事業の研修	川崎市役所第4庁舎	三崎
R1.6.14	新型インフルエンザ等有識者からのヒアリング	中央合同庁舎	岡部
R1.6.14	第5回動物由来感染症研修会	国立国際医療研究センター	三崎
R1.6.19	厚生労働省関係動物実験施設協議会総会・研修会	国立がん研究センター	吉田
R1.7.8	微生物・感染症学等講義	神奈川県立保健福祉大学	岡部
R1.7.11	衛生微生物技術協議会第40回研究会におけるシンポジウム3(EHEC)	熊本市市民会館	三崎
R1.7.17	「国際モダンホスピタルショー2019」カンファレンス	東京ビッグサイト	三崎
R1.8.5	令和元年度アレルギー児童・感染症等への対応研修	こども家庭センター	三崎
R1.8.8	院内感染対策研修	東名厚木病院	岡部
R1.8.8	令和元年度アレルギー児童・感染症等への対応研修	中部児童相談所	三崎
R1.9.6	姫路市環境衛生研究所職員研修	姫路市保健所	三崎
R1.10.3	臨床基礎医学「ウイルスと感染」講義	東京慈恵会医科大学	岡部
R1.10.7	令和元年度埼玉県感染症発生動向調査研修会	埼玉会館	岡部
R1.10.17	第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会 教育講演	仙台国際センター	三崎
R1.10.21	感染症感染管理講習会・医療安全研修会	東京慈恵会医科大学	岡部
R1.10.29	東京都実施疫学調査研修	東京都健康安全研究センター	岡部
R1.10.30	栃木県感染症研修会	栃木県研修館講堂	岡部

R1.11.3	新型インフルエンザの診療と対策に関する研修	イイノホール&カンファレンスセンター	岡部
R1.11.24	第37回水戸周産期懇話会	水戸市医師会看護専門学院	岡部
R1.12.5～6	第56回全国衛生化学技術協議会年会 部門別研究会	広島国際会議場	赤星
R1.12.13	令和元年度感染症集団発生対策研修	国立保健医療科学院	三崎
R1.12.15	EFPIAワクチンフォーラム	ベルギー大使館	岡部
R1.12.18	微生物学講義	横浜市立大学	岡部
R1.12.19	保育士キャリアアップ研修講師	かわさき保育会館	岡部
R1.12.25	職員対象学習会	大田病院	三崎
R1.12.26	保育士キャリアアップ研修講師	かわさき保育会館	岡部
R2.1.20	川崎市新型インフルエンザ等対策ワークショップ	川崎市医師会館	岡部、三崎、丸山
R2.1.21	海外感染症対策研修会	国立国際医療センター	岡部
R2.1.25	HPV市民公開講座	川崎市医師会館	岡部
R2.1.27	第37回予防接種基本方針部会	厚生労働省	岡部
R2.2.2	HPV感染症予防接種副反応研修会	TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター	岡部
R2.2.4	住民接種の体制構築に向けた市町村担当者研修会	茨城県庁	岡部
R2.3.19	第22回KAWASAKI地域感染制御協議会 緊急シンポジウム	川崎市多摩市民館	岡部、三崎

(5) 研修指導実績

年月日	内容	対象	人数
H31.4.17	平成31年度結核・性感染症対策に係る新人・新任職員等研修会	各区役所保健福祉センター等の感染症対策に係る職員	15名
H31.4.17	第1回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R1.5.22	第2回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	3名
R1.6.26	第3回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	4名
R1.7.22	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	26名
R1.7.24	第4回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	4名
R1.7.26	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	14名
R1.7.29	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	24名
R1.8.5	第1回疫学ミーティング	各区役所地域みまもり支援センター等職員	19名
R1.8.28	第5回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	4名
R1.9.11	第1回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
R1.9.19	第2回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
R1.9.19	第6回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R1.10.2	第3回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
R1.10.3	第4回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名
R1.10.3	第2回疫学ミーティング	各区役所地域みまもり支援センター等職員	25名
R1.10.30	第5回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名
R1.11.6	第6回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名
R1.11.8	令和元年度川崎市健康安全研究所職員研修会	川崎市健康福祉局保健所職員、各区地域みまもり支援センター衛生課職員、病院局職員、地方衛生研究所関東甲信静支部関係職員、各局危機管理担当職員、川崎市健康安全研究所職員	59名
R1.11.13	第7回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名
R1.11.20	第8回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
R1.11.27	第9回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名

R1.11.27	第7回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修 修了者	3名
R1.12.4	第10回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	2名
R1.12.11	第11回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	2名
R1.12.18	第12回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	2名
R1.12.20	感染症情報センター職員研修会	各区役所地域みまもり支援センター等の感染症対 策に係る職員	35名
R1.12.25	第13回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	2名
R1.12.25	第8回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修 修了者	2名
R2.1.8	第14回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	1名
R2.1.27	第3回疫学ミーティング	各区役所地域みまもり支援センター等職員	14名
R2.1.29	第9回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修 修了者	2名
R2.3.12	川崎市健康安全研究所職員研修会(倫理研修会)	川崎市健康安全研究所職員	26名

(6) 視察・見学・講義等受け入れ実績

年月日	名称	人数
H31.4.23	川崎市薬剤師会見学実習(薬学部5年生)	35名
R1.5.21	東京工科大学公衆衛生学実習(臨床検査学科3年生)	39名
R1.5.28	東京工科大学公衆衛生学実習(臨床検査学科3年生)	39名
R1.6.6	財政局、健康福祉局総務部庶務課経理	4名
R1.6.12	動物実験外部検証委員	3名
R1.6.21	環境局	2名
R1.7.3	内閣官房新型インフルエンザ等対策室	12名
R1.7.17	川崎市薬剤師会見学実習(薬学部5年生)	51名
R1.7.30	WBD及び派遣職員	2名
R1.8.1	夏の科学イベント	45名
R1.8.2	慶應大学大学院公衆衛生プログラム	15名
R1.8.2	サクラサイエンスプラン [※]	11名
R1.8.28	仙台市	7名
R1.9.4	井田病院	3名
R1.9.4	国立看護大学	6名
R1.10.1	川崎市薬剤師会見学実習(薬学部5年生)	44名
R1.10.2	昭和薬科大学公衆衛生学実習(薬学部1年生)	30名
R1.10.11	防災塾ダルマ	17名
R1.10.31	獨協大学医学部	4名
R1.11.8	千葉県衛生研究所	2名
R1.11.27	昭和薬科大学公衆衛生学実習(薬学部1年生)	32名
R1.11.28	JICA熊本医療センター [※]	13名
R1.11.29	聖マリアンナ医科大学病院	4名

R2.1.21	中国人留学生(神奈川県衛生研究所) [※]	2名
R2.1.31	東海大学人間環境学研究科院生	2名
R2.3.2	立憲民主党	10名
R2.3.10	国土交通省	6名
計	27件	440名

※海外からの外国人を対象とした研修

(7) 研修報告会開催実績

当研究所職員が出席した学会や研修会等の内容を所内で情報共有するとともに、プレゼンテーション能力の向上を目的として、研修報告会を原則月1回開催している。

令和元年度研修報告会開催実績

開催日	報告内容	報告者
H31.4.26	第31回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会 総会・研究会 高圧ガスの保安心得 第93回日本感染症学会 総会・学術講演会参加報告	淀谷 岸 三崎
R1.6.27	有機溶媒使用の注意点 及び 検査廃液の取扱いについて 第94回日本結核病学会 第60回日本臨床ウイルス学会 令和元年度厚生労働省関係動物実験施設協議会 実験動物管理者等研修会 倫理審査に関わる注意事項について	田中(佑) 原 松島 赤星 岡部
R1.8.27	第56回アイトープ・放射線研究発表会 令和元年度地方衛生研究所現場の会・衛生微生物技術協議会第40回研究会 オフフレーバー研究会 第9回勉強会 TAG Meeting 2019	安宅、江崎 佐々木、淀谷 江原 三崎
R1.9.25	南東アジア地域ポリオ根絶認証委員会(ダッカ)の報告	岡部
R1.10.28	日本防菌防黴学会 第46回年次大会 第34回関東甲信静支部 ウイルス研究部会 四学会合同事業セミナー オリンピック・パラリンピックに向けての感染対策 川崎市健康安全研究所研修報告 WHO GCC報告「野生ポリオ3型根絶宣言」	原 駒根 佐々木 東川(川崎市立川崎病院初期 研修医) 岡部
R1.11.25	第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会、第66回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 第78回日本公衆衛生学会総会	淀谷 丸山、池田
R1.12.26	食品に関するリスクコミュニケーション 令和元年第1回九都県市 新型インフルエンザ等 感染症対策研修会 第40回日本食品微生物学会学術総会 第48回薬剤耐性菌研究会	安宅 田中(友) 福島 安澤
R2.1.30	令和元年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会、第17回食品安全フォーラム 日本性感感染症学会 第32回学術大会	赤星 池田、田中(友)
R2.2.26	第56回全国衛生化学技術協議会年会 第47回建築物環境衛生管理全国大会 令和元年度希少感染症診断技術研修会 第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会	田中(佑)、赤星、江原 原 佐々木、阿部 小嶋
R2.3.23	第56回 全国衛生化学技術協議会年会 第32回地方衛生研究所 全国協議会関東甲信静支部 細菌研究部会	佐野 原

(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント 2019」への出展

多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点キングスカイフロントは、様々な研究機関が集積し、ライフサイエンスや環境分野の研究開発などが行われている。

キングスカイフロントでは、川崎市臨海部国際戦略本部が中心となり、子どもたちに科学技術に関心を持ってもらうことを目的とした「夏の科学イベント」を例年 8 月に開催しており、当研究所もブースを出展している。

主に小学生を対象に開催されるこのイベントは、キングスカイフロントに進出又は関係する企業・研究機関等がそれぞれの特色を活かしながら夏休みの学習に役立つ科学実験やクイズラリーなどの体験コーナーを出展するもので、令和元年度の「キングスカイフロント夏の科学イベント 2019」には、約 2500 人の親子連れが参加した。

ア 開催日時

令和元年 8 月 1 日(木) 13:00～16:00

イ 主催(事務局)

キングスカイフロント夏の科学イベント実行委員会(川崎市臨海部国際戦略本部)

ウ 会場

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)、ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)、実験動物中央研究所(実中研)、ジョンソン・エンド・ジョンソン(J&J)、ライフイノベーションセンター(LIC)、国立医薬品食品衛生研究所(国立衛研)、メトロニックイノベーションセンター(メトロ)、リサーチゲートビルディング トノマチ 2(RGB2)、川崎キングスカイフロント東急 REI ホテル、羽田連絡道路工事広報館(工事広報館)、ペプチドリーム(ペプチ)

エ 出展機関

川崎市健康安全研究所、川崎市環境総合研究所、公益財団法人実験動物中央研究所、国立医薬品食品衛生研究所ほか、キングスカイフロントに集積する民間研究機関等

オ 健康安全研究所の出展内容

(7) 健康安全研究所ミステリーツアー

普段入ることのできない健康安全研究所の研究エリア内で、危険物を取り扱う際に装着する防護服や様々な分析機器の見学ツアーを行った。

水道水、湯沸し水、レモン果汁を添加した水道水を用いて簡単な残留塩素試験を実演し、塩素が含まれている場合と塩素が含まれていない場合とで、色の変化の違いを実際に体験してもらった。

珍しい虫類の標本観察や電子顕微鏡を用いた昆虫の細部構造の観察では、普段見ることのないミクロの世界に参加者から驚きの声が上がっていた。

(参加人数:45 人(保護者含む))

写真1 残留塩素試験

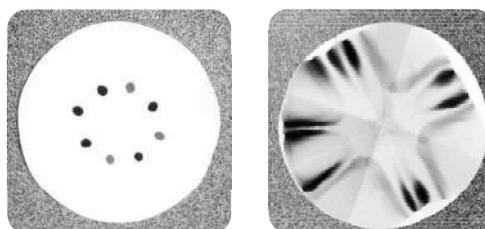


(イ) サインペンの色を分けてみよう！(ペーパークロマトグラフィー)

水性サインペンで印をつけた紙を水に浸すことで、サインペンの色の成分が分離されることを観察した。この原理は合成着色料の分析に活用されていることについても説明を行った。

(参加人数:282 人(保護者除く))

写真2 ペーパークロマトグラフィーの様子



(サインペンで点を打った後(左)、水に浸すことで色素が分離される様子を観察した(右)。)

【第2章 業務実績】

1 企画調整部門

(1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、試験検査に係る信頼性確保業務、情報発信業務である。

ア 調査研究評価委員会等の運営

(7) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、内部評価委員会を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に当研究所で実施の「全研究課題」について、委員である当研究所職員が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、令和元年度の開催概要は表のとおりである。

(4) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、外部評価委員会を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、「特に重要な研究課題」について、委員である当研究所職員及び本庁関係課職員並びに外部研究機関の有識者が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、令和元年度の開催概要は表のとおりである。

(ウ) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱に基づき、倫理審査委員会を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に新たに計画された「人を対象とする医学系研究」について、委員である当研究所職員及び外部の有識者が、倫理指針等に基づき倫理的観点及び科学的観点からその実施の適否に係る審査を行うもので、令和元年度の開催概要は表のとおりである。

表 令和元年度調査研究評価委員会等開催概要

年月日	委員会	課題数
R1.5.16 R1.5.22 R1.5.23 R1.5.27	内部評価委員会(研究計画の評価)	37
R1.6.14	外部評価委員会(研究計画の評価)	8
R1.7.5	倫理審査委員会	2
R1.7.22	内部評価委員会(研究計画(計画変更1)の評価)	1
R1.11.18	内部評価委員会(研究計画(計画変更1)の評価)	1
R1.12.18	内部評価委員会(研究計画(追加課題1・計画変更1・取下げ1)の評価)	3
R1.8.30	倫理審査委員会(迅速審査)	1
R1.10.30	倫理審査委員会(迅速審査)	1
R2.1.29	倫理審査委員会(迅速審査)	1
R2.2.26 R2.2.27 R2.3.2 R2.3.3	内部評価委員会(研究結果の評価)	37
R2.3.18	外部評価委員会(研究結果の評価)	8

※中止となった研究は除く

イ 食品衛生検査の信頼性確保業務

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。なお、不適とされたものについては適宜、改善指導を行った。

(7) 内部点検

収去施設(全7区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)衛生課、保健所食品安全課食品専門監視担当)並びに食品衛生検査施設(健康安全研究所及び保健所中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、標準作業書の作成状況や試験検査に係る書類の作成、機械器具の管理等が適切に実施されているかの確認を行った。

(4) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

(ウ) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、一般財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

令和元年度は、食品添加物や残留農薬等の理化学検査、一般細菌数や大腸菌群等の微生物検査、動物を用いる検査に係る調査に参加し、結果の確認を行った。

年度は理化学検査情報を2回、微生物検査情報を4回作成し公開した。

ウ 病原体等検査の信頼性確保業務

病原体等検査の信頼性確保部門として、病原体等検査施設(健康安全研究所)に対し次の業務を行った。なお、食品衛生検査の信頼性確保業務と同様に、不適とされたものは適宜、改善指導を行った。

(7) 内部監査

内部監査では、標準作業書の作成状況や試験検査に係る書類の作成、機械器具の管理等が適切に行われているかの確認を行った。

(イ) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

(ウ) 外部精度管理調査

令和元年度は、厚生労働省が実施するカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の検査、麻疹・風疹ウイルスの遺伝子配列解析、厚生労働科学研究の研究班の協力依頼に基づくレジオネラ属菌検査及び結核VNTR遺伝子型別の外部精度管理調査に参加し、結果の確認を行った。

エ 情報発信業務

主にホームページを用いて健康安全研究所の取組内容の情報発信を行っている。ホームページを用いた定期的な情報発信業務としては、「検査情報」を作成・掲載しており、理化学部門及び微生物部門が実施する日常の試験検査実績を、市民にとってわかりやすい体裁に配慮し取りまとめている。令和元

(2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)」に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県等域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、原則として地方衛生研究所の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健所)に感染症情報センターを設置し、感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP* - Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

*FETP:Field Epidemiology Training Program

<感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、健康福祉局保健所及び各区役所地域みまもり支援センター等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか!」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

ア 全数把握疾患の発生状況(表1~3)

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症は結核314件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

三類感染症は細菌性赤痢1件、腸管出血性大腸菌感染症27件、腸チフス2件の届出があり、コレラ、パラチフスの届出はなかった。なお、細菌性赤痢1件については、海外渡航歴はなく、感染原因は不明であった。腸チフス2件については、1件はインドへの海外渡航歴があったが、1件は渡航歴はなく、原因不明であった。

四類感染症では、E型肝炎17件、A型肝炎11件、つつが虫病3件、デング熱10件、マラリア2件、レジオネラ症30件の届出があった。E型肝炎は過去10年間で最多の報告があり、7月は6件と最も多かった。性別では男性が14件、女性が3件と男性が多く、年齢階級別では40歳代以上が94.1%を占めた。推定感染経路は、全17件のうち10件が経口感染であり、その内訳は鹿肉の喫食が4件、加熱不十分の肉類の喫食が2件、レバー(鶏、豚等)の喫食が1件、不明が3件であった。

五類感染症では、アメーバ赤痢16件、ウイルス性肝炎8件、カルバパネム耐性腸内細菌科細菌感染症57件、急性弛緩性麻痺1件、急性脳炎24件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症19件、後天性免疫不全症候群18件、侵襲性インフルエンザ菌感染症7件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、侵襲性肺炎球菌感染症51件、水痘(入院例に限る。)4件、梅毒62件、播種性クリプトコックス症1件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1件、百日咳172件、風しん54件、麻しん11件の届出があった。風しんは前年に引き続き流行がみられ、6月までに43件の届出があった。全て検査診断例として届出があり、全54件のうち36件については、当所におけるPCR法による検査結果は陽性であり、遺伝子型は1Eが35件、2Bが1件であった。麻しん11件については、7件は検査診断例、4件は修飾麻しんとして届出があった。2件はベトナムへの海外渡航歴があり、9件は国内感染例であった。全11件のうち10件は、当所におけるPCR法による検査結果は陽性であり、遺伝子型は、D8が7件、B3が3件であった。その他の1件は抗体価は陽性であったものの、検体採取時期等の問題により当所における検査結果は陰性であった。

表1 届出数（一～三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症患者等届出数）

令和元年

	一類感染症	二類感染症		三類感染症					総数
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	
平成 29 年	-	-	306	-	3	35	-	2	346
平成 30 年	-	-	321	-	3	45	-	-	369
令和元年	-	-	314	-	1	27	2	-	344
川崎	-	-	85	-	-	10	1	-	96
幸	-	-	30	-	1	3	-	-	34
中原	-	-	37	-	-	7	-	-	44
高津	-	-	48	-	-	4	-	-	52
宮前	-	-	39	-	-	1	1	-	41
多摩	-	-	45	-	-	2	-	-	47
麻生	-	-	30	-	-	-	-	-	30

※SARS：重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）

MERS：中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）

表2 届出数（四類感染症患者等届出数）

令和元年

	総数	四類感染症					
		E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	マラリア	レジオネラ症
総数	73	17	11	3	10	2	30
川崎	18	6	1	-	1	1	9
幸	4	1	1	-	-	-	2
中原	12	-	4	-	2	1	5
高津	7	1	-	-	1	-	5
宮前	23	7	4	3	5	-	4
多摩	3	1	1	-	1	-	-
麻生	6	1	-	-	-	-	5

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

令和元年

	総数	五類感染症								
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症
総数	507	16	8	57	1	24	19	18	7	1
川崎	136	7	3	8	-	4	6	11	-	1
幸	36	-	1	-	-	-	-	-	1	-
中原	91	3	2	8	1	3	1	2	1	-
高津	51	-	1	2	-	-	2	-	-	-
宮前	86	3	-	31	-	6	6	4	2	-
多摩	50	2	1	5	-	9	-	1	3	-
麻生	57	1	-	3	-	2	4	-	-	-
	総数	五類感染症								
		侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例に限る。)	梅毒	播種性クリプトコックス症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	
総数		51	4	62	1	1	172	54	11	
川崎		9	2	22	-	-	45	16	2	
幸		1	-	8	-	-	16	5	4	
中原		9	-	7	-	-	44	8	2	
高津		6	-	6	1	-	27	4	2	
宮前		10	1	8	-	-	7	8	-	
多摩		9	-	2	-	-	10	8	-	
麻生		7	1	9	-	1	23	5	1	

※その他の五類感染症の届出はなかった。

イ 定点把握疾患の発生状況（表4）

令和元年に目立った流行を示したのは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RSウイルス感染症及びインフルエンザであった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、第46週(11月第3週)以降、定点当たり患者報告数が例年より高いレベルで推移した。年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.13倍であった。

手足口病については、6月中旬から患者報告数が増加し、第28週(7月第2週)には定点当たり患者報告数が21.58人となり、過去10年間で最多の報告数となった。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて2.15倍であった。

RSウイルス感染症については、第28週(7月第2週)以降定点当たり患者報告数が急増し、第32週(8月第2週)から第37週(9月第3週)にかけて例年よりかなり高いレベルで推移した。年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.30倍であった。

インフルエンザについては、平成31年第4週(1月第4週)に定点当たり患者報告数が69.41人となり、過去10年間で最多の報告数となった。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.33倍であった。

表4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】

令和元年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	52,879	15,875	4,640	1,866	2,306	2,286	2,661	4,961	2,936	2,205	2,358	2,771	8,014
水痘	1,020	79	33	69	72	85	113	99	63	53	90	133	131
流行性耳下腺炎	166	13	11	8	17	15	28	14	10	13	15	13	9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5,502	362	435	472	472	527	508	380	253	320	483	608	682
感染性胃腸炎	10,133	1,029	850	829	1,092	1,117	990	653	472	454	619	734	1,294
手足口病	5,930	31	7	5	5	63	595	2,816	1,122	550	460	155	121
伝染性紅斑	565	182	58	62	51	42	32	35	19	28	21	9	26
突発性発しん	808	68	54	62	83	99	93	68	64	53	73	49	42
ヘルパンギーナ	1,318	-	-	2	3	8	114	579	347	182	72	8	3
咽頭結膜熱	419	11	9	7	13	44	56	21	44	36	69	45	64
RSウイルス感染症	1,150	39	36	21	25	16	22	138	382	298	125	20	28
インフルエンザ	25,343	14,013	3,113	306	435	240	65	122	93	169	249	966	5,572
流行性角結膜炎	525	48	34	23	38	30	45	36	67	49	82	31	42
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】

令和元年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	1,007	123	65	60	79	83	82	90	77	82	86	74	106
細菌性髄膜炎	7	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
無菌性髄膜炎	19	1	-	-	-	2	2	2	5	2	3	-	2
マイコプラズマ肺炎	11	1	3	-	-	-	-	1	2	1	1	1	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	29	1	-	2	9	14	2	1	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院サーベイランス	101	55	9	-	1	-	1	-	-	2	1	2	30
淋菌感染症	164	15	7	6	18	16	13	15	18	18	15	13	10
性器クラミジア感染症	446	34	29	37	39	37	42	45	26	42	36	37	42
性器ヘルペスウイルス感染症	67	3	3	4	5	8	9	3	6	1	9	7	9
尖圭コンジローマ	109	5	5	7	5	2	7	18	16	12	15	9	8
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	47	7	5	3	2	4	5	5	3	4	5	4	-
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

ウ 集団施設における感染症発生情報（表5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、小学校、中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関、市民等へ発信している。なお、保育園については、学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報を集計している。

令和元年において、例年と比べて報告数が多かった疾患は、インフルエンザ様疾患、百日咳及び流行性角結膜炎であった。

インフルエンザ様疾患については、特に1月及び9月から12月までの報告数が例年と比べて多く、過去5年平均の1.27倍であった。

百日咳については、昨年に引き続き10月、11月の報告数が例年と比べて多かった。また、年間の報告数は過去5年平均の5.47倍で、特に小学校での発生が多かった。

流行性角結膜炎については、8月以降の報告数が例年と比べて多く、過去5年平均の1.39倍であった。

表5 集団施設における感染症発生情報

令和元年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	53,543	17,506	8,591	1,617	1,502	1,979	2,151	3,658	1,339	1,896	1,626	2,904	8,774
	保育園	17,708	4,118	1,473	530	589	770	1,124	2,874	1,188	1,173	814	922	2,133
	小学校	31,142	11,084	6,154	952	813	1,071	981	747	140	664	776	1,820	5,940
	中学校	4,693	2,304	964	135	100	138	46	37	11	59	36	162	701
百日咳	総数	70	4	5	2	3	2	2	1	-	2	15	32	2
	保育園	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	小学校	66	4	3	2	3	2	2	1	-	2	15	31	1
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ様疾患	総数	35,351	16,607	7,747	774	513	387	117	154	66	295	316	1,265	7,110
	保育園	6,890	3,704	1,080	153	81	37	3	21	44	57	108	232	1,370
	小学校	24,100	10,627	5,725	503	355	250	104	131	22	210	197	910	5,066
	中学校	4,361	2,276	942	118	77	100	10	2	-	28	11	123	674
麻疹	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	350	22	32	16	18	32	55	43	13	33	35	33	18
	保育園	91	4	7	7	2	7	6	13	6	7	8	14	10
	小学校	237	15	23	9	15	25	43	28	7	22	24	19	7
	中学校	22	3	2	-	1	-	6	2	-	4	3	-	1
水痘	総数	2,224	144	71	139	132	288	329	269	57	96	152	278	269
	保育園	392	33	20	9	19	28	52	53	27	21	30	40	60
	小学校	1,777	106	50	127	111	251	266	212	27	75	119	230	203
	中学校	55	5	1	3	2	9	11	4	3	-	3	8	6
風しん	総数	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	681	34	17	29	44	56	66	56	59	97	88	69	66
	保育園	404	13	10	15	34	31	29	34	42	50	49	50	47
	小学校	248	18	7	10	9	21	34	19	13	40	39	19	19
	中学校	29	3	-	4	1	4	3	3	4	7	-	-	-
急性出血性結膜炎	総数	16	1	1	-	1	1	2	1	3	3	2	1	-
	保育園	9	-	1	-	-	1	1	1	2	1	1	1	-
	小学校	5	1	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	-
	中学校	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
咽頭結膜熱	総数	401	14	8	11	11	43	53	33	23	48	36	53	68
	保育園	306	8	4	9	11	28	47	23	20	40	20	39	57
	小学校	92	6	4	2	-	14	5	10	3	8	16	13	11
	中学校	3	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-
その他	総数	14,448	679	710	646	779	1,170	1,527	3,101	1,118	1,322	982	1,173	1,241
	保育園	9,612	356	349	337	442	638	986	2,729	1,047	997	598	545	588
	小学校	4,615	306	342	299	319	508	526	346	67	306	365	598	633
	中学校	221	17	19	10	18	24	15	26	4	19	19	30	20

※保育園は学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報

2 理化学部門

(1) 食品担当

食品衛生法及び食品表示法に基づく食品中の食品添加物検査、自然毒検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査及び苦情食品検査等を担当している。令和元年度は保健所食品安全課、各区役所保健福祉センター衛生課、中央卸売市場食品衛生検査所及び港湾局から搬入された食品等194検体、499項目について検査を実施した。(表1)

ア 食品添加物検査

食品添加物の使用基準及び表示基準に関する項目について、延べ382項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)の検査を実施した。その結果、表示にない添加物が検出された食品が2検体あった。また、表示にある添加物が検出されない食品が5検体あった。(表2、表3)

ウ 遺伝子組換え食品検査

米加工品、ばれいしょ及びばれいしょ加工品計22検体の遺伝子組換え食品検査を実施した。結果は22検体すべてで陰性であった。(表4)

エ 特定原材料検査

(7) 使用表示のない食品の検査

卵を対象に6検体、乳を対象に1検体及び小麦を対象に1検体の特定原材料検査を実施した。スクリーニング検査において、小麦を対象とした菓子類1検体から10µg/g以上を検出したため、ウエスタンブロットによる確認検査を実施し、陽性を確認した。(表5-1、5-2)

オ 自然毒及び化学物質検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝を含め、市内流通食品9検体について貝毒検査を実施した。また、フグ毒検査を1検体、カビ毒検査を2検体及びヒスタミン検査を3検体実施した。(表6)

カ 成分規格・品質検査

乳製品の成分規格(乳脂肪分・乳固形分)を2検体、水分・pH等の食品の品質に関する検査を16検体実施した。

キ 苦情食品検査

保健所へ苦情品として届けられたもののうち、当所へ検体が搬入された事例は3例であった。

検査精度確保のため、(一財)食品薬品安全センターが実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物(着色料、ソルビン酸)、特定原材料(卵)及び麻痺性貝毒の検査を実施した。(株)森永生科学研究所主催の「第4回食物アレルギー物質検査精度管理サーベイ」に参加した。(公社)日本食品衛生協会主催の「厚生労働科学研究で実施するヒスタミン分析技能試験」に参加した。また、関東甲信静ブロック精度管理事業で実施された、有毒植物の誤食による食中毒を想定した模擬訓練に参加した。

関係機関の調査研究に係る検査に関して、(一財)食品薬品安全センターからの依頼による「特定原材料検査 外部精度管理調査研究」(検査項目：小麦)、国立衛生研究所からの依頼による安全性未審査の遺伝子組換えサケ(AquAdvantage)について協力をを行った。

表1 食品化学検査内訳

検査内容	項目数
食品添加物	382
遺伝子組換え食品検査	22
特定原材料検査	17
自然毒・化学物質	24
成分規格・品質試験	35
その他	19
総計	499

表 2 食品添加物検査内訳

検査内容		項目数
保存料	安息香酸	51
	ソルビン酸	62
	パラオキシ安息香酸エステル類	20
着色料	許可酸性タール色素	49
発色剤	亜硝酸根	17
甘味料	サッカリン	19
	アセスルファムカリウム	19
漂白剤	亜硫酸塩	34
酸化防止剤	ブチルヒドロキシアニソール	7
	ジブチルヒドロキシトルエン	7
品質保持剤	プロピレングリコール	22
防かび剤	イマザリル	5
	オルトフェニルフェノール	3
	ジフェニル	3
	チアベンダゾール	5
その他の添加物	ナタマイシン	2
不許可添加物	サイクラミン酸(甘味料)	27
	TBHQ(酸化防止剤)	12
	アゾルビン(着色料)	5
	キノリンイエロー(着色料)	7
	パテントブルー(着色料)	1
	スーダン I -IV	4
	パラレッド	1
総計		382

表 3 食品添加物検査結果

品名	検査項目	検査結果
食肉製品	保存料、発色剤	表示にない保存料(安息香酸)検出
酒精飲料	保存料、着色料、甘味料、漂白剤	表示にない漂白剤(亜硫酸塩)検出
食肉製品	保存料、発色剤	表示にある発色剤(亜硝酸 Na) 不検出
野菜加工品	保存料、着色料、漂白剤	表示にある漂白剤(亜硫酸塩)不検出
かんきつ類	防ばい剤	表示にある防ばい剤(イマザリル) 不検出
和菓子	着色料	表示にある着色料(食用赤色 105 号)不検出
和菓子	着色料	表示にある着色料(食用赤色 102 号、食用黄色 5 号)不検出

表 4 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	安全性	試験方法	結果	
米加工品	9	遺伝子組換えコメ (63Bt、NNBt、CpTI)	未審査	定性 PCR	陰性	9
菓子	2		未審査	定性 PCR	陰性	2
ばれいしょ加工品	5	遺伝子組換えパレイシヨ (F10、J3)	未審査	定性 PCR	陰性	5
菓子	5		未審査	定性 PCR	陰性	5
魚介類加工品	1	遺伝子組換えサケ (AquAdvantage)	未審査	定性 PCR	陰性	1

表 5-1 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果
卵	菓子類	6	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	不検出
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	不検出
乳	容器包装詰 加圧加熱食品	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 牛乳	不検出
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ牛乳(カゼイン)	不検出
小麦	菓子類	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 小麦	10 µg/g 以上
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ小麦(グリアジン)	10 µg/g 以上

試験方法:1 検体につき 2 種類のキットを用いて検査を実施し、いずれか 1 種でも結果が 10µg/g 以上検出された場合、スクリーニング検査陽性となる。

表 5-2 特定原材料確認検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果	
小麦	菓子類	1	定性 PCR	陽性	1

スクリーニング検査により特定原材料が 10 µg/g 以上検出され、製造記録に記載のないものについて実施した。

表 6 自然毒及び化学物質検査結果

品目	検体数	自然毒分類	検査項目	結果	
ふぐ加工品	1	フグ毒	フグ毒	5 MU/g 以下	1
二枚貝	9	貝毒	麻痺性貝毒	1.8 MU/g 未満	9
			下痢性貝毒	不検出	9
りんごジュース	2	カビ毒	パツリン	不検出	2
魚介類加工品	3	化学物質	ヒスタミン	不検出	3

表 6 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果概要
菓子の変色	変色	外観 鏡検(実態顕微鏡、生物顕微鏡)	検体表面に、直径約 2~4mm の白色、又は白色の中に褐色部分を含む円形の変色部分が数か所認められた。 カビ(<i>Aspergillus sp.</i> 及び <i>Penicillium sp.</i>)の形態を確認した。
清涼飲料水の異物	異物	外観 鏡検(実態顕微鏡) 鏡検(生物顕微鏡) 浸水試験 FT-IR	0.34mm×0.01~0.08mm、長さ 7.45mm、重さ 0.6mg の淡黄色の異物。 長方向に細長い繊維状の構造を有していた。竹製の調理器具(以下、対照品)に類似していた。 植物組織の構造を有していた。 温水に浸したところ、硬さに変化がなかった。 対照品とスペクトルが類似していた。
惣菜の異物	異物	外観 乾燥試験 鏡検(実態顕微鏡) FT-IR 溶解試験	8.34mm×4.97mm×4.71mm、重さ 83.98mg の不定形異物。乳白色で底面は淡い茜色。 苦情品と惣菜中の肉の一部(以下、対照品)を 50℃70 時間乾燥後、ピンセットで押したところ、苦情品は変形せず、対照品はもろく崩れた。 苦情品の白色部に無数の孔が確認された。切断面は、淡い茜色部分が透明で均一な面、乳白色部分は不規則に間隙がある粗面であった。 苦情品の白色部表面を分析したところ、リン酸塩由来(1019cm ⁻¹)及びたんぱく質由来(1546cm ⁻¹ 及び 1635cm ⁻¹)と考えられるピークが認められた。 苦情品の白色部を塩酸に浸すとわずかに発泡し、溶解した。 苦情品は動物の骨の一部と推定される。

(2) 水質・環境担当

「水道法」に基づく貯水槽水等の水質検査、「災害時における飲料水及び生活用水の供給源としての井戸及び受水槽の有効活用に関する要綱」に基づく災害用井戸水検査、「神奈川県水浴場等に関する条例」に基づくプール水検査、「川崎市公衆浴場法施行条例」及び「川崎市旅館業法施行条例」に基づく浴槽水検査及びシャワー水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく健康食品中医薬品成分検査を担当している。令和元年度は保健所生活衛生課、食品安全課、医事・薬事課、各区役所保健福祉センター衛生課から搬入された検体について検査を実施した。

また、神奈川県が実施する外部精度管理調査(亜硝酸態窒素、塩化物イオン及び有機物(全有機炭素(TOC)の量))に参加し、検査を実施した。

ア 飲料水検査

令和元年度に検査を実施した飲料水は、93検体であった。検査検体の内訳は、井戸水(災害用選定の生活用水井戸)86検体、小規模水道水4検体、専用水道水3検体であった。(表1)

イ プール水、浴槽水等検査

市内プール水(採暖槽水を含む)82検体、浴槽水144検体、シャワー水0検体、計226検体について検査を実施した。(表2)

ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品108検体について13項目の有害物質等の検査を実施したところ、全て基準に適合していた。(表3)

エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水(ジュース、ミネラルウォーター等)10検体、粉末清涼飲料2検体について5項目(混濁、沈殿物又は固形の異物、ヒ素、鉛、スズ(缶入りのもの))の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

オ おもちゃの規格基準検査

塩化ビニル製おもちゃ1検体について8項目(フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)、フタル酸ベンジルブチル、過マンガン酸カリウム消費量、重金属、カドミウム、蒸発残留物、ヒ素)、残りの1検体について3項目(フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)、フタル酸ベンジルブチル)の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

折り紙2検体について2項目(重金属、ヒ素)の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

カ 器具及び容器包装の規格基準検査

ガラス製品1検体、陶磁器2検体について2項目(カドミウム、鉛)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

キ 豆類、生あんの規格基準検査

ベビーライマ豆1検体についてシアン化合物の規格検査を実施したところ、基準に適合していた。

ク 寒天の規格基準検査

粉末寒天2検体についてホウ素化合物の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

ケ 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したアユ3検体について金属類等の環境汚染物質検査を実施した。(表4)

コ 医薬品成分検査

市販の健康食品16検体及びローション類(外用)3検体について、医薬品成分15項目の検査を実施した。(表5)

表1 飲料水検査結果

種類	災害用井戸水 (生活用水)	貯水槽水	小規模水道水	専用水道水	その他	計
検体数	86 (99)	0 (0)	4 (5)	3 (7)	0 (0)	93 (111)
不適合件数	39 (20)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	41 (20)
不 適 合 項 目 件 数	亜硝酸態窒素	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
	鉄及びその化合物	14 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (17)
	塩化物イオン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	pH値	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭気	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
	色度	9 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (15)
	濁度	9 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (10)
塩素酸	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	

※災害用井戸水に対して水質基準値は設定されていないため、水道法に基づく水道水質基準をあてはめて評価しています。

():前年度

表2 プール水、採暖槽水、浴槽水、シャワー水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水 (採暖槽水含む)	82 (51)	濁度、過マンガン酸カリウム消費量、pH
浴槽水	144 (117)	濁度、過マンガン酸カリウム消費量、pH
シャワー水	0 (11)	色度、濁度、過マンガン酸カリウム消費量
計	226 (179)	

():前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検査項目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品、つけまつげ用接着剤等	86	0
アゾ化合物	繊維製品	8	0
塩化水素、硫酸	住宅用の洗浄剤	1	0
水酸化カリウム、水酸化ナトリウム	家庭用の洗浄剤	1	0
容器試験	住宅用・家庭用の洗浄剤	2	0
有機水銀化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
トリフェニル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
トリブチル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
ジベンゾ[a, h]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]ピレン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
総 数		132	0

表4 多摩川で採取した魚介類の検査結果

(単位 : ppm)

項目	1	2	3	定量下限値
総水銀	0.02	0.01	0.01	0.01
銅	0.7	0.7	0.7	0.3
鉛	不検出	不検出	0.12	0.1
カドミウム	不検出	不検出	不検出	0.01
マンガン	2.5	5.0	5.5	0.1
クロム	不検出	不検出	不検出	0.1
亜鉛	9.3	19	18	0.3
ヒ素	0.14	0.18	0.15	0.01
トリブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	0.1
トリフェニルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	0.1
ジブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	0.1

表5 健康食品中医薬品成分検査結果

検査項目	検体数	検出	不検出
瘦身成分 フェノールフタレイン マジンドール フェンフルラミン N-ニトロソフェンフルラミン シブトラミン クロルプロバミド トルブタミド オリスタット	7	0	7
強壮成分 グリベンクラミド ヨヒンビン シルденаフィル タダラフィル バルденаフィル ホンденаフィル	9	0	9
局所麻酔成分	3	0	3

(3) 残留農薬・放射能検査部門

残留農薬・放射能検査担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査、残留動物用医薬品検査及び食品・水道水等の放射性物質検査を実施した。

精度管理については、一般財団法人食品薬品安全センターの実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、重金属検査(カドミウム)、残留農薬検査(I: 個別試験、II: 一斉試験)及び残留動物用医薬品検査(定量)を実施した。また、厚生労働科学研究費補助金「食品の安全確保推進研究事業」の研究課題において、重金属検査(玄米中のカドミウム測定)の外部精度管理調査研究に参加した。

ア 残留農薬検査

保健所食品安全課及び市内 7 区役所の地域みまもり支援センター(保健所支所)衛生課、中央卸売市場食品衛生検査所から依頼のあった食品、総数 61 検体・延べ 2,489 項目について残留農薬検査を実施した。

(7) 国内産農産物の検査

保健所食品安全課、各区役所地域みまもり支援センター(保健所支所)衛生課及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 47 検体・計 2,011 項目について検査を実施した(表 1 及び表 2-1、2-2)。

国内産農産物のうち市内産は 10 検体・計 500 項目、その他の国内産は 37 検体・計

1,511 項目行った。

市内産において検出が認められた農産物及び農薬はなかった。

その他の国内産農産物では、インドキサカルブ・群馬県産キャベツ 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.008mg/kg)、クロチアニジン・群馬県産春菊 1 検体(基準値 10mg/kg のところ 0.019mg/kg)、クロルピリホス・福岡県産日本なし 1 検体(基準値 0.5mg/kg のところ 0.008mg/kg)、クロルフェナピル・茨城県産ミニトマト 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.051mg/kg)、シハロトリン・青森県産りんご 1 検体(基準値 0.4mg/kg のところ 0.015mg/kg)、ジフェノコナゾール・福岡県産日本なし 1 検体(基準値 0.8mg/kg のところ 0.007mg/kg)、シメコナゾール・栃木県産日本なし 1 検体(基準値 0.5mg/kg のところ 0.011mg/kg)、テブコナゾール・山形県産りんご 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.008mg/kg)、ピフェントリン千葉県産日本なし 1 検体(基準値 0.5mg/kg のところ 0.011mg/kg)、フサライド・秋田県産及び北海道産玄米に各 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.008 及び 0.022mg/kg)、ブプロフェジン・栃木県産日本なし 1 検体(基準値 6mg/kg のところ 0.029mg/kg)、ルフェヌロン・茨城県産白菜 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.008mg/kg)であった。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

単位 mg/kg

農産物名	かぼ	き	こ	さ	ブ		大		白	
	ち	ゆう	まつ	つま	ロ		根		菜	
	ち	り	な	い	ッ	コ	前	麻	宮	麻
生産地区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査依頼項目	1 EPN	○		○						
	2 アクリナトリン		○							
	3 アザコナゾール	○								
	4 アザメチホス							○		
	5 アジンホスメチル		○			○	○	○	○	○
	6 アゾキシストロビン		○	○	○	○	○	○	○	○
	7 アトラジン	○	○	○						
	8 アニロホス		○			○	○	○		○
	9 アラクロール	○		○						
	10 アラマイト					○	○	○	○	○
	11 イサゾホス			○						
	12 イプロバリカルブ					○		○		○
	13 イマザリル				○		○		○	
	14 イミダクロプリド				○				○	
	15 インドキサカルブ				○	○	○	○	○	○
	16 エチオン	○	○	○						
	17 エディフェンホス			○						
	18 エトプロホス		○	○						

○: 不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちや		きゆうり		こまつな		さつまいも		ブロッコリー		大根の根		白菜	
	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区
19 エトリムホス			○											
20 エポキシコナゾール				○										
21 エンドスルフアン	○	○	○											
22 オキサジクロメホン					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23 オキサミル					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24 オキシカルボキシ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25 オリザリン					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26 カズサホス		○	○											
27 カルバリル				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28 カルプロパミド							○						○	
29 キナルホス	○	○	○											
30 クミルロン					○		○	○	○	○	○	○		
31 クレソキシムメチル	○	○	○											
32 クロキントセットメキシル							○							○
33 クロチアニジン					○									
34 クロフェンテジン					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35 クロマフェノジド					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36 クロメプロップ							○		○	○	○	○		
37 クロリダゾ							○			○				○
38 クロルピリホス	○	○	○											
39 クロルピリホスメチル	○	○	○											
40 クロルフェナピル	○	○												
41 クロルフェンビンホス		○	○											
42 クロルフルアズロン				○		○			○					○
43 クロルプロファミ	○		○											
44 クロロクスロン											○			
45 サリチオン			○											
46 シアゾファミド				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47 シアナジン	○		○											
48 シアノホス	○	○	○											
49 ジウロン				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50 ジェトフェンカルブ		○												
51 シクロエート				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52 ジクロフェンチオン			○											
53 ジクロラン		○												
54 ジフェノコナゾール		○												
55 シフルフェナミド		○		○	○		○	○	○	○	○	○		
56 ジフルベンズロン				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57 シプロジニル				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58 シメコナゾール	○	○									○			
59 ジメチピン		○												
60 ジメチリモール											○			
61 ジメチルビンホス			○											
62 ジメトエート		○												
63 ジメトモルフ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64 ダイアジノン	○	○	○											
65 ダイムロン							○		○	○	○			
66 チアクロプリド					○									
67 チアベンダゾール					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68 チアメトキサム					○		○							○
69 チオジカルブ及びメソミル					○									
70 テトラクロルビンホス	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○: 不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちや	きゆうり	こまつな	さつまいも	ブロッコリー		大根の根		白菜	
	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	
71 テブチウロン				○	○	○	○	○	○	○
72 テブフェノジド				○	○	○	○	○	○	○
73 テフルベンズロン				○	○	○	○	○	○	○
74 テルブホス	○	○	○							
75 トリアレート	○	○	○							
76 トリチコナゾール				○		○		○		○
77 トリフルムロン				○	○	○	○	○	○	○
78 トルクロホスメチル	○	○	○							
79 ナプロアニリド								○		
80 ノバルロン				○	○	○	○	○	○	○
81 パラチオン (パラチオンエチル)	○	○	○							
82 パラチオンメチル	○	○	○							
83 ビフェントリン	○	○	○							
84 ピペロホス	○		○							
85 ビラクロストロビン				○	○	○	○	○	○	○
86 ビラクロホス	○	○	○							
87 ビラゾリネート						○		○		○
88 ビリダフェンチオン	○		○							
89 ビリダベン		○								
90 ビリフタリド					○		○		○	
91 ビリミカーブ				○	○	○	○	○	○	○
92 ビリミホスメチル	○	○	○							
93 フィプロニル	○									
94 フェナミホス	○	○	○							
95 フェナリモル	○	○	○							
96 フェントロチオン (MEP)	○	○	○							
97 フェノキシカルブ				○	○	○	○	○	○	○
98 フェノブカルブ				○	○		○		○	
99 フェリムゾン					○		○	○	○	
100 フェンアミドン				○		○		○		○
101 フェンスルホチオン	○		○							
102 フェントエート	○		○							
103 フェンバレレート	○	○								
104 フェンピロキシメート				○						
105 フェンプロパトリン	○	○								
106 フェンメディファム				○	○	○	○	○	○	○
107 ブタフェナシル				○	○	○	○	○	○	○
108 ブタミホス	○	○	○							
109 ブプロフェジン	○	○								
110 フラチオカルブ				○		○				○
111 フラメトピル				○	○		○		○	
112 フルシトリネート		○	○							
113 フルトラニル	○	○	○							
114 フルフェノクスロン				○	○	○	○	○	○	○
115 フルリドン					○	○	○		○	○
116 プロチオホス			○							
117 プロバキサホップ					○		○	○	○	
118 プロフェノホス	○		○							
119 プロモプロピレート	○	○	○							
120 プロモホス (プロモホスメチル)	○									
121 ヘキサフルムロン					○	○	○		○	○
122 ヘキシチアゾクス				○	○		○	○	○	

検査依頼項目

○:不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちや		きゆうり		こまつな		さつまいも		ブロッコリー		大根の根		白菜	
	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区
123 ペンシクロン				○			○					○		○
124 ベンゾフェナップ							○	○	○				○	○
125 ベンダイオカルブ				○										
126 ベンフルラリン	○													
127 ホサロン		○												
128 ボスカリド				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
129 ホスチアゼート	○	○	○											
130 ホスファミドン	○		○											
131 ホレート	○	○	○											
132 マラチオン (マラソン)	○	○												
133 ミクロブタニル	○	○												
134 メタベンズチアズロン				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
135 メチダチオン	○	○	○											
136 メトキシフェノジド				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
137 モノリニュロン							○	○	○	○	○	○	○	○
138 モリネート	○													
139 ラクトフェン							○	○	○	○	○	○	○	○
140 リニュロン				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
141 ルフェヌロン				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
142 レナシル	○	○	○											

○: 不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位 mg/kg

農産物名	かぼちや		キャベツ		きゆうり		こまつな		春菊		ほうれんそう		トマト		ミニトマト		ピーマン		パプリカ
	北海道	千葉県	群馬県	神奈川県	福島県	茨城県	群馬県	千葉県	茨城県	山梨県	山形県	福島県	茨城県	福島県	茨城県	茨城県	茨城県	茨城県	
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	20	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
1 EPN	○	○					○				○		○	○					
2 アクリナトリン				○								○	○	○	○				
3 アザコナゾール		○																	
4 アジンホスメチル		○				○	○												
5 アセトクロール			○	○														○	○
6 アゾキシストロビン				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				
7 アトラジン	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○				
8 アニロホス						○	○												
9 アラクロール		○				○						○							
10 アラマイト																			
11 イサゾホス		○																	
12 イソカルボホス			○															○	○
13 イソプロチオラン		○																	
14 イプロバリカルブ																			
15 イプロベンホス																			

○: 不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちゃ		キャベツ		きゅうり		こまつな		春菊		ほうれんそう		トマト		ミニトマト		ピーマン		パプリカ
	北海道	千葉県	群馬県	神奈川県	福島県	茨城県	群馬県	千葉県	茨城県	山梨県	山形県	福島県	茨城県	福島県	茨城県	茨城県	ピーマン	パプリカ	
16	イマザリル						○												
17	イミダクロプリド						○												
18	インドキサカルブ		○	0.008			○	○									○	○	○
19	ウニコナゾール P		○	○															
20	エスプロカルブ																	○	
21	エタルフルラリン		○														○		○
22	エチオン	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
23	エディフェンホス	○	○																
24	エトキサゾール		○	○													○	○	○
25	エトフェンブロックス		○	○													○	○	○
26	エトプロホス	○	○		○	○					○	○	○	○	○	○			
27	エトベンザニド																	○	
28	エトリムホス	○	○																
29	エンドスルファン	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
30	オキサジアゾン			○															
31	オキサジクロメホン								○										
32	オキサミル								○										
33	オキシフルオルフェン		○	○													○		○
34	オメトエート																		
35	オリザリン								○	○									
36	カズサホス	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○	○			
37	カルバリル								○										
38	カルフェントラゾンエチル																○	○	○
39	カルプロバミド								○										
40	カルボフェノチオン		○																
41	キナルホス	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
42	キノキシフェン			○													○	○	○
43	キノクラミン (ACN)		○																
44	キントゼン		○	○													○	○	○
45	クミルロン																		
46	クレソキシムメチル	○	○		○	○	○			○									
47	クロキントセットメキシル									○									
48	クロチアニジン								0.019										
49	クロフェンテジン																		
50	クロマフェノジド								○	○									
51	クロメブロップ		○				○	○	○		○								
52	クロリダゾン																		
53	クロルタールジメチル		○	○													○	○	○
54	クロルピリホス	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
55	クロルピリホスメチル	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
56	クロルフェナピル	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○	0.051			
57	クロルフェンソン		○				○												
58	クロルフェンビンホス	○			○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
59	クロルフルアズロン								○	○									
60	クロルプロファミ		○				○			○									
61	クロロベンジレート																	○	
62	サリチオン																		
63	シアゾファミド								○										
64	シアナジン		○		○	○	○			○	○	○	○	○	○				
65	シアノホス	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○				
66	ジウロン																		
67	ジエトフェンカルブ		○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	シクロエート								○	○									
69	ジクロトホス		○	○													○		○
70	ジクロフェンチオン																		

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちゃ		キャベツ		きゅうり		こまつな		春菊		ほうれんそう		トマト		ミニトマト		ピーマン		パプリカ	
	北海道	千葉県	群馬県	神奈川県	福島県	茨城県	群馬県	千葉県	茨城県	山梨県	山形県	福島県	茨城県	福島県	茨城県	茨城県				
71	ジクロブトラゾール	○				○						○								
72	ジクロラン	○			○	○	○					○	○	○	○	○				
73	ジチオビル	○					○													
74	シハロトリン																	○	○	○
75	シハロホップブチル	○										○								
76	ジフェナミド																		○	
77	ジフェニルアミン																	○	○	○
78	ジフェノコナゾール				○	○	○					○	○	○	○	○				
79	シフルトリン																			
80	シフルフェナミド				○	○	○		○			○	○	○	○	○				
81	ジフルフェニガン		○																	
82	ジフルベンズロン								○	○										
83	シプロコナゾール		○	○														○	○	○
84	シプロジニル		○	○														○	○	○
85	シペルメトリン																	○	○	○
86	シマジン																	○	○	○
87	シメコナゾール	○	○		○	○	○					○	○	○	○	○				
88	ジメタメトリン																	○	○	○
89	ジメチビン				○	○						○	○	○	○	○				
90	ジメチルビンホス	○											○							
91	ジメテナミド		○	○															○	
92	ジメトエート				○	○						○	○	○	○	○				
93	ジメトモルフ								○											
94	ジメピペレート																	○	○	○
95	スピノサド									○										
96	スルプロホス		○	○																
97	ターバシル		○	○															○	
98	ダイアジノン	○	○		○	○	○					○	○	○	○	○				
99	ダイムロン									○	○									
100	チアベンダゾール									○	○									
101	チアメトキサム									○										
102	チオジカルブ及びメソミル																			
103	チオベンカルブ			○														○		○
104	チフルザミド			○																
105	テクナゼン																			
106	デスメディファム		○																	
107	テトラクロルビンホス	○				○	○		○	○							○			
108	テトラコナゾール			○														○	○	○
109	テトラジホン		○	○														○	○	○
110	テニルクロール		○																○	
111	テブコナゾール		○	○														○	○	○
112	テブチウロン									○										
113	テブフェノジド									○										
114	テブフェンピラド																	○	○	○
115	テフルトリン		○	○														○	○	
116	テフルベンズロン									○										
117	デメトロン-S-メチル																			
118	デルタメトリン及びトラロメトリン												○	○		○				
119	テルブトリン			○															○	
120	テルブホス	○	○			○	○	○				○								
121	トリアジメノール		○	○														○	○	○
122	トリアジメホン		○	○														○	○	○
123	トリアレート				○	○	○					○	○	○	○	○				
124	トリフルムロン									○										
125	トリフルラリン		○	○														○	○	○

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちや		キヤベツ		きゆうり		こまつな		春菊		ほうれんそう		トマト		ミニトマト		ピーマン		パプリカ
	北海道	千葉県	群馬県	神奈川県	福島県	茨城県	群馬県	千葉県	茨城県	山梨県	山形県	福島県	茨城県	福島県	茨城県	茨城県	ピーマン	パプリカ	
126	トリフロキシストロビン		○	○													○	○	○
127	トルクロホスメチル	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
128	ナプロアニリド						○	○											
129	ナプロパミド		○	○													○	○	○
130	ニトロタールイソプロピル		○	○														○	
131	ノバルロン						○												
132	パクロプトラゾール		○														○		○
133	パラチオン (パラチオンエチル)	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
134	パラチオンメチル	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
135	ハルフェンブロックス												○						
136	ビオレスメトリン																		
137	ビフェノックス																		
138	ビフェントリン	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
139	ピペロホス	○																	
140	ピラクロストロビン						○												
141	ピラクロホス	○			○	○	○				○	○	○	○	○	○			
142	ピラゾホス	○																	
143	ピラゾリネート																		
144	ピリダフェンチオン																		
145	ピリダベン		○		○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○
146	ピリフェノックス																	○	○
147	ピリプチカルブ																○	○	○
148	ピリミカーブ						○												
149	ピリミジフェン		○	○													○	○	○
150	ピリミノバックメチル																	○	
151	ピリミホスメチル	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
152	ピンクロゾリン		○	○													○	○	○
153	フィプロニル															○			
154	フェナミホス	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
155	フェナリモル	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
156	フェニトロチオン (MEP)	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
157	フェノキサニル		○	○															
158	フェノキシカルブ		○	○													○	○	○
159	フェノチオカルブ						○	○											
160	フェノブカルブ						○												
161	フェリムゾン						○	○											
162	フェンクロルホス	○																	
163	フェンスルホチオン											○	○	○	○	○			
164	フェントエート	○	○				○				○		○		○				
165	フェンバレレート	○	○		○						○	○	○	○					
166	フェンピロキシメート							○											
167	フェンプロパトリン	○	○		○	○													
168	フェンメディファム						○	○											
169	フサライド					○					○								
170	ブタクロール		○	○													○		○
171	ブタフェナシル						○	○											
172	ブタミホス	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
173	ブピリメート																		
174	ブプロフェジン	○	○		○	○					○	○	○	○	○				
175	フラメトピル																		
176	フルアクリピリム		○														○		○
177	フルキンコナゾール																		
178	フルシトリネート				○						○	○	○	○					
179	フルシラゾール			○													○		○
180	フルトラニル				○	○	○				○	○	○	○	○	○			

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	かぼちや		キャベツ		きゅうり		こまつな		春菊		ほうれんそう		トマト		ミニトマト		ピーマン		パプリカ
	北海道	千葉県	群馬県	神奈川県	福島県	茨城県	群馬県	千葉県	茨城県	山梨県	山形県	福島県	茨城県	福島県	茨城県	茨城県			
181	フルバリネート												○	○					
182	フルフェノクスロン						○												
183	フルミオキサジン		○	○															
184	フルリドン						○												
185	プレチラクロール																○		○
186	プロシミドン		○	○															
187	プロチオホス	○				○	○			○									
188	プロパキザホップ						○	○											
189	プロパクロール		○	○															
190	プロバホス	○				○				○									
191	プロピコナゾール				○						○	○	○	○	○	○	○	○	○
192	プロピザミド		○	○															
193	プロフェノホス	○				○				○									
194	プロメトリン		○	○															
195	プロモプロピレート	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
196	ヘキサフルムロン						○	○											
197	ヘキシチアゾクス						○												
198	ベナラキシル		○	○													○	○	○
199	ペルメトリン		○	○													○	○	○
200	ペンコナゾール		○	○													○	○	○
201	ペンシクロン									○									
202	ベンゾフェナップ						○												
203	ベンダイオカルブ						○												
204	ペンディメタリン		○	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○
205	ベンフルラリン	○																	
206	ホサロン				○	○	○			○						○			
207	ボスカリド																		
208	ホスチアゼート	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	○			
209	ホスファミドン					○	○									○			
210	ホスメット		○														○	○	○
211	ホノホス	○																	
212	ホルモチオン		○	○															
213	ホレート	○	○		○	○	○				○								
214	マラチオン (マラソン)	○			○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
215	ミクロブタニル	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
216	メタベンズチアズロン																		
217	メタラキシル及びメフェノキサム																		
218	メチダチオン	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			
219	メトキシフェノジド						○												
220	メトラクロール		○	○													○	○	○
221	メビンホス	○																	
222	メプロニル			○													○	○	○
223	モノクロトホス		○	○													○	○	○
224	ラクトフェン						○												
225	リニュロン																		
226	ルフェスロン						○	○											
227	レナシル	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位 mg/kg

農産物名	ブロッコリー		白菜		大根の根		ニンジン			大豆	玄米 (あきたこまち)	玄米 (ゆめぴりか)	りんご (シナノゴールド)	りんご (サンつがる)	日本なし (幸水)			日本なし (豊水)	
	埼玉県	茨城県	千葉県	神奈川県	千葉県	千葉県	北海道	北海道	北海道	秋田県	北海道	青森県	山形県	茨城県	福岡県	千葉県	栃木県		
検査依頼項目数	50	20	20	50	20	50	50	50	50	50	37	37	37	20	20	20	20	20	
検出項目数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	1	2
1 EPN							○	○	○	○	○	○							
2 アクリナトリン										○					○				
3 アザコナゾール							○		○	○									
4 アジンホスメチル	○		○				○		○	○									
5 アセトクロール						○													
6 アズキシストロビン	○		○				○	○	○	○	○	○			○	○	○		
7 アトラジン							○	○	○	○	○				○				
8 アニロホス	○		○																
9 アラクロール									○	○					○				
10 アラマイト	○		○																
11 イサゾホス									○										
12 イソカルボホス																			
13 イソプロチオラン								○		○		○	○						
14 イプロバリカルブ	○		○																
15 イプロベンホス						○													
16 イマザリル			○																
17 イミダクロプリド			○																
18 インドキサカルブ	○	○	○	○	○								○	○					
19 ウニコナゾール P						○													
20 エスプロカルブ						○													
21 エタルフルラリン						○													
22 エチオン							○	○	○	○					○				
23 エディフェンホス											○	○							
24 エトキサゾール						○								○					
25 エトフェンプロックス													○						
26 エトプロホス																			
27 エトベンザニド						○													
28 エトリムホス										○									
29 エンドスルファン								○	○	○	○	○			○	○	○		
30 オキサジアゾン																			
31 オキサジクロメホン	○		○																
32 オキサミル		○																	
33 オキシフルオルフェン						○							○						
34 オメトエート													○	○					
35 オリザリン	○	○	○	○	○														
36 カズサホス								○		○									
37 カルバリル	○		○																
38 カルフェントラズンエチル																			
39 カルプロバミド	○		○																
40 カルボフェノチオン						○													
41 キナルホス							○	○	○	○	○				○				
42 キノキシフェン																			
43 キノクラミン (ACN)							○	○	○	○		○	○						
44 キントゼン						○								○					
45 クミルロン	○		○																
46 クレソキシムメチル							○	○	○	○									
47 クロキントセットメキシル	○		○																
48 クロチアニジン																			
49 クロフェンテジン	○		○																
50 クロマフェノジド	○	○	○	○	○														
51 クロメブロップ	○	○	○	○	○				○		○	○							
52 クロリダゾン			○																
53 クロルタールジメチル						○													
54 クロルピリホス							○	○	○	○	○				0.008	○	○		
55 クロルピリホスメチル							○	○	○	○	○								
56 クロルフェナピル							○	○	○	○					○				
57 クロルフェンソン									○										
58 クロルフェンビンホス							○	○	○	○	○	○			○				

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	生産地区	大根の根				ニンジン		大豆	玄米 (あきたこまち)	玄米 (ゆめぴりか)	りんご (シナノゴールド)	りんご (サンつがる)	日本なし(幸水)			日本なし (豊水)	
		埼玉県	茨城県	千葉県	神奈川県	千葉県	北海道						北海道	秋田県	北海道		青森県
59	クロルフルアズロン			○	○												
60	クロルプロファム					○	○	○	○								
61	クロロベンジレート																
62	サリチオン					○											
63	シアゾファミド	○		○													
64	シアナジン					○	○	○	○								
65	シアノホス					○	○	○		○				○	○	○	○
66	ジウロン	○		○													
67	ジエトフェンカルブ					○						○		○	○	○	○
68	シクロエート	○	○	○	○												
69	ジクロトホス																
70	ジクロフェンチオン					○											
71	ジクロブトラゾール							○									
72	ジクロラン					○	○	○	○								
73	ジチオピル								○	○							
74	シハロトリン					○					0.015	○					
75	シハロホップブチル								○	○							
76	ジフェナミド																
77	ジフェニルアミン					○					○						
78	ジフェノコナゾール					○	○	○	○	○			○	0.007	○	○	○
79	シフルトリン								○	○							
80	シフルフェナミド	○	○		○	○	○										
81	ジフルフェニカン										○						
82	ジフルベンズロン			○	○												
83	シプロコナゾール											○					
84	シプロジニル	○		○		○						○					
85	シバルメトリン					○											
86	シマジン																
87	シメコナゾール							○	○	○						○	0.011
88	ジメタメトリン					○											
89	ジメチピン					○	○	○	○	○			○				
90	ジメチルビンホス								○	○							
91	ジメテナミド					○											
92	ジメトエート					○	○	○	○	○						○	
93	ジメトモルフ	○															
94	ジメビベレート																
95	スピノサド																
96	スルプロホス																
97	ターバシル																
98	ダイアジノン					○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
99	ダイムロン	○	○	○	○	○											
100	チアベンダゾール	○	○	○	○	○											
101	チアメトキサム																
102	チオジカルブ及びメソミル	○															
103	チオベンカルブ					○											
104	チフルザミド																
105	テクナゼン					○					○						
106	デスメディファム					○											
107	テトラクロルビンホス	○	○	○	○	○											
108	テトラコナゾール											○					
109	テトラジホン					○					○	○					
110	テニルクロール																
111	テブコナゾール					○					○	0.008					
112	テブチウロン	○		○													
113	テブフェノジド	○															
114	テブフェンピラド											○					
115	テフルトリン					○											
116	テフルベンズロン	○		○													
117	デメトシ-S-メチル					○											

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	ブロッコリー		白菜		大根の根		ニンジン		大豆		玄米(あきたこまち)	玄米(ゆめぴりか)	りんご(シナノゴールド)	りんご(サンつがる)	日本なし(幸水)			日本なし(豊水)
	埼玉県	茨城県	千葉県	神奈川県	千葉県	北海道	北海道	秋田県	北海道	青森県	山形県	茨城県	福岡県	千葉県	栃木県			
118	デルタメトリン及びトラロメトリン																	
119	テルブトリン																	
120	テルブホス					○	○	○	○		○	○						
121	トリアジメノール					○						○						
122	トリアジメホン					○							○					
123	トリアレート					○	○	○	○		○	○						
124	トリフルムロン	○			○													
125	トリフルラリン					○						○	○					
126	トリフロキシストロビン					○						○	○					
127	トルクロホスメチル					○	○	○	○	○					○			
128	ナプロアニリド		○	○	○													
129	ナプロバミド					○					○							
130	ニトロタールイソプロピル																	
131	ノバルロン	○		○														
132	パクロブトラゾール																	
133	パラチオン(パラチオンエチル)					○	○	○	○	○					○			
134	パラチオンメチル					○	○	○	○	○	○	○			○			
135	ハルフェンプロックス					○		○										
136	ピオレスメトリン					○												
137	ピフェノックス					○	○			○	○							
138	ピフェントリン					○	○	○	○						○	0.011		○
139	ピペロホス																	
140	ピラクロストロビン	○		○														
141	ピラクロホス					○	○	○	○									
142	ピラゾホス					○		○										
143	ピラゾリネート			○														
144	ピリダフェンチオン					○												
145	ピリダベン					○						○	○		○	○		○
146	ピリフェノックス					○												
147	ピリプチカルブ					○												
148	ピリミカーブ	○		○														
149	ピリミジフェン											○						
150	ピリミノバックメチル					○												
151	ピリミホスメチル					○	○	○	○	○	○	○			○	○		○
152	ピンクロズリン					○						○						
153	フィプロニル					○	○	○			○	○						
154	フェナミホス					○	○	○	○	○	○	○			○			
155	フェナリモル					○	○	○	○	○					○			○
156	フェニトロチオン(MEP)					○	○	○	○	○	○	○			○	○		○
157	フェノキサニル																	
158	フェノキシカルブ	○	○	○	○	○												
159	フェノチオカルブ					○												
160	フェノブカルブ																	
161	フェリムゾン	○	○	○	○	○												
162	フェンクロールホス																	
163	フェンスルホチオン							○		○								
164	フェントエート					○	○	○	○	○	○	○			○			
165	フェンバレレート					○	○	○	○	○	○	○			○	○		○
166	フェンビロキシメート																	
167	フェンプロバトリン									○								
168	フェンメディファム	○	○	○	○													
169	フサライド										0.008	0.022						
170	ブタクロール																	
171	ブタフェナシル	○	○	○	○	○												
172	ブタミホス					○	○	○	○	○	○	○						
173	ブピリメート					○						○						
174	ブプロフェジン						○			○	○	○			○	○		0.029
175	フラメトピル	○	○		○													
176	フルアクリピリム												○					
177	フルキンコナゾール														○			

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	生産地区	ブロッコリー		白菜		大根の根		ニンジン				大豆		玄米 (あきたこまち)	玄米 (ゆめぴりか)	りんご (シナノゴールド)	りんご (サンつがる)	日本なし (幸水)			日本なし (豊水)	
		埼玉県	茨城県	千葉県	神奈川県	千葉県	北海道	北海道	北海道	秋田県	北海道	青森県	山形県	茨城県	福岡県	千葉県	栃木県					
178	フルシトリネート																					
179	フルシラゾール																					
180	フルトラニル																					
181	フルバリネート																					
182	フルフェノクスロン	○			○															○	○	○
183	フルミオキサジン																					
184	フルリドン	○			○																	
185	プレチラクロール																					
186	プロシミドン																○	○				
187	プロチオホス																			○	○	○
188	プロバキザホップ	○	○	○	○																	
189	プロバクロール																					
190	プロバホス																					
191	プロビコナゾール																					
192	プロビザミド																					
193	プロフェノホス																					
194	プロメトリン																					
195	プロモプロビレート																				○	○
196	ヘキサフルムロン	○	○	○	○	○																
197	ヘキシチアゾクス	○																				
198	ベナラキシル																	○				
199	ベルメトリン																	○				
200	ベンコナゾール																					
201	ベンシクロン			○	○																	
202	ベンゾフェナップ	○			○																	
203	ベンダイオカルブ	○	○																			
204	ベンディメタリン																					
205	ベンフルラリン																					
206	ホサロン																					○
207	ボスカリド	○			○																	
208	ホスチアゼート																					
209	ホスファミドン																					
210	ホスメット																					
211	ホノホス																					
212	ホルモチオン																					
213	ホレート																					
214	マラチオン (マラソン)																					
215	マイクロブタニル																					
216	メタベンズチアズロン	○			○																	
217	メタラキシル及びメフェノキサム																					
218	メチダチオン																					
219	メトキシフェノジド	○			○																	
220	メトラクロール																					
221	メビンホス																					
222	メプロニル																					
223	モノクロトホス																					
224	ラクトフェン	○			○																	
225	リニユロン	○	○	○	○	○																
226	ルフェヌロン	○	○	0.008	○	○																
227	レナシル																					

○:不検出

(イ) 輸入農産物の検査

保健所食品安全課、各区役所地域みまもり支援センター(保健所支所)衛生課及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 8 検体・計 400 項目について検査を実施した(表 3)。

検出が認められた農薬と農産物は、クロルピリホス・イスラエル産及びアメリカ産グレープフルーツ各 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.006 及び 0.018mg/kg)、マイクロブタニル・メキシコ産かぼちゃ 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.011mg/kg)であった。

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果

単位 mg/kg

農産物名	グレープフルーツ				中国	アメリカ	かぼちゃ
	アメリカ	イスラエル	中国	アメリカ			
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数	0	0	0	1	1	0	1
検査依頼項目	1 EPN						○
	2 アザコナゾール			○	○	○	○
	3 アジンホスメチル					○	○
	4 アゾキシストロビン					○	○
	5 アトラジン			○	○	○	○
	6 アニロホス			○	○		○
	7 アラクロール			○	○		○
	8 アラマイト						○
	9 イサゾホス			○	○		
	10 イプロバリカルブ						○
	11 インダノファン						○
	12 インドキサカルブ						○
	13 エチオン			○	○	○	○
	14 エトフェンプロックス	○	○	○			
	15 エトプロホス			○	○		
	16 エトリジアゾール	○	○	○			
	17 エトリムホス			○	○		
	18 エンドスルフファン			○	○	○	○
	19 オキサジクロメホン						○
	20 オキサミル						○
	21 オキシフルオルフェン	○	○	○			
	22 オメトエート	○	○	○			
	23 オリザリン						○
	24 カズサホス			○	○		
	25 カルバリル						○
	26 カルフェントラゾンエチル	○	○	○			
	27 カルプロパミド						○
	28 キナルホス			○	○	○	○
	29 キノキシフェン	○	○	○			
	30 キントゼン	○	○	○			
	31 クミルロン						○
	32 クレソキシムメチル			○	○	○	○
	33 クロキントセットメキシル						○
	34 クロフェンテジン						○
	35 クロマフェノジド						○
	36 クロメプロップ					○	○

○:不検出

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	グレープフルーツ			イスラエル	中国	ニンジン	ブロッコリー	かぼちゃ
	生産地区							
37 クロルタールジメチル	○	○	○					
38 クロルピリホス				0.018	0.006	○		○
39 クロルピリホスメチル				○	○	○		○
40 クロルフェナピル						○		○
41 クロルフェンソン						○		
42 クロルフェンビンホス				○	○	○		
43 クロルプロファム						○		○
44 クロロクスロン							○	
45 シアゾファミド							○	
46 シアナジン								○
47 シアノホス				○	○	○		○
48 ジウロン							○	
49 ジエトフェンカルブ	○	○	○					
50 シクロエート							○	
51 ジクロフェンチオン						○		
52 ジクロボトラゾール				○	○			
53 ジクロラン						○		
54 ジチオピル						○		
55 ジフェニルアミン	○	○	○					
56 ジフェノコナゾール						○		
57 シフルフェナミド						○	○	
58 ジフルフェニカン	○	○	○					
59 シプロジニル	○	○	○				○	
60 シマジン	○	○	○					
61 シメコナゾール				○	○			○
62 ジメチピン						○		
63 ジメチルビンホス						○		
64 ジメテナミド	○	○	○					
65 ジメトエート						○		
66 ジメトモルフ							○	
67 ターバシル	○	○	○					
68 ダイアジノン				○	○	○		○
69 チアベンダゾール							○	
70 チオジカルブ及びメソミル							○	
71 チオベンカルブ	○	○	○					
72 チフルザミド	○	○	○					
73 テクナゼン	○	○	○					
74 テトラクロルビンホス				○	○		○	○
75 テトラコナゾール	○	○	○					
76 テトラジホン	○	○	○					
77 テブコナゾール	○	○	○					
78 テブチウロン							○	
79 テブフェノジド							○	
80 テブフェンピラド	○	○	○					
81 テフルトリン	○	○	○					
82 テフルベンズロン							○	
83 デメトシ-S-メチル	○	○	○					
84 テルブトリン	○	○						
85 テルブホス				○	○	○		○

検査依頼項目

○:不検出

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	グレープフルーツ			ニンジン	ブロッコリー	かぼちゃ	
	アメリカ	イスラエル	中国				
生産地区	アメリカ	イスラエル	中国	アメリカ	メキシコ		
86	トリアジメノール	○	○	○			
87	トリアジメホン	○	○	○			
88	トリアレート				○		○
89	トリブホス (DEF)				○		
90	トリフルムロン					○	
91	トリフルラリン	○	○	○			
92	トリフロキシストロビン	○	○	○			
93	トルクロホスメチル				○	○	○
94	ナプロパミド	○	○	○			
95	ノバルロン					○	
96	パクロブトラゾール	○	○	○			
97	パラチオン (パラチオンエチル)				○	○	○
98	パラチオンメチル				○	○	○
99	ビオレスメトリン	○	○	○			
100	ビフェノックス				○	○	
101	ビフェントリン				○	○	○
102	ピペロホス				○	○	○
103	ピラクロストロビン					○	
104	ピラクロホス				○		○
105	ピリダフェンチオン				○		○
106	ピリダベン	○	○	○			
107	ピリフタリド					○	
108	ピリミカーブ					○	
109	ピリミジフェン	○	○	○			
110	ピリミホスメチル				○	○	○
111	ピンクロゾリン	○	○	○			
112	フィプロニル				○	○	○
113	フェナミホス				○	○	○
114	フェナリモル				○	○	○
115	フェニトロチオン (MEP)				○	○	○
116	フェノキシカルブ					○	
117	フェノチオカルブ	○	○	○			
118	フェノブカルブ					○	
119	フェンスルホチオン				○		○
120	フェントエート				○	○	○
121	フェンバレレート				○	○	○
122	フェンプロバトリン				○	○	○
123	ブタフェナシル	○	○	○			
124	ブタミホス				○		○
125	ブピリメート	○	○	○			
126	ブプロフェジン				○	○	○
127	フルアクリピリム	○	○	○			
128	フルシトリネート				○	○	
129	フルシラゾール	○	○	○			
130	フルトラニル						○
131	フルフェノクスロン					○	
132	フルミオキサジン	○	○	○			

検査依頼項目

○:不検出

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位 mg/kg

農産物名	グレープフルーツ				イスラエル	中国	ブロッコリー	かぼちゃ
	生産地区							
133	フルリドン						○	
134	プロシミドン	○	○	○				
135	プロチオホス				○	○		
136	プロパホス				○	○		
137	プロピコナゾール	○	○	○				
138	プロピザミド	○	○	○				
139	プロフェノホス				○	○		○
140	プロモプロピレート				○	○	○	○
141	プロモホス (プロモホスメチル)						○	○
142	ヘキサフルムロン						○	
143	ヘキシチアゾクス						○	
144	ベナラキシル	○	○	○				
145	ペルメトリン			○				
146	ペンコナゾール	○	○	○				
147	ベンゾフェナップ						○	
148	ベンダイオカルブ						○	
149	ペンディメタリン	○	○	○				
150	ベンフルラリン							○
151	ボスカリド						○	
152	ホスチアゼート					○		○
153	ホスファミドン				○	○		○
154	ホレート				○	○	○	○
155	マラチオン (マラソン)				○	○	○	○
156	ミクロブタニル				○	○	○	0.011
157	メタベンズチアズロン						○	
158	メチダチオン				○	○	○	○
159	メトキシフェノジド						○	
160	メトラクロール	○	○	○				
161	メビンホス				○	○		
162	メプロニル	○	○	○				
163	モノクロトホス	○	○	○				
164	モノリニュロン						○	
165	モリネート							○
166	ラクトフェン						○	
167	リニュロン						○	
168	ルフェヌロン						○	
169	レナシル				○	○	○	○

○:不検出

(ウ) 輸入畜産物の検査

保健所食品安全課、各区役所地域みまもり支援センター(保健所支所)衛生課依頼分の6検体・計78項目について検査を実施したところ、検出が認められた検体は無かった(表4)。

イ 残留動物用医薬品検査

(7) 国内産畜産物の検査

保健所食品安全課、各区役所地域みまもり支援センター(保健所支所)衛生課及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の16検体・計289項目について検査を実施したところ、検出が認められた検体は無かった(表5)。

(イ) 輸入畜産物及び水産物の検査

保健所食品安全課、各区役所地域みまもり支援センター(保健所支所)衛生課及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の16検体・計182項目について検査を実施したところ、検出が認められた検体は無かった(表6)。

表4 畜産物の残留農薬検査結果

単位 mg/kg

畜産物名	鶏肉(ムネ)	鶏肉(モモ)		豚肉(ロース)	牛肉(モモ)	
	国産	輸入				
生産地区	宮崎県	タイ	ブラジル	アメリカ	オーストラリア	
検査依頼項目数	13	13	13	13	13	
検出項目数	0	0	0	0	0	
検査依頼項目	1 BHC	○	○	○	○	○
	2 DDT	○	○	○	○	○
	3 γ-BHC (リンデン)	○	○	○	○	○
	4 アルドリン及びディルドリン	○	○	○	○	○
	5 エンドスルファン	○	○	○	○	○
	6 エンドリン	○	○	○	○	○
	7 クロルデン	○	○	○	○	○
	8 ジコホール	○	○	○	○	○
	9 ビフェントリン	○	○	○	○	○
	10 フィプロニル	○	○	○	○	○
	11 プロシミドン	○	○	○	○	○
	12 ヘキサクロロベンゼン	○	○	○	○	○
	13 ヘプタクロル	○	○	○	○	○

○:不検出

表5 残留動物用医薬品検査結果(国内産)

単位 mg/kg

農産物名	鶏卵									鶏肉(ムネ)	鶏肉(モモ)	豚肉	豚肉(モモ)	豚肉(ロース)	牛肉(カメノコ)
	国産	長野県	岩手県	青森県	国産	国産	青森県	千葉県産	鹿児島県						
検査依頼項目数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	19	18	18	18	18	18
検出項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査依頼項目	1 ジフロキサシン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2 オキシリニック酸	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3 ナリジクス酸	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4 フルメキン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5 アルバンダゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6 トリメトブリム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7 スルファジアジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8 オルメトブリム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9 スルファピリジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 スルファメラジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11 スルファジミジン (スルファメサジン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12 スルファメトキシピリダジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13 スルファモノメトキシシン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14 スルファドキシシン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15 スルファメトキサゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16 スルファキノキサリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	17 スルファジメトキシシン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18 スルファニトラン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	19 ピロミド酸										○	○	○	○	○
	20 スルファクロルピリダジン										○	○	○	○	○
	21 ミロキサシン										○	○	○	○	○

○:不検出

表6 残留動物用医薬品検査結果(輸入)

単位 mg/kg

農産物名	サーモン		サケ		エビ		むきえび			鶏肉(モモ)		豚肉		牛肉(モモ)	
	ノルウェー	チリ	チリ	外国産	インドネシア	インド	タイ	タイ	タイ	ブラジル	アメリカ	オーストラリア			
検査依頼項目数	5	5	5	5	5	14	14	14	14	5	19	19	17	18	18
検出項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査依頼項目	1 アルベンダゾール					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2 オキシロニック酸	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○
	3 オルメトプリム						○	○	○	○					○
	4 ジフロキサシン						○	○	○	○					○
	5 スルファキノキサリン										○	○	○	○	
	6 スルファクロルピリダジン										○	○	○	○	
	7 スルファジアジン	○	○	○	○						○	○	○	○	○
	8 スルファジミジン									○					
	9 スルファジミジン(スルファメサジン)			○			○	○	○	○		○	○	○	○
	10 スルファジメトキシシン	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11 スルファドキシシン						○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12 スルファニトラン						○	○	○	○		○	○	○	○
	13 スルファピリジン					○	○	○	○	○		○	○	○	○
	14 スルファメトキサゾール				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15 スルファメトキシピリダジン				○		○	○	○	○		○	○	○	○
	16 スルファメラジン						○	○	○	○		○	○	○	○
	17 スルファモノメトキシシン	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○
	18 トリメトプリム						○	○	○	○					○
	19 ナリジクス酸		○		○	○						○	○	○	○
	20 ピロミド酸											○	○	○	○
	21 フルメキン											○	○	○	○
	22 ミロキサシン	○				○						○	○	○	○

○:不検出

ウ 放射性物質検査

平成23年3月11日の福島第一原発事故後より放射性ヨウ素(ヨウ素 131)と放射性セシウム(Cs-134 と Cs-137)について測定を行っている。

保健所食品安全課、農業振興センター、教育委員会及び上下水道局水道水質課から依頼のあった、総数39検体・延べ78項目(内訳:食品25検体50項目、水など環境試料14検体28項目)について放射能検査(放射性セシウム測定)を実施した。

(7) 市内産農産物

経済労働局農業振興センター依頼分の市内産農産物について3検体の検査を実施したところ、結果は全て不検出(基準値[Cs-134及び137の合計で100Bq/kg]以下)であった(表7)。

表7 市内産農産物の放射性物質検査結果

単位 Bq/kg

基準値適応区分	品名	検体件数(計3件)	産地	放射性セシウム(Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
一般食品	うめ	1	麻生区	不検出(1.2Bq/kg未満)	不検出(1.0Bq/kg未満)
	トマト	1	高津区	不検出(1.2Bq/kg未満)	不検出(1.1Bq/kg未満)
	日本なし	1	多摩区	不検出(1.1Bq/kg未満)	不検出(1.0Bq/kg未満)

(4) 市内流通食品

保健所食品安全課依頼分の、市内に流通する一般食品12検体について検査を実施したところ、結果は全て不検出であった(表8)。

(7) 学校給食(牛乳)

教育委員会依頼分の学校給食食材(牛乳)10検体について検査を実施したところ、全て不検出であった(表9)。

表8 市内流通食品の放射性物質検査結果

単位 Bq/kg

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計12件)	原材料等産地 又は 製造所等所在地	放射性セシウム (Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
一般食品	精米	1	福島県	不検出 (1.4 Bq/kg 未満)	不検出 (1.1 Bq/kg 未満)
	中華めん	1		不検出 (1.5 Bq/kg 未満)	不検出 (1.2 Bq/kg 未満)
	そば	1		不検出 (1.5 Bq/kg 未満)	不検出 (1.1 Bq/kg 未満)
	こんにゃく	1		不検出 (1.1 Bq/kg 未満)	不検出 (1.1 Bq/kg 未満)
	こうじ	1	群馬県	不検出 (1.2 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
		1		不検出 (1.7 Bq/kg 未満)	不検出 (1.6 Bq/kg 未満)
	野菜ジュース	1	不検出 (1.3 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	
	さば水煮	1	岩手県	不検出 (1.4 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
	めかぶ	1	宮城県	不検出 (1.3 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
	芋甘納豆	1	茨城県	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
粉ミルク	1	栃木県	不検出 (2.5 Bq/kg 未満)	不検出 (2.3 Bq/kg 未満)	
浅漬け	1	埼玉県	不検出 (1.3 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	

表9 学校給食食材の放射性物質検査結果

単位 Bq/kg

基準値 適応区分	品名	検体件数	原材料産地	放射性セシウム (Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
牛乳	牛乳	10	神奈川県等	不検出 (1.2 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.4 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.1 Bq/kg 未満)	不検出 (1.3 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.2 Bq/kg 未満)	不検出 (1.1 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	不検出 (1.1 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.3 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.4 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.2 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
				不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)

(イ) 水道水

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び配水8検体について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表10)。

(オ) 剪定枝及び落ち葉

経済労働局農業振興センター依頼分の市内剪定枝3検体及び落ち葉3検体に

いて検査を実施した。検査結果は、Cs-134の検出はなかったが、全ての検体からCs-137(2~20 Bq/kg)を検出した。なお、放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値は、Cs-134及び137の合計で400 Bq/kg(肥料・土壌改良資材・培土)である(表11)。

表10 水道水等の放射性物質検査結果

単位 Bq/kg

基準値 適応区分	品名	検査件数 (計8件)	水源地	放射性セシウム (Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
飲料水	水道原水	4	神奈川県	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)
	水道水	4	神奈川県	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)	不検出 (1.0 Bq/kg 未満)

表11 剪定枝堆肥・腐葉土等の放射性物質検査結果

単位 Bq/kg

品名	採取地	検査件数 (計6件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
剪定枝堆肥(剪定枝)	高津区	1	不検出 (1.5 Bq/kg 未満)	3
	宮前区	1	不検出 (2.0 Bq/kg 未満)	2
	多摩区	1	不検出 (1.6 Bq/kg 未満)	4
腐葉土(落ち葉)	高津区	1	不検出 (2.2 Bq/kg 未満)	20
	宮前区	1	不検出 (1.8 Bq/kg 未満)	20
	麻生区	1	不検出 (1.7 Bq/kg 未満)	9

3 微生物部門

(1) 消化器・食品細菌担当

腸管系細菌検査では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく届出及び市内外の食中毒の発生により消化器症状（下痢、腹痛等）を呈した患者やその接触者から腸管系感染症原因菌（コレラ菌、赤痢菌、チフス菌・パラチフス A 菌、腸管出血性大腸菌等）の分離・同定を行い、市内における食中毒被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また、分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防等のため、川崎市食品衛生監視指導計画に基づき保健所及び 7 保健所支所から搬入された市内流通食品（食肉製品、乳製品、弁当類、そうざい等）について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査（細菌数、大腸菌群、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌等）を実施している。また、川崎市食品 GLP の対応として、外部精度管理調査（一般細菌数測定、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群、E.coli 検査）に年 5 回参加している。

ア 腸内細菌

(7) 感染性細菌検査

感染症の発生に伴う感染性細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について、281 検体、319 項目の検査を実施した。月別検査件数は、表 1 のとおりである。また、菌種別の検出状況は、表 2 のとおりである。

分離又は搬入された腸管出血性大腸菌 41 検体（すべて感染症検体由来）についての血清型及び毒素型は、表 3 に示すとおりである。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の β -ラクタマーゼ遺伝子検査は、届出対象外も含め、84 検体が搬入された。菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は、表 4 のとおり

である。

(4) 細菌性食中毒検査

市内の食中毒や有症苦情及び他都市食中毒関連調査の検体が 365 検体搬入された。月別検査件数は、表 5 のとおりで、カンピロバクター・ジェジュニが最も多く検出された。また、令和元年度の市内細菌性食中毒の発生状況は 4 件で表 6 に示すとおりである。

イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 7 に示すとおりである。令和元年度の総検体数は 1,657 検体で、不適項目（食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準等による）は延べ 149 件（9.0%）で、成分規格違反はなく、すべて川崎市衛生指導基準等による不適件数であった。

不適率の高い検体は、弁当類（19.2%）、生菓子（18.7%）、非加熱そうざい（16.2%）、生食用鮮魚貝類（14.9%）、その他の豆腐（12.5%）であった。

食品別の細菌検出状況については、大腸菌群は非加熱そうざい、弁当類、生菓子、調理パン等から、セレウス菌は非加熱そうざい、その他の豆腐等から、黄色ブドウ球菌は手指拭取、非加熱そうざい等から、リステリア菌は食肉から検出されている。

ウ 水質検査

水質細菌検査は、井戸水 87 検体、浴槽水・採暖槽水 151 検体、プール水 77 検体が搬入され、一般細菌数及び大腸菌又は大腸菌群の検査を実施した。

不適項目（水質基準に関する省令、遊泳用プールの衛生基準、川崎市公衆浴場法施行細則による）は、井戸水で一般細菌数 14 件、大腸菌 6 件、プール水で一般細菌数 2 件、浴槽水・採暖槽水で大腸菌群 3 件が検出された。

表1 感染性細菌検査における月別検査件数（菌株含む）

項目	検体数	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ(コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	※1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	その他	総項目数
月																				
4月	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	7
5月	17	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	17
6月	27	0	0	2	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	27
7月	49	0	0	3	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	49
8月	63	0	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	63
9月	19	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	19
10月	22	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1	22
11月	20	0	3	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	20
12月	27	2	5	2	2	15	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	17	0	65
1月	7	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7
2月	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3月	18	0	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	18
総計	281	2	10	12	2	168	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	84	1	319

※1 β-ラクタマーゼ遺伝子検査

表2 感染性細菌検査における検出状況（菌株含む）

項目	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	※1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	その他	検出細菌数 合計
月																				
4月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4
5月	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5
6月	0	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8
7月	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	18
8月	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	9
9月	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5
10月	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	8
11月	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	10
12月	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	19
1月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3月	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
検出件数	0	2	3	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	2	147

※1 β-ラクタマーゼ遺伝子検査検体

表3 腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数
O157	VT1&2	21
O157	VT2	8
O145	VT2	1
O80	VT2	6
O91	VT1&2	2
O113	VT2	1
O128	VT1	2
計		41

表4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の菌種別遺伝子検出状況（平成31年4月～令和2年3月）

菌種	遺伝子検査 実施数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有数	カルバペネマーゼ遺伝子 内訳
<i>Enterobacter cloacae</i>	41	29	IMP-1、IMP-19
<i>Klebsiella aerogenes</i>	30	0	-
<i>Escherichia coli</i>	2	0	-
<i>Citrobacter braakii</i>	2	0	-
<i>Citrobacter freundii</i>	1	0	-
<i>Serratia marcescens</i>	1	1	IMP-34
<i>Proteus mirabilis</i>	1	0	-
その他の菌種	6	3	IMP-1、IMP-4、IMP-34
計	84	33	

表5 細菌性食中毒検査における月別検査件数及び検出状況（菌株含む）

項目	検体数	赤痢菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	腸炎ビブリオ (コレラ菌含む)	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	ウエルシユ菌	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ(コレラ菌非O1)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	ブレシオモナス・シゲロイデス	セレウス菌	クドア・セブテンブククタータ	検出細菌種数 合計
月																				
4月	25	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
5月	47	0	2	0	0	0	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
6月	30	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
7月	15	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
8月	7	0	2	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
9月	108	0	0	0	0	0	4	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11
10月	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11月	20	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
12月	12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1月	68	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
2月	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	12	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
総計	365	0	6	0	0	0	17	24	2	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	57

表6 市内細菌性食中毒発生事例（平成31年4月～令和2年3月）

No.	発生日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品 (種別)	病因物質	原因施設	措置
1	5月11日	25	14	0	5/10に提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止3日間
2	5月20日	9	9	0	5/20に提供された食事	黄色ブドウ球菌	飲食店	営業停止1日間
3	11月15日	5	5	0	11/15に提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ カンピロバクター・コリ	飲食店	営業停止3日間
4	1月19日	5	2	0	1/17に提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止2日間

(2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・インフルエンザ菌・百日咳菌等の呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

ア 結核関連検査

(7) 塗抹・培養検査

結核登録患者管理検診、結核患者接触者健診対象者に対して塗抹・培養検査を実施している。

令和元年度は 74 件の搬入があった。
結果は 2 件が陽性であった。

(4) I G R A 検査

結核患者接触者健診において T-SPOT.TB 検査を実施している。年間の検査件数は 832 件であった。検査結果は表 1 に示すとおり、陽性 61 件(7.33%)、陽性判定保留 26 件(3.13%)、陰性判定保留 29 件(3.49%)、陰性 695 件(83.53%)、判定不可 21 件(2.52%)であった。

(5) 結核菌分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、平成 25 年度から川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR 法で遺伝子解析を行っている。令和元年度から解析領域を 24 領域に拡大し、解析を実施している。

令和元年度は菌株 66 株が搬入され遺伝子解析を行った。更に、患者の疫学情報とあわせて分析を行い、菌バンクとしてデータを蓄積した。

また、特定の患者同士の突合依頼が 4 件あり、分析を行った。

イ レジオネラ属菌検査

浴槽水等の環境水、レジオネラ症患者発生時の患者喀痰や患者環境調査検体等からのレジオネラ属菌の分離培養を行った。また、遺伝子検査として LAMP 法を行った。

レジオネラ属菌検査の総数は 282 件、LAMP 法は 32 件だった。

各検査材料別の件数および検出血清型は

表 2 に示すとおりである。

ウ 感染症発生動向調査

A 群溶血性レンサ球菌検査について、令和元年度は 21 件の搬入があった。このうち 15 件で A 群溶血性レンサ球菌が検出された。T 型別は表 3 に示すとおり、T1 が 1 件、T2 が 1 件、T4 が 1 件、T6 が 2 件、T12 が 3 件、T25 が 2 件、TB3264 が 3 件、型別不能が 2 件であった。

エ 感染症細菌検査

感染症の発生に伴う細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について検査を実施した。

インフルエンザ菌は 7 株搬入され、全て non-typable (NTHi) であった。

劇症型溶血性レンサ球菌は 19 症例 23 株搬入され、A 群 12 株、G 群 11 株であった。

髄膜炎菌は、菌株が 1 症例 2 株搬入され B 群であった。

肺炎球菌は 44 症例 52 株の搬入があり、血清型別を行った。血清型別結果は表 4 に示すとおりである。

表1 T-SPOT.TB検査

依頼件数	陽 性	陽性判定保留	陰性判定保留	陰 性	判定不可
832	61(7.33%)	26(3.13%)	29(3.49%)	695(83.53%)	21(2.52%)

表2 レジオネラ属菌検出状況

血清群		環境					感染症		計
		浴槽水	シャワー水	冷却塔水	採暖槽水	その他	喀痰	患者環境調査	
<i>L. pneumophila</i>	SG1	2 ^{**}	1		2		9 ^{**}	1 ^{**}	15 ^{**}
	SG3	2							2
	SG4	1							1
	SG5	7 ^{**}							7 ^{**}
	SG6	9 ^{**}			4				13 ^{**}
	SG7						1 ^{**}		1 ^{**}
	SG8	4 ^{**}			2			2 ^{**}	8 ^{**}
	SG10	1							1
	SG12	2							2
	血清群不明	1							1
	<i>L. spp</i>		1						
検出数計		30	1	0	8	0	10	3	52
総検体数		184	6	0	29	0	24	39	282

※同一検体より複数の血清群が分離されたもの

表3 A群溶血性レンサ球菌 T 型別

区分	T 型別								計
	T1	T2	T4	T6	T12	T25	TB3264	型別不能	
件数	1	1	1	2	3	2	3	2	15

表4 肺炎球菌 血清型別

区分	血清型別																			計		
	13価ワクチン含有株			24価ワクチン含有株																		
	3	7F	19A	10A	11A/E	12F	20	22F	33F	6C	6D	7C	15A	23A	24B	24F	31	35B	35F		37	38
件数(15歳以上)	6	2	1	1	5	3	2	4	1	1	1	1	1	3	1		2	1	1	1	1	39
件数(15歳未満)									1						1	2			1			5

(3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく感染症発生動向調査事業ならびに感染症対策における積極的疫学調査等により採取された検体のウイルス、リケッチア及びクラミジア検査、「食品衛生法」に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルス検査及び衛生動物検査を行っている。

ア 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検査

市内定点医療機関において咽頭結膜熱、手足口病、無菌性髄膜炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎ならびに脳炎・脳症等と診断された患者から採取された 364 検体について、細胞によるウイルス分離培養、PCR等で検査を行ったところ 327 件からウイルスが検出された。その月別件数を表 1、疾患別件数を表 2 に示した。

イ 感染症対策におけるウイルス検査

(7) 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

小学校の集団かぜ初発患者から鼻腔ぬぐい液を採取し、PCR及びウイルス分離培養にて検査を行った。その結果、7 集団でインフルエンザウイルスが検出された(表 3)。

(4) 発熱発疹性ウイルス検査

麻しんならびに風しん疑い症例における病原ウイルス検索のため、患者 110 名の検体について RT-PCR 及びシーケンス法を行った。その結果、麻しんウイルス 9 例、風しんウイルス 23 例が検出された(表 4)。

(7) デングウイルス検査

海外渡航歴においてデングウイルス感染を疑う患者 9 名について RT-PCR 法ならびにリアルタイム PCR 法による検査を行ったところ、デングウイルス 8 例が検出された(表 5)。

(1) A 型肝炎・E 型肝炎ウイルス検査

医療機関において A 型肝炎または E 型肝炎と診断された患者 33 名について

RT-PCR を行ったところ、A 型肝炎ウイルス 6 例、E 型肝炎ウイルス 8 例が検出された(表 6)。

ウ ライトトラップによる蚊の捕獲と蚊媒介ウイルス検査

市内 7 箇所 8 地点の保健所等でライトトラップを設置し、令和元年 5 月から 10 月まで蚊を毎週 1 回捕集した。種別した雌蚊 166 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカについてはデングウイルス及びチクングニアウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルスは検出されなかった(表 7)。

エ 食中毒等起因ウイルスならびに食品等のウイルス検査

食中毒等で搬入された 166 検体についてリアルタイム PCR 及び RT-PCR を行ったところ、ノロウイルス 52 件が検出された(表 8)。また、食中毒に伴う食品検査ならびに市内に流通している食品(生かき)等 177 検体について RT-PCR を行ったところ、ノロウイルスは検出されなかった(表 10)。

表1 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（月別）

発症年月	H31.4	R1.5	6	7	8	9	10	11	12	R2.1	2	3	合計
検査件数	28	21	18	27	19	19	17	29	88	65	20	13	364
検出数	27	21	15	21	15	17	19	27	84	57	18	6	327
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1		1	2	1	7	3	19	63	47	5	1	150
インフルエンザウイルスAH3	6		1				1		2	1			11
インフルエンザウイルスB ^ビ 外 ^リ A系統	7	1	1	1	1				4	6	10	2	33
インフルエンザウイルスB系統不明	2	1					1				2	1	7
パラインフルエンザウイルス3型			1										1
RSウイルス	1	1	1	4	5	3	3			1	1		20
ライノウイルス	1								1				1
アデノウイルス1型			2										2
アデノウイルス2型								1					1
アデノウイルス3型		1			1		1		3				6
アデノウイルス4型			1				1						2
アデノウイルス37型						1						1	2
アデノウイルス53型								1					1
コクサッキーウイルスA6型		1	2	7	2								12
コクサッキーウイルスA16型			1	1	2	3		2	4				13
コクサッキーウイルスB3型					1				1				2
コクサッキーウイルスB5型					1								1
エコーウイルス11型						1	1						2
単純ヘルペス1型							1		1				2
EBウイルス		1				1	1	1					4
サイトメガロウイルス				1			1	1					3
水痘ウイルス		3	1	3		1			1				9
ヘルペスウイルス6型	1	1		2	1		3	1	1			1	11
ヘルペスウイルス7型		3					2	1	2	1			9
ロタウイルスG1P[4]	1												1
ロタウイルスG2P[4]	1												1
ロタウイルスG3P[8]	1		2							1			4
ロタウイルスG8P[8]	4	6	1										11
ロタウイルスG9P[8]	1	2											3
ノロウイルスGII.4									1				1

表2 感染症発生动向調査におけるウイルス検出状況（疾患別）

	インフル エンザ	R S ウイルス	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 疹	水 痘	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	咽 頭 結 膜 熱	流 行 性 角 結 膜 炎	流 行 性 耳 下 腺 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	感 染 性 胃 腸 炎	急 性 脳 炎	合 計
検出数	203	19	0	1	3	30	1	10	3	0	11	21	25	327
インフルエンザウイルスAH1pdm09	147												3	150
インフルエンザウイルスAH3	11													11
インフルエンザウイルスB ^{H7N9} 系統	33													33
インフルエンザウイルスB系統不明	7													7
パラインフルエンザウイルス3型	1													1
R Sウイルス	1	19												20
ライノウイルス	2													2
アデノウイルス1型								2						2
アデノウイルス2型								1						1
アデノウイルス3型	1							5						6
アデノウイルス4型								2						2
アデノウイルス37型									2					2
アデノウイルス53型									1					1
コクサッキーウイルスA6型						11	1							12
コクサッキーウイルスA16型						12					1			13
コクサッキーウイルスB3型											2			2
コクサッキーウイルスB5型											1			1
エコーウイルス11型											1	1		2
単純ヘルペス1型											1	1		2
EBウイルス						1							3	4
サイトメガロウイルス						1							2	3
水痘ウイルス					2	2					5			9
ヘルペスウイルス6型						2							9	11
ヘルペスウイルス7型				1	1	1							6	9
ロタウイルスG1P[4]												1		1
ロタウイルスG2P[4]												1		1
ロタウイルスG3P[8]												4		4
ロタウイルスG8P[8]												11		11
ロタウイルスG9P[8]												3		3
ノロウイルスGII.4												1		1

表3 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検査				ウイルス型
			AH1pdm09	A香港型	B型山形系統	B型 ^{H7N9} 系統	
R1.09.12	川崎区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09
R1.11.20	宮前区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09
R1.11.27	幸区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09
R1.11.27	多摩区小学校	5	4/5	0/5	0/5	0/5	AH1pdm09
R1.11.27	麻生区小学校	4	3/4	0/4	0/4	0/4	AH1pdm09
R1.12.03	中原区小学校	2	2/2	0/2	0/2	0/2	AH1pdm09
R1.12.06	高津区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09

表4 発熱発疹性ウイルス検査

検査年月	H31.4	R1.5	6	7	8	9	10	11	12	R2.1	2	3	合計
検査件数	11	25	15	11	3	11	13	4	8	5	1	3	110
麻疹ウイルスB3	1	2										1	4
麻疹ウイルスD8		1				4							5
風しんウイルス1a						1							1
風しんウイルス2B		1											1
風しんウイルス1E	2	5	6	3			1	2	1	1			21

表5 デングウイルス検査

検査年月	H31.4	R1.5	6	7	8	9	10	11	12	R2.1	2	3	合計
検査件数	0	0	1	0	2	4	0	2	0	0	0	0	9
デングウイルス1型			1		1	1							3
デングウイルス2型					1	1							2
デングウイルス3型						1		1					2
デングウイルス4型								1					1

表6 A型肝炎・E型肝炎検査

	H31.4	R1.5	6	7	8	9	10	11	12	R2.1	2	3	合計
検査件数	2	1	3	6	6	1	1	6	1	4	1	1	33
A型肝炎ウイルスⅠA			1	1	2			1					5
A型肝炎ウイルスⅢA						1							1
E型肝炎ウイルスⅢ	1	1	1	1					1	1		1	7
E型肝炎ウイルスⅣ				1									1

表7 ライトトラップにおけるウエストナイルウイルス、デングウイルスならびにチクングニアウイルスの検査数と蚊の種別捕集数

採取月	R1.5	6	7	8	9	10	総計
川崎保健所	3	8	7	5	7	1	31
幸保健所	1	1	6	5	5	0	18
中原保健所	2	2	5	3	4	1	17
高津保健所	0	1	5	3	7	1	17
宮前保健所	1	6	7	4	5	1	24
多摩保健所	0	1	5	2	5	0	13
麻生保健所	6	10	10	7	11	2	46
合計	13	29	45	29	44	6	166

蚊の種類	R1.5	6	7	8	9	10	総計
アカイエカ群	11	12	18	4	5	5	55
ヒトスジシマカ	6	57	230	161	364	116	934
コガタアカイエカ	0	0	2	0	0	0	2
キンパラナガハシカ	0	1	4	1	27	19	52
ヤマトヤブカ	15	10	23	9	8	7	72
オオクロヤブカ	1	2	4	1	3	3	14
総計	33	82	281	176	407	150	1129

ウエストナイルウイルス	陰性						
デングウイルス	陰性						
チクングニアウイルス	陰性						
フラビウイルス(ジカウイルス含む)	陰性						

表8 食中毒起因ウイルス検査

検査年月	H31.4	R1.5	6	7	8	9	10	11	12	R2.1	2	3	合計
検査件数	15	19	9	1	4	40	1	5	13	38	11	10	166
検出遺伝子型	4	0	3	0	9	12	0	0	3	14	3	4	52
ノロウイルスGⅡ.2	2								2				4
ノロウイルスGⅡ.3			3			12					1		16
ノロウイルスGⅡ.4	1	4							1	14	2	3	25
ノロウイルスGⅡ.6													3
ノロウイルスGⅡ.17	1											1	2

表9 食品からのノロウイルス検査

検査年月	H31.4	R1.5	6	7	8	9	10	11	12	R2.1	2	3	合計
検査件数	19	14	19	0	0	66	0	11	0	36	9	3	177
ノロウイルス													0

【第3章 試験検査】

1 月別検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
結核	分離・同定・検査・検出	5	12	7	7	5	5	10	7	4	7	2	3	74
	核酸検査	2	8	3	3	5	6	7	5	1	12	9	4	65
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性病	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス・リケッチア等検査	65	135	107	130	78	120	93	84	136	100	253	434	1,735
病原性微生物の動物試験	リケッチア	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラミジア・トラコマテイス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原虫・寄生虫等	原虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	そ族・節足動物	0	10	23	33	26	37	5	5	1	0	0	0	135
	真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病原性微生物検査	15	23	10	9	7	45	1	9	12	34	11	0	176
	細菌	15	19	9	1	4	40	1	5	13	38	11	10	166
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液等検査	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	7
	エイズ(HIV)検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	HBs抗原・抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他HCV	36	71	122	107	76	43	68	89	33	52	79	56	832
	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
食品等検査	微生物学的検査	131	225	249	178	175	285	142	197	201	89	16	2,024
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物)	12	21	38	53	55	25	49	34	29	75	42	506
	動物を用いる試験	1	0	1	1	1	0	4	1	1	0	0	11
	その他(ウイルスも含む)	0	3	12	0	16	11	3	2	3	0	0	3
	分離・同定・検出	16	25	38	60	71	25	29	28	34	18	12	371
	核酸検査	7	6	7	5	12	3	4	7	7	10	2	76
	抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医薬品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(上記以外)細菌検査	化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医療用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	毒劇物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水道等水質検査	0	0	0	0	30	6	22	12	13	0	15	116
	水道原水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生物学的水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物関係検査	細菌学的検査	0	0	1	0	7	6	13	11	36	12	0	86
	理化学的検査	0	0	1	0	7	6	15	11	36	12	3	95
	細菌学的検査	4	0	2	21	59	17	57	75	95	73	11	509
	利用水等(プール水等含む)	0	0	0	23	42	3	8	9	44	18	20	226
	一般廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生物学的水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生物学的水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
環境・公害関係検査	大気検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		有害化学物質・重金属等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		公共用水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		工場・事業場排水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境生物検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般室内環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放射能	0	2	0	0	0	2	0	0	2	6	0	2	0	14
	環境試料(雨水・空気・土壌等)	1	4	1	4	1	3	1	3	1	3	1	2	25
	食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	6	4	1	5	17	34	0	0	67

2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
結核	分離・同定・検出	0	74	0	0	0	74		73	
	核酸検査	0	10	1	0	54	65		65	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0	
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1. STS 定性	0	
								2. STS 定量	0	
								3. TPHA 定性	0	
								4. TOHA 定量	0	
								5. 梅毒(ELISA)	0	
							6. その他	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		(0)	
							1. 淋病	0		
							2. その他	0		
ウイルス・リケッチア等検査	分離・同定・検出	ウイルス	0	1,695	40	0	0	1,735		(2,021)
									1. 細胞培養	437
									2. 鶏卵培養	0
									3. 酵素抗体	0
									4. 蛍光抗体	0
									5. 遺伝子増幅	1,584
							6. その他	0		
								(2)		
							1. 細胞培養	0		
							2. 鶏卵培養	0		
							3. 酵素抗体	0		
							4. 蛍光抗体	0		
							5. 遺伝子増幅	2		
							6. その他	0		
								(0)		
							1. 細胞培養	0		
							2. 鶏卵培養	0		
						3. 蛍光抗体	0			
						4. 遺伝子増幅	0			
						5. その他	0			
抗体検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1. 中和試験	0	
								2. HI試験	0	
								3. CP試験	0	
								4. 酵素抗体	0	
								5. ワイル・フェリックス反応	0	
						6. その他	0			
							0			
							0			
							(0)			
							1. 性器クラミジア抗体IgA	0		
							IgG	0		
								0		
	病原微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0		0	

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
原虫・寄生虫	原虫	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1. アメーバー赤痢	0	
								2. その他	0	
	寄生虫	0	0	1	0	0	1	(1)		
								1. 蟻虫	0	
								2. その他	1	
	そ族・節足動物	0	112	23	0	0	135	(135)		
								1. 害虫動物	23	
								2. 殺虫効力試験	0	
								3. 生態習性試験	0	
							4. その他	112		
真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0			
食中毒	病原微生物検査	細菌	0	176	0	0	0	176	(3579)	
									1. 食中毒病原菌21菌種	3,528
									2. 腸管出血大腸菌	10
								3. その他の細菌	41	
	ウイルス(SRSV)(A型肝炎)	0	157	9	0	0	166	(166)		
								1. SRSV電子顕微鏡	0	
								2. NV遺伝子増幅	166	
							3. その他の細菌	0		
核酸検査	0	0	0	0	0	0	0			
理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0			
その他	0	0	0	0	0	0	0			
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0		
	エイズ(HIV)検査	0	7	0	0	0	7	(6)		
								1. PA法	0	
								2. 確認試験(W,B)	6	
		HBs抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	0	(0)	
									1. HBs抗原	0
									2. HBs抗体	0
								3. HBe抗原	0	
								4. HBe抗体	0	
							5. IgMHBc抗体	0		
							6. その他	0		
	その他	0	710	122	0	0	832	(832)		
								1. HCV抗体	0	
							2. QFT	0		
							3. その他	832		
生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0	0	0			
尿検査	尿一般	0	0	0	0	0	0			
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0	0	0			
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0			
その他	0	0	0	0	0	0	0			

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
食品等検査	微生物学的検査	0	2,005	19	0	0	2,024		(11,878)	
	食品細菌	0	1,657	0	0	0	1,657		(9,768)	
								1. 生菌数	1,617	
								2. 大腸菌数	1,610	
	食中毒細菌(食品・ふき取り等)	0	190	0	0	0	190		(1,936)	
								1. 食中毒病原菌21菌種	1,869	
								2. 腸管出血大腸菌	38	
	食中毒ウイルス(食品等)	0	158	19	0	0	177		(174)	
								1. 電子顕微鏡	0	
								2. 遺伝子増幅	174	
	(上記以外)細菌検査	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	282	3	0	221	506		(11,049)
		食品添加物	0	189	3	0	101	293		(911)
									1. 食品添加物	797
									2. 遺伝子組換え食品	40
		残留農薬	0	93	0	0	120	213		10,138
1. 残留農薬									(9,985)	
2. 動物用医薬品									9,222	
動物を用いる試験		0	5	5	0	1	11		11	
								3. 金属類	763	
								4. その他	0	
その他		0	27	0	0	26	53		(171)	
								1. 炭水水素等	0	
								2. その他	66	
分離・同定・検出		0	291	7	0	73	371		(423)	
								1. 赤痢菌	7	
	2. サルモネラ(腸・バラ含む)							10		
	3. 病原大腸菌							12		
	4. 腸炎ピブリオ							3		
	5. コレラ菌							3		
	6. 病原ブドウ球菌							0		
	7. カンピロバクター・ジエジュ/コリー							6		
	8. 腸管出血大腸菌							164		
	9. その他の腸管病原菌							21		
	10. レンサ球菌							74		
	11. その他の細菌							123		
核酸検査	0	15	0	0	61	76		0		
抗体検査	0	0	0	0	0	0		0		
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0	0		0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0		0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0		0	
	医療用具	0	0	0	0	0	0		0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0		0	
	家庭用品	0	108	0	0	8	116		(333)	
								1. ホルムアルデヒド	86	
								2. 有機水銀化合物	10	
								3. トルフェニル銀化合物	10	
								4. トリブチル錫化合物	10	
								5. 酸/アルカリ定量	2	
							6. 容器試験	2		
							7. テトクロクロエチレン	3		
							8. トリクロロエチレン	3		
							9. メタノール	0		
							10. 蛍光	0		
							11. その他	207		
	その他	0	19	0	0	0	19	1. 健康食品等	119	
栄養関係検査		0	0	0	0	0	0	1. 成分検査	0	
水道等水質検査	水道 原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		0
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0		0
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		0
	飲用水	細菌学的検査	0	86	0	0	0	86		(172)
									1. 一般細菌数	86
									2. 大腸菌等	86
									3. その他	0
		理化学的検査	0	93	0	0	2	95		(966)
									1. 井戸水	860
									2. 貯槽水	0
								3. 船舶水	0	
							4. 簡易水道水	0		
							5. 専用水道水	36		
							6. 水道直結栓水	0		
							7. その他	70		
(プール水等を含む)	細菌学的検査	0	507	2	0	0	509		(896)	
								1. 一般細菌数	314	
								2. 大腸菌群	313	
								3. その他	269	
	理化学的検査	0	226	0	0	0	226		(462)	
								1. プール水	158	
								2. その他	304	

		依頼によるもの				依頼によ らないも の(5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)
		住民(1)	保健所(2)	保健所以 外の行政 機関(3)	その他 (医療機 関、学 校、事務 所)(4)				
廃棄物 関係 検査	一般 廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0		0
		理化学的検査	0	0	0	0	0		0
		生物学的検査	0	0	0	0	0		0
	産業 廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0		0
		理化学的検査	0	0	0	0	0	1. 汚泥	0
		生物学的検査	0	0	0	0	0		0
環境・ 公害 関係	大気 汚染	SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0		0
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0		0
		降下煤塵	0	0	0	0	0		0
		有害化学物質・重金属	0	0	0	0	0		0
		酸性雨	0	0	0	0	0		0
		その他	0	0	0	0	0		0
		水道 検査	公共用水	0	0	0	0	0	
								1. 河海水底質	0
								2. その他	0
	工場・事業場排水		0	0	0	0	0		(0)
								1. 工場・事業場排水	0
								2. その他	0
	環境生 検物 査	浄化槽放流水	0	0	0	0	0		0
		その他	0	0	0	0	0		(0)
								1. 一般細菌数	0
								2. 大腸菌群	0
							3. その他	0	
		騒音・振動	0	0	0	0	0		0
		土壌・低質検査	0	0	0	0	0		0
		藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0		0
		その他	0	0	0	0	0		0
	一般室内環境	0	0	0	0	0	1. 落下細菌	0	
	その他	0	0	0	0	0		0	
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)	0	0	14	0	0	14		(28)
							1. セシウム134	14	
							2. セシウム137	14	
							3. ヨウ素131	0	
	食品	0	12	13	0	0	25		(50)
								1. セシウム134	25
								2. セシウム137	25
							3. ヨウ素131	0	
	その他	0	0	0	0	0		(0)	
							1. セシウム134	0	
							2. セシウム137	0	
							3. ヨウ素131	0	
	温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0		0	
	その他	0	21	0	0	46		67	
	計	0	6,640	259	0	492	7,391		33,495

3 食品別検査項目内訳

(1) 食品別検査項目内訳 (理化学検査)

区分		項目		総検体数	総項目数	着色料	保存料	発色剤	漂白剤	甘味料	強化剤	殺菌料	酸化防止剤	品質保持剤	防かび剤	酸味料	その他の添加物	不許可添加物	水分活性	品質検査	シアン化合物	マイコトキシン	魚介毒	塩分濃度	酸価過酸化物価	動物用医薬品	規格試験	食品成分	P C B	残留農薬	放射能	重金属	遺伝子組換え食品検査	特定原材料検査	その他						
魚介類				23	142																		18			91					24				9						
魚介類	ねり製品																																								
加工品	その他		5	7	20		1				6									2			1	1						4											
食肉及びその加工品	食肉			19	314																					236					78										
卵及びその加工品	食肉製品		14	19	41	6	18												1							144															
穀類及びその加工品	卵及びその加工品			8	144																																				
野菜果実類及びその加工品	穀類及びその加工品		6	38	127	1	3				2	15						2																							
野菜果実類及びその加工品	漬物		10	25	69	5	3											6		19			19																		
野菜果実類・その他	その加工品		7	74	2,349	3	1											8																							
豆類及びその加工品	野菜果実・その他			2	38																1																				
乳及びその加工品	豆類及びその加工品			10	20																																				
その加工品	乳類		4	7	12	1	4																																		
調味料	その加工品		21	11	45	3	21				4																														
菓子類	調味料		12	24	65	17	12																																		
清涼飲料水	菓子類		4	21	79	4	11																																		
酒精飲料	清涼飲料水		6	5	31	3	6																																		
油脂類	酒精飲料																																								
びん詰・缶詰食品	油脂類		8	9	34	3	8																																		
健康食品	びん詰・缶詰食品			0	0																																				
その他の食品	健康食品		7	13	21	2	7																																		
食品添加物	その他の食品			0	0																																				
器具及び容器包装	食品添加物			3	6																																				
おもちゃ	器具及び容器包装			4	15																																				
その他	おもちゃ																																								
合計	その他			322	3,572	48	111	18	23	39	0	0	12	15	16	0	0	74	1	22	1	2	19	20	0	471	38	0	0	2,489	50	57	21	16	9						

4 水質別検査項目内訳

区分		項目		総検体数	総項目数	外観・濃度・色度・臭・味	pH	窒素化合物	有機物	硬度	陽イオン類	陰イオン類	蒸発残留物	残留塩素	溶存酸素	COD	BOD	浮遊物質	陰イオン界面活性剤	n-ヘキサノ可溶性物質	その他の理化学試験	一般細菌数	大腸菌又は大腸菌群	その他の細菌学的試験	放射能		
飲料水検査	水道水	浄水	貯水槽水(細)																								
			その他(ウォータータワー)																								
			貯水槽水(理)	7	91							48										43					
			その他(ウォータータワー)																								
	井戸水	水道原水	4	8																					8		
		水道配水	4	8																					8		
		井戸水(細)	87	174																			87	87			
		その他(ネラルウォーター)																									
		井戸水(理)	86	860			258	86	172	86	86	86	86														
		その他(ネラルウォーター)																									
利用水関係検査	中水道水(細)																										
	その他																										
	中水道水(理)																										
	その他																										
下水関係検査	生物学的検査																										
	下水(細)																										
	その他																										
	下水(理)																										
清掃関係検査	生物学的検査																										
	し尿																										
	浄化放流水(細)																										
	浄化槽水																										
公害・一般環境検査	河川	汚濁	浄化放流水(理)																								
			浄化槽水																								
			浄化放流水(理)																								
			浄化槽水																								
	その他(浄水発生土)	生物学的検査																									
		その他																									
		河川																									
		河川水底質																									
		産業排水																									
		その他(コレラ)																									
温泉(鉱泉)	浴槽水	474	766			144	2														144	146	146	184			
	プール水・採暖槽水	193	365			82	8														82	82	82	29			
	その他(リンクタワー)																										
	その他(海水)																										
その他(シャワー水等)	温泉(鉱泉)																										
	その他(シャワー水等)	6	6																					6			
合計			861	2,278	484	96	172	86	86	134	86									269	315	315	219	16			

【第4章 調査研究】

1 令和元年度調査研究課題一覧

令和元年度に当研究所で実施した調査研究課題を次に示す。

令和元年度調査研究課題一覧

研究課題名	担当	研究の種類
ドライフルーツの遺伝子組換え食品検査における検知不能となる事象の検証	食品	共同研究
地方自治体試験施設における人体(血液・尿等)試料中の有害物質の検査法の開発と標準化～試料の取扱いの標準化～	食品	共同研究
食品中の食品添加物分析法の設定 (クエン酸、コハク酸、酢酸、酒石酸、乳酸、フマル酸、リンゴ酸及びそれらの塩類の分析法の検証)	食品	共同研究
タイプAトリコセシ系カビ毒とエンニアチン類の分析法の確立及び汚染実態調査に関する研究	食品	共同研究
精神疾患における脳脊髄液及び血漿中ミネラル濃度に関する研究	水質・環境	共同研究
器具・容器包装におけるビスフェノールAの溶出試験の性能評価	水質・環境	共同研究
人体(血液・尿等)試料中の有害物質の検査法の開発と標準化	残留農薬・放射能	共同研究
食品中の保存料・甘味料一斉分析法の検討	理化学担当	経常研究
ISO/IEC 17025認定取得に向けた試験所の検討に関する研究	理化学担当	共同研究
免疫磁気ビーズを用いた食品からの腸炎ビブリオ分離法の検討	消化器・食品細菌	経常研究
カルバペネマーゼ非産生カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の薬剤耐性機構の解明	消化器・食品細菌	経常研究
川崎市における薬剤耐性菌の分離状況の把握と耐性機序の検討(三年目)	消化器・食品細菌	共同研究
鶏肉製品(内臓製品を含む。)におけるカンピロバクター属菌の定量的汚染実態に関する研究	消化器・食品細菌	共同研究
結核菌における次世代シーケンサーによる解析の検討	呼吸器・環境細菌	経常研究
環境中のレジオネラ属菌の分布状況の調査	呼吸器・環境細菌	経常研究
川崎市内におけるA群溶血性レンサ球菌の遺伝子型別解析	呼吸器・環境細菌	経常研究
レジオネラ属菌の遺伝子迅速検査法の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
神奈川県内に蔓延している結核菌株の流行動態調査への研究協力	呼吸器・環境細菌	共同研究
川崎市内における肺炎球菌の血清型分布状況について	呼吸器・環境細菌	共同研究
ロタウイルスワクチン株の二枚貝からの検出状況	ウイルス・衛生動物	共同研究
麻疹・風疹排除のためのサーベイランス強化に関する研究(AMED研究森班岡本小班)	ウイルス・衛生動物	共同研究
下痢症ウイルス感染症の分子疫学および流行予測に関する研究(AMED研究木村班)	ウイルス・衛生動物	共同研究
「ウイルス性呼吸器感染症の診断機能向上に関する研究」(都道府県等におけるMERS & Flu RT-LAMP法の試用)	ウイルス・衛生動物	共同研究
国内ならびにグローバルサーベイランスのためのRSウイルス感染症に関する検査システムの開発研究(AMED研究 竹田班木村小班)	ウイルス・衛生動物	共同研究

研究課題名	担当	研究の種類
感染症が疑われる患者検体を用いた感染症迅速診断キットに関する検討(インフルエンザ)	ウイルス・衛生動物	受託研究
3類等感染症のMultistate Outbreakの可視化疫学解析システムの開発	感染症情報センター	共同研究
川崎市感染症情報発信システムを用いたEBS(Event based surveillance)の試み	感染症情報センター	共同研究
川崎市感染症情報発信システムを用いたEBS(Event based surveillance)の試みー過粘稠性肺炎桿菌(hypermucoviscous <i>Klebsiella pneumoniae</i> : hvKP)の発生状況の把握と重症例の解析に関する研究ー	感染症情報センター	共同研究
環境、気候変動と感染症流行動態	感染症情報センター	共同研究
川崎市健康安全研究所における職員のウイルス抗体価調査	感染症情報センター	共同研究
腸管出血性大腸菌の病原体保有者に対する抗菌薬投与と排菌期間の関連を検討する後ろ向きコホート研究	感染症情報センター	共同研究
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る全国的な動向に関する研究	所長	共同研究
感染症予防ワクチンの非臨床試験・臨床試験ガイドラインに関する研究	所長	共同研究
HPVワクチンの安全性に関する研究	所長	共同研究
ワクチンの有効性安全性、啓発に関する研究	所長	共同研究
HPVワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究	所長	共同研究
異種抗原を発現する組換え生ワクチンの開発における品質／安全性評価のありかたに関する研究	所長	共同研究
		計 37課題

研究の種類について

研究の種類	内容	課題数 [※]
経常研究	職員の通常業務上からの発想に基づく研究	6
共同研究	国、地方公共団体、大学及び民間企業等と研究内容を分担し、共同で実施する研究	30
受託研究	他の機関から委託を受けて行う研究	1
	合計	37

※令和元年度件数

2 調査研究報告等実績一覧

令和元年度の調査研究成果の報告実績を次に示す。

(1) 令和元年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
H31.4.6	川崎市における百日咳サーベイランスー2018年	第93回日本感染症学会学術講演会	名古屋国際会議場	○三崎貴子, 丸山 絢, 岡部信彦
H31.4.21	保育所におけるICT・IoTを活用したコミュニケーションツールの有用性評価	第122回日本小児科学会学術集会	ホテル日航金沢	○三崎貴子, 岡部信彦
R1.6.6	川崎市におけるT-SPOT.TB検査の実施状況について	第9回特定非営利活動法人結核感染診断研究会総会	大分県 全労済ソレイユ	○原俊吉, 淀谷雄亮, 湯澤栄子, 本間幸子
R1.6.28	川崎市感染症発生時対応訓練ー平成29年度ブライント訓練ー	令和元年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所第4庁舎	○伊達千晶, 大塚吾郎, 小泉祐子, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
R1.9.7	2018年に川崎市で分離された腸管出血性大腸菌の分子疫学解析について	第86回神奈川県感染症医学会	横浜市情報文化センター	○安澤洋子, 小嶋由香, 佐々木国玄, 阿部光一郎, 福島和弥, 本間幸子, 岡部信彦
R1.9.7	成人における風疹特異IgM抗体価と臨床症状に関する検討ー川崎市多摩区ー	第86回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○南 直真, 丸山 絢, 佐竹郁子, 瀧澤浩子, 眞川幸治, 塚本和秀, 三崎貴子, 岡部信彦
R1.9.7	薬剤耐性菌感染症対策における川崎市の取り組み	第86回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○小泉祐子, 丸山 絢, 吉岩宏樹, 三崎貴子, 岡部信彦
R1.9.26	川崎市に於けるインフルエンザ用疾患からのウイルス検出状況	第34回関東甲信静支部ウイルス研究会	宇都宮市民プラザ	○駒根綾子, 若菜愛澄, 松島勇紀, 清水英明, 本間幸子, 岡部信彦
R1.10.3	鶏肉からの <i>Escherichia albertii</i> 検出法のためのnested PCRの検討	日本食品衛生学会第115回学術講演会	タワーホール船堀	○新井沙倉, 大塚佳代子, 小西典子, 床井由紀, 土屋彰彦, 小嶋由香, 長岡宏美, 大屋賢司, 甲斐明美, 工藤由紀
R1.10.17	レジオネラ症患者から分離された菌株等におけるSBT法による遺伝子型別について	第68回日本感染症学会東日本地方会	仙台国際センター	○淀谷雄亮, 原俊吉, 湯澤栄子, 本間幸子, 前川純子, 森田昌知, 大西真, 岡部信彦
R1.10.24	麻疹アウトブレイクにおける保健所の業務負荷となる状況の発生と患者数の傾向	第78回日本公衆衛生学会総会	高知会館	○小林祐介, 井澤智子, 緒方 剛, 亀之園明, 木村竜太, 国吉秀樹, 坂本龍彦, 杉下由行, 鈴木まき, 中里栄介, 西田敏秀, 三崎貴子
R1.10.25	川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況及び重症化リスク因子の検討ー2018年ー	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	○丸山 絢, 八幡裕一郎, 三崎貴子, 岡部信彦
R1.10.25	川崎市におけるアメーバ赤痢の発生状況ー2007年~2018年の動向についてー	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	○池田史朗, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
R1.10.25	新興・再興感染症対策と危機管理の脆弱性評価ガイドランスの開発と実装手法の確立	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	○齋藤智也, 中瀬克己, 中里栄介, 調恒明, 三崎貴子, 丸山 絢, 岸本 剛, 皆川洋子, 大曲貴夫, 神谷 元, 森永裕美子, 四宮博人, 田村大輔
R1.10.25	川崎市リアルタイムサーベイランスを用いたインフルエンザ警報・注意報基準値の検討	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	○武田悠希, 道川武紘, 朝倉敬子, 今村晴彦, 中村孝裕, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦, 橋爪真弘, 村上義孝, 西脇祐司
R1.10.26	川崎市における急性脳炎の発生状況ー2007年~2018年	第51回日本小児感染症学会学術集会	星野リゾートOMO7旭川	○三崎貴子, 池田史朗, 丸山 絢, 清水英明, 岡部信彦
R1.11.7	Relationship between real-time influenza surveillance data by age group and circulating virus type in Kawasaki-city, Japan, during epidemics from 2014/15 to 2018/19	The 11th World Congress of the World Society for Pediatric Infectious Diseases	Philippine International Convention Center	○丸山 絢, 池田史朗, 三崎貴子, 岡部信彦
R2.1.31	川崎市におけるカルバペネム耐性腸内科細菌(CRE)の検出状況について	第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会	石川県立音楽堂、日航金沢	○小嶋由香, 安澤洋子, 佐々木国玄, 阿部光一郎, 本間幸子, 岡部信彦, 松井真理, 鈴木里和, 菅井基行
R2.2.14	川崎市における咽頭炎由来A群溶血性レンサ球菌の型別及び薬剤感受性遺伝子の保有状況	第32回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究会	埼玉県男女共同参画推進センター With You さいたま	○原俊吉, 淀谷雄亮, 湯澤栄子, 本間幸子, 岡部信彦

R2.2.14	川崎市における2016～2018年に分離された腸管出血性大腸菌の分子疫学解析について	第32回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	埼玉県男女共同参画推進センター With You さいたま	○安澤洋子, 福島和弥, 佐々木国玄, 阿部光一朗, 小嶋由香, 本間幸子, 岡部信彦
R2.2.14	薬剤耐性菌感染症対策における川崎市の取り組み	第35回日本環境感染学会学術集会	パシフィコ横浜	○小泉祐子, 丸山 絢, 吉岩宏樹, 三崎貴子, 岡部信彦
R2.2.16	川崎市における百日咳サーベイランス 2018-2019年	第11回予防接種に関する研究報告会	新大沼ビル FORUM8	○三崎貴子, 田中友, 池田史朗, 丸山 絢, 岡部信彦
R2.2.21	マイクロ波試料前処理装置を用いた鉛分析時に発生したブランク汚染の原因について	令和元年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第32回理化学研究部会総会・研究会	杜のホールはしもと	○佐野達哉, 江原康, 江崎康司, 岸美紀, 橋口成喜
R2.2.21	多摩川産アユ中の環境汚染物質調査結果 (2005～2019年度)	令和元年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第32回理化学研究部会総会・研究会	杜のホールはしもと	○田中佑典, 高居久義, 牛山温子, 小林亨, 石丸陽子, 泉浩人, 橋口成喜

(2) 令和元年度学会発表実績(示説発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
R1.10.3～4	合成樹脂製の器具・容器包装における溶出試験の精度の検証	日本食品衛生学会第115回学術講演会	タワーホール船堀	○尾崎麻子, 六鹿元雄, 岸映里, 阿部智之, 阿部裕, 安藤景子, 石原絹代, 牛山温子, 内田晋作, 大坂郁恵, 大野浩之, 大野雄一郎, 風間貴光, 加藤千佳, 小林尚, 佐藤環, 柴田博, 齋部博則, 関戸晴子, 高島秀夫, 田中葵, 外岡大幸, 花澤耕太郎, 山口未来, 山田悟志, 吉川光英, 渡辺一成, 佐藤恭子
R1.10.3～4	食品テロ対策のための人体試料(血液・尿等)中のカルバメート系農薬の分析法検討	日本食品衛生学会第115回学術講演会	タワーホール船堀	○田口貴章, 山下涼香, 岸美紀, 赤星千絵, 岡部信彦, 穂山浩
R1.10.3～4	食品中のステリグマトシスチンの分析法の検討及び汚染実態調査	日本食品衛生学会第115回学術講演会	タワーホール船堀	○吉成知也, 小杉正樹, 佐藤英子, 下山晃, 竹内浩, 谷口賢, 福光徹, 藤吉智治, 小西良子, 大西貴弘, 工藤由起子
R1.10.23	地域における感染症情報提供の現状と課題(第2報)	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	○神谷信行, 中野道晴, 三崎貴子, 丸山 絢, 鈴木智之, 灘岡陽子, 中村廣志
R1.10.24	川崎市における帰国者・接触者外来設置訓練の実施と今後の課題について	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	○阪田敬子, 林 露子, 土岐岳子, 三崎貴子
R1.12.5～6	LightCycler®480を用いた遺伝子組換え食品検査の検討	第56回全国衛生化学技術協議会年会	広島国際会議場	○赤星千絵, 垣田 雅史, 本田 裕子, 佐藤英子, 大森 清美, 津田 清隆, 吉田裕一, 佐藤 弘樹, 関戸 晴子
R1.12.5～6	食品テロ対策のための人体試料(血液・尿等)中の有機リン系農薬の分析法検討	第56回全国衛生化学技術協議会年会	広島国際会議場	○田口貴章, 山下涼香, 岸美紀, 赤星千絵, 岡部信彦, 穂山浩
R1.12.5～6	食品中の食品添加物分析法改正に向けた検討(平成30年度)	第56回全国衛生化学技術協議会年会	広島国際会議場	○多田敦子, 堀江正一, 関戸晴子, 橋口成喜, 小林千種, 杉浦潤, 大槻崇, 中島安基江, 津田 清隆, 久保田浩樹, 建部千絵, 柳本登紀子, 寺見祥子, 杉本直樹, 佐藤恭子
R1.12.5～6	マイクロ波試料前処理装置を用いた食品中の鉛分析の検討及び汚染源の特定について	第56回全国衛生化学技術協議会年会	広島国際会議場	○佐野達哉, 江原康, 江崎康司, 岸美紀, 橋口成喜
R1.12.5～6	平成30年度室内空気環境汚染に関する全国実態調査	第56回全国衛生化学技術協議会年会	広島国際会議場	○酒井信夫, 田原麻衣子, 高木規峰野, 五十嵐良明, 千葉真弘, 柴田めぐみ, 沼野聡, 阿部美和, 竹熊美貴子, 横山結子, 大竹正芳, 角田徳子, 上村仁, 田中礼子, 高居久義, 平山智士, 柚木悦子, 小林浩, 鈴木光彰, 山本優子, 大野浩之, 南真紀, 藤本恭史, 吉田俊明, 古市裕子, 八木正博, 伊達英代, 荒尾真砂, 松本弘子, 吉村裕紀, 友寄喜貴

(3) 令和元年度学会発表実績(誌上発表)

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
R2.2.29	川崎市における咽頭炎由来A群溶血レンサ球菌の型別及び薬剤耐性遺伝子保有状況	第87回神奈川県感染症医学会	誌上開催	○原俊吉, 淀谷雄亮, 湯澤栄子, 本間幸子, 岡弁信彦
R2.2.29	川崎市におけるA型肝炎の発生状況－近年の特徴について	第87回神奈川県感染症医学会	誌上開催	○東川康嗣, 田中友, 池田史朗, 丸山絢, 駒根綾子, 清水英明, 津村和夫, 三崎貴子, 岡部信彦

(4) 令和元年度論文掲載実績

下線: 健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
Nationwide Molecular Epidemiology of Measles Virus in Japan Between 2008 and 2017	Front Microbiol. Jul 4;10:1470, 2019	Fumio Seki, Masahiro Miyoshi, Tatsuya Ikeda, Haruna Nishijima, Miwako Saikusa, Masae Itamochi, Hiroko Minagawa, Takako Kurata, Rei Ootomo, Jumboku Kajiwara, Takashi Kato, Katsuhiko Komase, Keiko Tanaka-Taya, Tomimasa Sunagawa, Kazunori Oishi, <u>Nobuhiko Okabe</u> , Hirokazu Kimura, Shigeru Suga, Kunihisa Kozawa, Noriyuki Otsuki, Yoshio Mori, Komei Shirabe, Makoto Takeda, the <u>Measles Virus Surveillance Group of Japan</u> and the Technical Support Team for Measles Control in Japan
Variation of human norovirus GII genotypes detected in Ibaraki, Japan, during 2012-2018	Gut Pathog. May; 11: 26, 2019	Takumi Motoya, Masahiro Umezawa, Aoi Saito, Keiko Goto, Ikuko Doi, Setsuko Fukaya, Noriko Nagata, Yoshiaki Ikeda, Kaori Okayama, Jumpei Aso, <u>Yuki Matsushima</u> , Taisei Ishioka, Akihide Ryo, Nobuya Sasaki, Kazuhiko Katayama, Hirokazu Kimura
Regulatory aspects of quality and safety for live recombinant viral vaccines against infectious diseases in Japan/Vaccine	Vaccine. Oct 8;37(43):6573-6579, 2019	Akira Sakurai, Takashi Ogawa, Jun Matsumoto, Tetsunari Kihira, Shinji Fukushima, Ippei Miyata, <u>Hideaki Shimizu</u> , Shigeyuki Itamura, Kazunobu Ouchi, Atsuro Hamada, Kenzaburo Tani, <u>Nobuhiko Okabe</u> , Teruhide Yamaguchi
Evolutionary Analysis of the VP1 and RNA-Dependent RNA Polymerase Regions of Human Norovirus GII.P17-GII.17 in 2013-2017	Front Microbiol Nov;10:2189, 2019	<u>Yuki Matsushima</u> , Fuminori Mizukoshi, Naomi Sakon, Yen Hai Doan, Yo Ueki, Yasutaka Ogawa, Takumi Motoya, Hiroyuki Tsukagoshi, Noriko Nakamura, Naoki Shigemoto, Hideaki Yoshitomi, Reiko Okamoto-Nakagawa, Rieko Suzuki, Rika Tsutsui, Fumio Terasoma, Tomoko Takahashi, Kenji Sadamasu, <u>Hideaki Shimizu</u> , <u>Nobuhiko Okabe</u> , Koo Nagasawa, Jumpei Aso, Haruyuki Ishii, Makoto Kuroda, Akihide Ryo, Kazuhiko Katayama, Hirokazu Kimura
Molecular Evolution of the Protease Region in Norovirus Genogroup II	Front Microbiol. Jan;14: 2991, 2020	Keita Ozaki, <u>Yuki Matsushima</u> , Koo Nagasawa, Jumpei Aso, Takeshi Saraya, Keisuke Yoshihara, Koichi Murakami, Takumi Motoya, Akihide Ryo, Makoto Kuroda, Kazuhiko Katayama, Hirokazu Kimura

Molecular Evolution of the Fusion Protein (F) Gene in Human Respirivirus 3	Front Microbiol. 10:3054 ,2019	Jumpei Aso, Hirokazu Kimura, Haruyuki Ishii, Takeshi Saraya, Daisuke Kurai, <u>Yuki Matsushima</u> , Koo Nagasawa, Akihide Ryo, Hajime Takizawa
研究所紹介 川崎市健康安全研究所 ウイルス・衛生動物	臨床とウイルス12月号 47(5):435-439	<u>清水英明</u>
首都圏内の国際空港および商業施設での曝露が疑われたに遺伝子型D8の麻疹ウイルスによる広域散発事例について	病原体微生物検出情報 (IASR) Vol. 40 p.66-67: 2019年4月号	加賀優子, 小林祐介, 福住宗久, 高橋啄理, 駒瀬勝啓, 砂川富正, 松井珠乃, 大石和徳, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 小泉祐子, 黒澤仁美他
川崎市において短期間に経験した過粘稠性クレブシエラ・ニューモニエ感染症6例の検討	感染症学雑誌 2019 Vol.93No.3 p319-325	<u>三崎貴子</u> , 窪村亜希子, <u>丸山 絢</u> , 細田智弘, 坂本光男, 中島由紀子, 長島悟郎, 國島広之, 竹村 弘, <u>岡部信彦</u>
川崎市における急性脳炎の発生状況—2007年～2018年	病原体微生物検出情報 (IASR) Vol. 40 p.96-97: 2019年6月号	<u>三崎貴子</u> , <u>池田史朗</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>清水英明</u> , <u>岡部信彦</u>
Septic Meningitis and Liver Abscess due to Hypermucoviscous <i>Klebsiella pneumoniae</i> Complicated with Chronic Strongyloidiasis in a Human T-lymphotropic Virus 1 Carrier	Internal Medicine. 2020 Jan 1; 59(1): 129-133	Tomohiro Hosoda, Mitsuo Sakamoto, Hideki Orikasa, <u>Akiko Kubomura</u> , <u>Takako Masaki</u> , <u>Nobuhiko Okabe</u>
食品テロ対策のためのLC-MS/MSによる血液1・尿等人体試料中の有機リン系農薬の一斉分析法の検討	日本食品化学学会誌、Vol. 27(1), 33-37 (2020)	田口貴章, 山下涼香, 成島純平, <u>岸美紀</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>岡部信彦</u> , 亀山浩
Severe abnormal behavior incidence after administration of neuraminidase inhibitors using the national database of medical claims	J Infection and Chemotherapy 24(2018) 177-181	Nakamura Y, Sugawara T, Ohkusa Y, Taniguchi K, Miyazaki C, Momoi M, <u>Okabe N.</u>
Web survey-based selection of controls for epidemiological analyses of a multi-prefectural outbreak of enterohaemorrhagic Escherichia coli O157 in Japan associated with consumption of self-grilled beef hanging tender.	Journal: Epidemiology & Infection(2018) https://doi.org/10.1017/S0950268817003132 .	Y. Yahata, N. Ohshima, F. Odaira, N. Nakamura, H. Ichikawa, H. Ichikawa, K. Matsuno, J. Shuri, T. Toyozawa, J. Terajima, H. Watanabe, K. Nakashima, T. Sunagawa, K. Taniguchi, <u>N. Okabe</u>
Progress and challenge for the Japanese Immunization Programme : Beyond the “vaccine gap”	Vaccine. 36(30): 4582-4588, 2018	Saitoh A, <u>Okabe N.</u>
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動発症例における使用薬剤の組み合わせが不明であった症例の検討	厚生 の指標 65(1):21-24,2018	中村裕樹,大日康史,菅原民枝,谷口清州,宮崎千明,桃井真里子, <u>岡部信彦</u>
Evaluation of an ad hoc paper-based syndromic surveillance system in Ibaraki evacuation centres following the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Western Pac Surveill Response J. 2018 Dec;9(5). doi:10.5365/wpsar.2017.8.3.006	Matthew M Griffith, Yuichiro Yahata,a Fujiko Irie, Hajime Kamiya,a Aika Watanabe, Yusuke Kobayashi, Tamano Matsui, <u>Nobuhiko Okabe</u> , Kiyosu Taniguchi, Tomimasa Sunagawa and Kazunori Oishi
Passive surveillance of rotavirus gastroenteritis-associated hospitalization using nationwide administrative databases in Japan.	J Infect Chemother. 2018 Nov 27. pii: S1341-321X(18)30455-0. doi: 10.1016/j.jiac.2018.11.003.	Kimura T and <u>Okabe N.</u>

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等を含む)
令和元年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)新興再興感染症等健康危機管理推進事業報告書	令和元年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)新興再興感染症等健康危機管理推進事業報告書	井澤智子, 緒方 剛, 亀之園明, 木村竜太, 小泉祐子, 小林祐介, 杉下由行, 鈴木陽, 鈴木まき, 豊川貴生, 中里栄介, 中西香織, <u>三崎貴子</u>
地方感染症情報センターの立場からの感染症発生動向調査の評価と改善に関する研究	厚生労働科学研究「マシギザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究」令和元年度研究報告書	中村廣志, 岸本 剛, 市橋大山, 灘岡陽子, 宗村佳子, 鈴木智之, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 片山 丘, 播磨由利子, 金沢聡子, 吉川聡一, 矢島理志, 神谷信行, 中野道晴
地方感染症情報センターの立場からの感染症発生動向調査の評価と改善に関する研究 地域における感染症情報提供の現状と課題	厚生労働科学研究「マシギザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究」令和元年度研究報告書	中村廣志, 神谷信行, 中野道晴, 市橋大山, <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u> , 灘岡陽子, 鈴木智之
地方感染症情報センターの立場からの感染症発生動向調査の評価と改善に関する研究 一地方感染症情報センターで行う感染症発生動向調査データの収集・分析を支援するツール	厚生労働科学研究「マシギザリング時や新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメントに関する研究」令和元年度研究報告書	中村廣志, 市橋大山, 神谷信行, 中野道晴, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 灘岡陽子, 宗村佳子, 鈴木智之
国による自治体の疫学調査支援についての自治体側からの有用性評価手法に関する研究	厚生労働科学研究「新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の実装に関する研究」令和元年度研究報告書	森永裕美子, 中瀬克己, 松井珠乃, 神谷元, 福住宗久, <u>三崎貴子</u> , 齋藤智也
地方自治体試験施設における人体(血液・尿等)試料中の有害物質の検査法の開発と標準化～試料の取扱いの標準化～	厚生労働科学研究(食品の安全確保推進研究事業)「小規模な食品事業者における食品防御の推進のための研究」令和元年度 総括・分担研究報告書	<u>岡部信彦</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>佐野達哉</u> , <u>吉田裕一</u> , 穂山浩, 田口貴章
カビ毒の分析法の確立と汚染実態調査	厚生労働科学研究(食品の安全確保推進研究事業)「日本国内流通食品に検出される新興カビ毒の安全性確保に関する研究」令和元年度 総括・分担研究報告書	中島正博, 竹内浩, 谷口賢, <u>橋口成喜</u> , <u>佐藤英子</u> , 福光徹, 藤吉智治, 鈴木実東, 森田剛史, 下山晃, 猪之鼻修一, 小杉正樹, 宮崎光代
ISO/IEC17025認定取得に向けた試験所の検討に関する研究	厚生労働科学研究「食品衛生検査を実施する試験所における品質保証システムに関する研究」令和元年度 総括・分担研究報告書	渡辺卓穂, 石井里枝, 菅谷京子, 庄司正, 井上裕子, 吉田栄充, 近藤貴英, 大門拓実, 門倉圭佑, 笹本剛生, 脇ますみ, 高橋京子, <u>橋口成喜</u> , 小池恭子, 栗津薫, 神藤正則, 上田泰人, 米田正樹, 高井靖智, 土山智之, 渡邊敬浩
規格試験法の性能に関する研究	厚生労働科学研究(食品の安全確保推進研究事業)「食品用器具・容器包装等の安全性確保に資する研究」令和元年度総括・分担研究報告書	六鹿元雄, 阿部裕, 片岡洋平, 四柳道代, 阿部智之, 安藤景子, 安藤百合, 石原絹代, 市川義多加, 岩越景子, 生山温子, 内山陽介, 大坂郁恵, 大野浩之, 大橋公泰, 大畑昌輝, 大森清美, 大脇進治, 尾崎麻子, 風間貴充, 河村葉子, 岸 映里, 木村亜莉沙, 桑原千雅子, 小林千恵, 近藤貴英, 齋藤直樹, 佐々木達也, 佐藤恭子, 佐藤 環, 柴田 博, 鈴木昌子, 高坂典子, 高島秀夫, 高橋良幸, 武田勝久, 田中 葵, 田中秀幸, <u>田中佑典</u> , 棚橋高志, 谷 拓哉, 照井善光, 外岡大幸, 永井慎一郎, 中西 徹, 野村千枝, 八田淳司, 花澤耕太郎, 羽石奈穂子, 早川雅人, 平林尚之, 藤吉智治, 堀田沙希, 三浦俊彦, 水口智晴, 宮川弘之, 村山悠子, 藪谷充孝, 山口未来, 山田恭平, 山元梨津子, 吉川光英, 渡辺一成
食品中の食中毒細菌の制御法の確立のための研究	厚生労働科学研究(食品の安全確保推進研究事業)平成30年度総括・分担研究報告書	工藤由起子, 上山昭, 山中拓哉, 高橋幸子, 今野貴之, 山谷聡子, 佐藤千鶴子, 床井由紀, 土屋彰彦, 曾根美紀, 加藤直樹, <u>小嶋由香</u> , <u>阿部光一朗</u> , 磯部順子, 木全恵子, 長岡宏美, 丸山幸男, 望月瑞葉, 赤地重宏, 小林章人, 永井佑樹, 佐伯美由紀, 平塚貴大, 仙波敬子, 丸山浩幸, 原田誠也, 吉野修司, 内山浩子, 福留智子, 高良武俊, 甲斐明美, 新井沙倉, 大屋賢司

(6) 令和元年度その他執筆実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
どうするHPVワクチン—私の意見・提言	外来小児科 22(1):66-70, 2019	岡部信彦
感染症予防策の基本	感染症最新の治療 2019-2021 南江堂 2019.2 P.265-P.268	岡部信彦(編・藤田次郎,竹末芳生,舘田一博)
医療関係者のためのワクチン接種	日本医師会雑誌 148(4):680-684, 2019.	岡部信彦
この10年間で麻疹の常識は変わった!そして今...	愛知県小児科医会報 109(June)4-11, 2019.	岡部信彦
感染症サーベイランスの歩みとこれから	臨床とウイルス 47(3):101-102, 2019	岡部信彦
世界と日本の予防接種制度	予防接種のキホン—第2版. 中外医学社 2019.7 P.12-P.21	岡部信彦(編・寺田喜平)
予防接種に関するQ&A集 2019	日本ワクチン産業会 2019.8	岡部信彦,多屋馨子
2018/2019シーズンのインフルエンザ流行の総括	東京小児科医会報 38(2):3-7, 2019	岡部信彦
HPVワクチンを考える(座談会)	J-IDEO 2(4):464-489, 2018	岩田健太郎,岡部信彦,近 利雄,村中璃子
どうして成人にもワクチンが必要なのか	おとなのワクチン 南山堂 2019.12 P.2- P.5	岡部信彦(編・中山久仁子)

(7) 令和元年度表彰等受賞実績

表彰の名称	学会名等	演題・研究課題名等	表彰者
支部長表彰	平成31年度地方衛生研究所全国協議会関 東甲信静支部		本間幸子 小嶋由香
令和元年度食品 健康影響評価事 業等功労者大臣 表彰			岡部信彦

3 調査研究報告

令和元年度調査研究結果並びに事例等の一部を次ページ以降で報告する。

- (1) 川崎市におけるアメーバ赤痢の発生状況－2007年～2018年の動向について・・・・・・・・・・ 91
(研究責任者：感染症情報センター担当 池田 史朗)

- (2) 川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況及び重症化リスク因子の検討－2018年・・・・・・・・ 92
(研究責任者：感染症情報センター担当 丸山 絢)

- (3) Relationship between real-time influenza surveillance data by age group and circulating virus type in Kawasaki-city, Japan, during epidemics from 2014/15 to 2018/19・・・・・・・・・・ 93
(研究責任者：感染症情報センター担当 丸山 絢)

川崎市におけるアメーバ赤痢の発生状況－2007 年～2018 年の動向について－

○池田史朗、丸山 絢、三崎貴子、岡部信彦
(川崎市健康安全研究所)

【背景及び目的】

アメーバ赤痢は赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) を原因とする消化器感染症である。近年、川崎市における届出数は、増減はあるものの全国と同様徐々に増加している。原因解明のため、過去の発生状況を調査した。

【方法】

2007～2018 年に、川崎市内で「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づきアメーバ赤痢として届出のあった 191 例を対象とし、疫学的特徴をまとめた。

【結果】

川崎市における届出数は、2011 年までは 7～17 例であったが、2012 年以降は徐々に増加し、2018 年のみ 11 例と減少がみられたものの、17～25 例で推移した。対象 191 例中、男性は 87.4% (167 例) で、40～49 歳が 31.1% (52 例) と最多であった。女性は 30～39 歳が 41.7% (10 例) と最も多かった。診断方法 (重複を含む。) は、大腸粘膜組織の鏡検が 62.3%、血清抗体の検出が 33.5% であったが、2018 年は血清抗体の検出はなかった。191 例中 12.0% (23 例) が検診等で明らかな自覚症状がないまま診断されていた。1 例を除く 22 例が届出の増加した 2012 年以降の発生であり、これら 23 例を除く 168 例についても同時期に増加がみられた。168 例の感染地域は国内のみが 79.2% (133 例)、国外のみが 16.1% (27 例) であり、国内のみは性的接触が 27.8% (37 例)、国外のみは経口感染が 63.0% (17 例) と多くを占めた。国内で性的接触により感染した男性は 110 例中 30.0% (33 例) で、女性は 23 例中 17.4% (4 例) であり、男女とも異性間性的接触が各 57.6% (19 例)、75.0% (3 例) と多かった。

【考察】

2011 年の届出様式の変更により「大腸粘膜異常所見」が追加され、自覚症状のない患者も届け出られるようになり、2012 年以降の増加につながったと推察された。また、2017 年には抗体検査試薬の生産が中止され、2018 年の届出数減少に影響を及ぼしたと考えられた。国外感染例に比べ国内感染では性的接触による割合が多く、性感染症としての側面が強いことが示唆される。また、男女ともに異性間性的接触の割合が多いにもかかわらず男性が女性の 4.8 倍であり、男性における何らかの行動が影響していることが示唆された。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況及び重症化リスク因子の検討—2018 年—
川崎市健康安全研究所¹、国立感染症研究所感染症疫学センター²

○丸山 絢¹、八幡裕一郎²、三崎貴子¹、岡部信彦¹

【背景及び目的】

腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症は重症合併症の発生頻度が高く、近年では広域発生も問題となっている。我が国における報告数は、生肉提供に関する規制強化後にやや減少がみられたものの、概ね 4000 件前後で推移している。川崎市における 2018 年の EHEC 感染症の発生状況及び曝露因子を調査し、重症化に関連するリスク因子を検討した。

【方法】

2018 年に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき報告された市内の EHEC 感染症症例 42 例の調査を実施した。調査内容は環境との接触 69 項目及び食品の喫食 97 項目とし、感染症発生動向調査の情報と併せて疫学的特徴をまとめた。また、入院加療の有無と各調査項目の関連について、15 歳以上の 38 例に対し多重ロジスティック回帰分析を行いオッズ比(OR)を算出した。

【結果】

症例の内訳は患者 33 例(78.6%)、無症状病原体保有者 9 例(21.4%)で、8 月(40.5%)に最も多く報告された。症状は腹痛(87.9%)、水様性下痢(78.8%)、血便(63.6%)の順に多く、溶血性尿毒症症候群は 1 例(3.0%)であった。性別は男性 16 例(38.1%)、女性 26 例(61.9%)で、男女ともに 20-29 歳の割合(40.5%)が最も高く全国の 2.1 倍であった。入院加療を受けた患者は 22 例(66.7%)で、男性 9 例、女性 13 例であった。血清群別毒素型別では O157VT1VT2、O157VT2 が各 38.1%と最多で、このうち入院加療を受けた患者の割合は各 61.5%、83.3%であった。また、生のサラダ菜の喫食(OR=16.58, 95%信頼区間(95% CI):1.96-∞, p=0.029)が入院加療の有無と有意に関連していた。

【考察】

全国的に 20 歳代の症例の割合が徐々に増加しているが、2018 年の川崎市における 20-29 歳の割合は特に高かった。また、血清群 O157 の VT2 産生株を原因とする症例が 76.2%を占め、入院加療を受けた割合も高く、重症化した患者が多かったと考えられる。重症化のリスク因子として従来指摘されている肉類ではなく生のサラダ菜の喫食が入院加療の有無と有意に関連していたことから、生野菜を原因食品とする重症例の発生も考慮し、生野菜は十分洗ってから喫食するよう啓発することが重要と考える。

Relationship between real-time influenza surveillance data by age group and circulating virus type in Kawasaki-city, Japan, during epidemics from 2014/15 to 2018/19

Aya Maruyama¹, Shiro Ikeda¹, Takako Misaki¹, Nobuhiko Okabe²

¹Kawasaki City Institute for Public Health, Infectious Disease Surveillance Center, Kawasaki-city, Japan

²Kawasaki City Institute for Public Health, Director General, Kawasaki-city, Japan

Background

In Japan, seasonal influenza epidemics occur every winter. We provide unique real-time influenza surveillance on our website in Kawasaki-city, and collect the number of cases on a daily basis, by type using rapid tests. Approximately 100 medical institutions voluntarily report the number of cases during epidemic periods every season using this system.

Aims

To determine the epidemic pattern(s) of seasonal influenza.

Methods

We examined real-time data by age group and laboratory-based surveillance data by circulating virus type/subtype during the epidemic periods from the 2014/15 to 2018/19 seasons.

Results

Children aged 5-9 years comprised the greatest proportion of influenza cases every season. Although the 5-season average of this group was 19.1% for type A and 27.9% for type B, the proportion of type A cases was remarkably high in the first week of epidemic periods (27.6%). Especially in the A(H1N1)pdm09-dominated 2015/16 season, the proportion of children in the under 10 years age group (39.8%) was greater than those in the other 4 seasons (28.4%-32.5%). In the 2015/16 and 2016/17 seasons during which the B/Yamagata and B/Victoria lineages co-circulated, the proportions of the less than 15-year age group were 58.6% (2015/16) and 71.9% (2016/17), which were much greater than in the other 3 seasons (40.7%-45.5%).

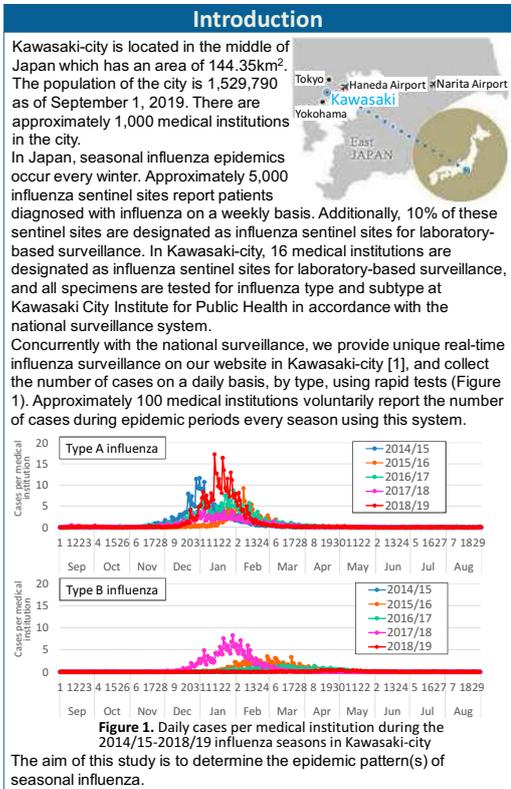
Conclusion

A rapid increase in the number of type A cases aged 5-9 years is a good indicator of a seasonal epidemic. The epidemic pattern of seasonal influenza and the pediatric incidence rate depend on the virus types/subtypes in the epidemic period.

Relationship between real-time influenza surveillance data by age group and circulating virus type in Kawasaki-city, Japan, during epidemics from 2014/15 to 2018/19

Aya Maruyama¹, Shiro Ikeda¹, Takako Misaki¹, Nobuhiko Okabe²

¹Kawasaki City Institute for Public Health, Infectious Disease Surveillance Center, Kawasaki-city, Japan
²Kawasaki City Institute for Public Health, Director General, Kawasaki-city, Japan



Methods

We examined real-time data by age group and laboratory-based surveillance data by circulating virus type/subtype during the epidemic periods in the 2014/15 to 2018/19 seasons. The epidemic periods were defined as weeks when over 100 cases per week were reported, on the basis of national surveillance.

Results

As for type A influenza, during each epidemic period, A(H3N2) viruses were isolated/detected predominantly in the 2014/15 (98.4%) and 2016/17 (98.9%) seasons. Conversely, in the 2015/16 season, A(H1N1)pdm09 viruses accounted for 85.7%. In addition, both A(H1N1)pdm09 and A(H3N2) viruses were isolated/detected in the 2017/18 and 2018/19 seasons (Table 1). As for type B influenza, the 2 lineages of the type were both isolated/detected; B/Yamagata (respectively 62.3% and 19.3%) and B/Victoria (respectively 33.3% and 80.7%) in the 2015/16 and 2016/17 seasons. The 2017/18 season was characterized by the predominance of the B/Yamagata lineage, which accounted for 94.2% (Table 1).

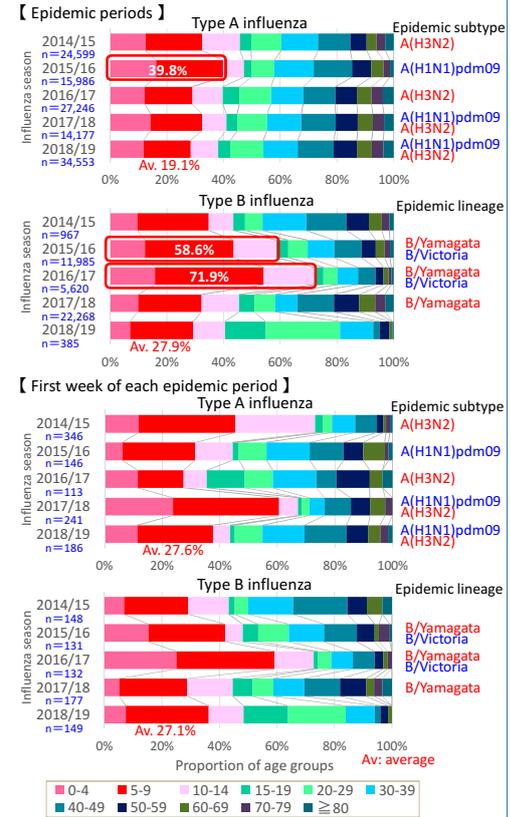
Table 1. Isolation/detection of influenza viruses during the 2014/15-2018/19 epidemic periods in Kawasaki-city

Type A influenza (%)				
Influenza season	A(H1N1)pdm09	A(H3N2)	Total	Epidemic period
2014/15	2 (1.6)	122 (98.4)	124	18 weeks
2015/16	84 (85.7)	14 (14.3)	98	15 weeks
2016/17	2 (1.1)	177 (98.9)	179	22 weeks
2017/18	50 (49.5)	51 (50.5)	101	18 weeks
2018/19	55 (38.5)	88 (61.5)	143	14 weeks

Type B influenza (%)					
Influenza season	B/Yamagata	B/Victoria	B NT	Total	Epidemic period
2014/15	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3	7 weeks
2015/16	43 (62.3)	23 (33.3)	3 (4.3)	69	15 weeks
2016/17	11 (19.3)	46 (80.7)	0 (0.0)	57	16 weeks
2017/18	98 (94.2)	2 (1.9)	4 (3.8)	104	13 weeks
2018/19	0 (0.0)	5 (71.4)	2 (28.6)	7	3 weeks

B NT: B lineage not determined

Children aged 5-9 years comprised the greatest proportion of influenza cases in each season. Although the 5-season average of this group was 19.1% for type A and 27.9% for type B, the proportion of type A cases was remarkably high in the first week of epidemic periods (27.6%). Especially in the A(H1N1)pdm09-dominated 2015/16 season, the proportion of children in the under 10 years age group (39.8%) was greater than those in the other 4 seasons (28.4%-32.5%). In the 2015/16 and 2016/17 seasons during which the B/Yamagata and B/Victoria lineages co-circulated, the proportions of the less than 15-year age group were 58.6% (2015/16) and 71.9% (2016/17), which were much greater than in the other 3 seasons (40.5%-45.5%) (Figure 2).



Discussion

Our study shows that the 5-9 year age group had the highest proportion of infection regarding both type A and B influenza. Notably about type A influenza, our data revealed that this age group was initially infected and then spread the influenza to other age groups. This coincides with previous studies indicating that schoolchildren are efficient propagators of influenza transmission in the early stage of epidemics [2-4]. Moreover, our data suggests that children in the under 10 years age group born after 2009 were susceptible to A(H1N1)pdm09 virus because of a lack of pandemic-induced immunity [5]. While type A influenza affects all age groups throughout the epidemic period, type B influenza is likely to infect children, especially the 5-14 year age group [6]. Additionally, our study shows that it was more likely to infect these ages during the seasons when the different type B lineages were co-circulated.

Conclusion

A rapid increase in the number of type A cases aged 5-9 years is a good indicator of a seasonal epidemic. The epidemic pattern of seasonal influenza and the pediatric incidence rate depend on the virus types/subtypes in the epidemic period. Furthermore, real-time surveillance is an effective tool for identifying the early stage of an epidemic, and also for preparing for the next pandemic influenza.

References

- Kawasaki city Infectious Disease Surveillance System. Available online at: <https://kidss.city.kawasaki.jp/en/modules/topics/>
- Mossong J, Hens N, Jit M, Beutels P, Auranen K, Mikolajczyk R, et al. Social contacts and mixing patterns relevant to the spread of infectious diseases. PLoS Med. 2008;5(3):e74.
- Beraud G, Kazmierczak S, Beutels P, Levy-Bruhl D, Lenne X, Mielcarek N, et al. The French connection: the first large population-based contact survey in France relevant for the spread of infectious diseases. PLoS One. 2015;10(7):e0133203.
- Wallinga J, Teunis P, Kretzschmar M. Using data on social contacts to estimate age-specific transmission parameters for respiratory-spread infectious agents. Am J Epidemiol. 2006;164(10):936-44.
- Skowronski DM, Leir S, De Serres G, Murti M, Dickinson JA, Winter AL, et al. Children under 10 years of age were more affected by the 2018/19 influenza A(H1N1)pdm09 epidemic in Canada: possible cohort effect following the 2009 influenza pandemic. Euro Surveill. 2019;24(15).
- Anne M, Saverio C, Isabelle D, Elodie N, Tan TB, Emmanuel D, et al. Clinical characteristics are similar across type A and B influenza virus infections. PLoS One. 2015;10(9):e0136186.

【第5章 職員に関する事項】

1 人事記録

(1) 異動(出)

年月日	役職	氏名	配属先
H31.4.1	担当係長	石丸 陽子	健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所理化学検査係長
H31.4.1	主任	渡部 喜則	市立看護短期大学事務局総務学生課
H31.4.1	主任	上野 彩子	健康福祉局保健所感染症対策課
H31.4.1		新田 礼子	川崎区役所地域みまもり支援センター衛生課
H31.4.1		遠藤 康寿	健康福祉局保健所食品安全課
H31.4.1		窪村 亜希子	幸区役所地域みまもり支援センター衛生課
H31.4.1		清水 智美	病院局市立井田病院検査科

(2) 異動(入)

年月日	役職	氏名	前所属
H31.4.1	課長補佐	泉 浩人	教育委員会事務局学校教育部健康教育課担当係長
H31.4.1	主任	横山 さゆり	健康福祉局生活保護自立支援室主任
H31.4.1	主任	田中 佑典	環境局環境総合研究所地域環境・公害監視課
H31.4.1		福島 和弥	健康福祉局保健所食品安全課
H31.4.1		畠山 理沙	健康福祉局保健所感染症対策課
H31.4.1		田中 友	宮前区役所保健福祉センター衛生課

(3) 内部異動

年月日	役職	氏名	所属
H31.4.1	主任	栗田 史子	昇任
H31.4.1		江原 庸	残留農薬・放射能から食品へ異動
H31.4.1		安宅 香織	水質・環境から残留農薬・放射能へ異動

2 職員名簿（平成 31 年 4 月 1 日現在）

担当理事
（所長）

技術職員 岡部 信彦

担当部長
（副所長）

事務職員 渡邊 藤夫

〔総務〕

担当係長 事務職員 佐藤 剛一
主任 同 横山 さゆり
主任 同 藤田 智丈
主任 技術職員 梅田 裕一
事務職員 成田 哲治

〔企画調整〕

担当部長 技術職員 三崎 貴子

〔企画調整〕

担当係長 技術職員 谷口 晃子
同 畠山 理沙

〔感染症情報センター〕

担当係長 技術職員 丸山 絢
同 池田 史朗
同 田中 友

〔理化学〕

担当課長 技術職員 橋口 成喜

〔食品〕

担当係長 技術職員 吉田 裕一
主任 同 佐藤 英子
主任 同 赤星 千絵
主任 同 栗田 史子
同 江原 庸

〔水質・環境〕

課長補佐 技術職員 泉 浩人
主任 同 小林 亨
主任 同 田中 佑典
同 牛山 温子
同 高居 久義

〔残留農薬・放射能〕

担当係長 技術職員 岸 美紀
主任 同 佐野 達哉
同 安宅 香織
同 江崎 康司

〔微生物〕

担当課長 技術職員 本間 幸子

〔消化器・食品細菌〕

課長補佐 技術職員 小嶋 由香
同 阿部 光一朗
同 佐々木 国玄
同 安澤 洋子
同 福島 和弥

〔呼吸器・環境細菌〕

担当係長 技術職員 湯澤 栄子
主任 同 原 俊吉
同 淀谷 雄亮

〔ウイルス・衛生動物〕

課長補佐 技術職員 清水 英明
主任 同 駒根 綾子
同 松島 勇紀
同 若菜 愛澄

令和元年度
川崎市健康安全研究所年報
第7号(通巻第55号)

令和2年度発行

発行・編集 川崎市健康安全研究所

所在地 〒210-0821

川崎市川崎区殿町 3-25-13

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階

TEL 044(276)8250

FAX 044(288)2044

印刷 清光堂印刷株式会社